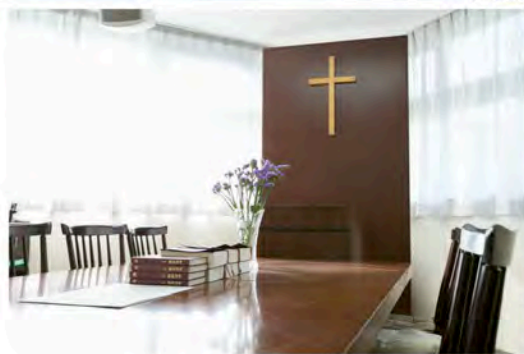


2021 年度 年報

Eikoh-kai Group Annual report



次

理事長・総院長挨拶	1	・ 外来/内視鏡/手術室中材	58
I 社会医療法人 社会福祉法人 栄光会 概要		・ 3 A病棟 (ホスピス)	60
・ 栄光会創立の精神・理念、基本方針	4	・ 3 B病棟 (ホスピス)	62
・ 社会医療法人栄光会の概要	5	・ 2 C病棟 (ホスピス)	65
・ 社会医療法人栄光会の沿革	9	・ 4 A病棟	67
・ 社会医療法人栄光会の歴史	10	・ 4 B病棟	69
・ 栄光会グループ 組織図	13	・ 5 A病棟	71
・ 栄光会グループ 職員状況	14	(3) 医療事務	
・ 外来診療予定表	15	・ 医事課	74
II 社会福祉法人 栄光会の現況		・ 診療情報管理室	75
1 特別養護老人ホーム ころろ	18	2) 栄光会ファミリークリニック	82
III 社会医療法人 栄光会の現況		3) 栄光会訪問看護ステーション	85
1 地域連携室		3 介護事業本部	88
・ 患者サポートセンター	24	・ 栄光会ケアプランサービス	90
・ ホスピス地域連携室	26	・ 介護付き有料老人ホームかめやま	92
2 医療事業本部		・ 栄光会通所リハビリテーション	93
1) 栄光病院		・ 栄光会ヘルパーステーション	94
・ 総合診療科	28	・ 介護事業本部栄養管理課	95
・ 循環器内科	29	4 伝道部	98
・ 呼吸器内科	30	5 地域協働部	102
・ 糖尿病・内分泌内科	31	6 ボランティア統括部	106
・ 消化器内科	33	7 本部事務局	110
・ 外科・消化器科	34	・ 財務・経理課	111
・ 脳神経内科	36	8 その他	
・ ホスピス	37	・ 医療安全管理委員会	114
・ 在宅医療センター栄光	40	IV 研修状況	
・ 健診センター	42	1 院内・院外研修状況	
(1) 診療技術部		・ 新入職員研修実施状況	120
・ 薬剤課	46	・ 第13回TQM研究発表会	121
・ 放射線室	48	・ 院内研修会 実施状況	122
・ 臨床検査室	49	・ 看護部院内研修	123
・ リハビリテーション課	50	・ 院外研修・院外発表の状況	124
・ 栄養管理課	51	2 対外研修の状況	
・ 医療機器安全管理室	52	・ 栄光杯セミナーこれまでの歩み	132
(2) 看護部		・ 2021年度院外からの研修	138
・ 看護部長挨拶	54		
・ 看護部の理念	55		
・ 2021年度看護部目標	56		
・ 2021年度看護要員推移	57		

新たな栄光会を目指して

社会医療法人 栄光会 理事長

井上 裕

栄光会は昨年9月に創始者の一人である名誉会長・下稲葉康之先生を失いました。長く腎疾患を患われており透析に移られ、しばらく安定されていましたが、9月2日未明ついに82歳の生涯を閉じられました。本当に長い間、栄光会のために頑張られ、基盤づくりからその発展に尽くされ感謝の言葉もございません。安らかにお眠りくださることを心から祈念するものです。私は2021年7月から院長を併任する形で理事長職に就任いたしました。栄光会40年の歴史を継続することと、下稲葉先生のご逝去、更には2年目に入ったコロナ感染症蔓延における法人運営というまことに大きな課題に直面しております。職員一人ひとりの協力をお願いし、全力でこなしていく所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

本年は過去の40年に出来上がった栄光会の様々なシステムを広く見直し、時代と現在の栄光会にふさわしいシステムに作りかえる初年度としたいと思います。ここ数年で多くの部署で創生期からの先達が引退され、第2世代ともいべき若い方々がトップに立っていますが、良いタイミングだと思います。体系的にここで記述することはできませんが、まず看護部の再編として「看護管理室」の創設を行い、更には「患者サポートセンター」と「ホスピス地域連携室」の統合という大きな組織改革を行う予定です。この他にも、いくつかの部署の再生を予定しております

コロナ感染症では栄光会も大きな打撃を受けました。病院内クラスター感染こそ起こしていませんが、個々の部署では継続的に複数の感染者が出ております。コロナの経験をつむにつれ、栄光会では職員の意識も向上し、組織内での自発的対応が可能な極めて優秀な組織体に成長しているように感じます。経営的には、極めて困難な二年間となりましたが、with CORONAを自覚し地域で必要とされる医療を淡々と前向きにおこなっていく所存です。

以上新しい栄光会はすでにスタートしています。職員一同、一致団結し今後の栄光会発展のためによりよくご協力をお願いします。

2022年度に臨んで

社会医療法人栄光会 総院長

折田 泰彦

40年前の建院当初の目標は、ホスピスを備えたキリスト教病院を！ということでした。

その後、明確になって来た建院の理念は「これらのわたしの兄弟たちに、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたし（キリスト）にしたのです。」という聖書の言葉が病院を導く聖句となり、キリストに仕えるように患者さんに仕えることが、病院を導く理念となっています。

そのように仕えれば、患者さんの感謝で癒されるという「癒し、癒される」との言葉が標語となり職員の心を支えています。

創立以来、①地域医療、②救急医療、③ホスピス、④健康管理（健診）という具体的目標を掲げ、それを担当する人材を充てて来ました。

患者さんは「身体的訴え」と同時に、患者さん自身も気づいていない「人格を尊重して！という根源的訴え」を持っています。栄光会はこの二つのニーズに応えようという明確な目標を持っています。

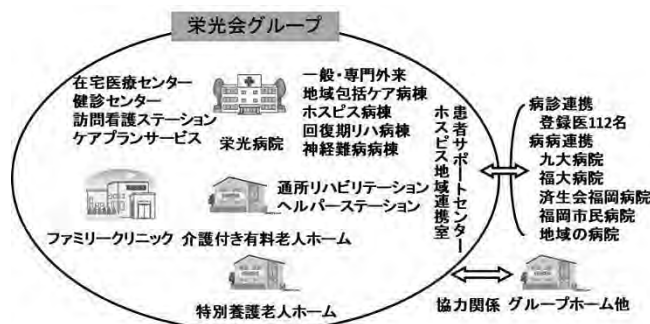
そのため、最新の医療技術や知見、設備の導入及びそれに見合った人材育成に取り組むのみならず、尊厳を尊んでほしいというニーズに応えるため、「心の面」の教育に配慮しています。そのため、週三回の朝礼や、学会、研修会などへの出席を奨励しています。

発足当時以来、自己完結型の療養施設の必要を感じ、次第にそれが増え、グループ（総勢500人弱の職員）に発展してきました。1昨年度はこどもクリニックと亀山クリニックが合併して「栄光会ファミリークリニック」として、新しくオープンしました。

これらすべての施設に「ホスピスの心を」というのが私どもの目標です。もちろんこれらのためには、自助努力以外に、神様の守り、各地の協力牧師やその教会の祈り、地域の方々や、医師会、大学病院、金融関係などのご理解と協力なしにはできないことです。

今後に向けて：日本の医療環境は、新型コロナやウクライナ紛争の例を引くまでもなく、グローバル化の波に翻弄されているという事実は否めません。今まで、「ホスピスの心」で①患者サービスに注力したことが、②病院経営、③職員満足度という、企業の三大基本要件の残り二つを引っ張ってきました。

初期の栄光病院を支え、これまで先頭に立って指導してきた三人も、藤江医師、下稲葉医師は既に天に召され、私だけが残されました。けれども、次の世代の皆さんが、これからもキリスト教病院としての精神、「ホスピスの心」を堅持しつつ時代の荒波を乗り越え、地域の皆様や時代の要請に応えて、未来に向かって柔軟に対応して欲しいと願っています。



社会医療法人 栄光会 社会福祉法人 栄光会 概要

栄光会創立の精神・理念・基本方針

栄光会創立の精神

この最も小さい者の一人にしたのは
わたし(キリスト)にしてくれた
ことなのである。 ～ 聖書 ～

栄光会理念・基本方針

癒し癒される

- キリスト信仰に基づいた全人的で最善の
医療・看護・介護を目指します
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族 そして職員も
互いに癒し癒される関わりづくりに励みます
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族の
権利・プライバシーを尊重します
- 地域の医療機関・介護福祉施設と連携し
総合的なサービスの提供に努めます
- 患者さん・利用者の方々の全生涯にわたり
その幸せと生きがいづくりに尽くします

【栄光病院】

外来

24 時間、いつでもみなさんが最善の診療が受けられるような診療体制を整え、院内の各科や地域の医療関係機関との連携を図って、一人ひとりの患者さんを総合的に診療しています。また、同時に地域医療の充実と向上に努めています。

- 総合診療科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 外科
- 脳神経内科
- 糖尿病内科
- 泌尿器科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 肛門科
- ホスピス外来（相談）

在宅医療・訪問看護・在宅ホスピスケア(在宅医療センター、訪問看護ステーション)

高齢化社会の到来や新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、在宅医療・訪問看護の必要性は高まるばかりです。当法人ではいち早く専従・専任のドクター・看護師チームを組んで 24 時間・365 日いつでも訪問できる体制をとりました。具体的には'90 年代後半には訪問看護ステーションを開設し、'06 年 4 月には栄光会傘下の「亀山クリニック」について『在宅療養支援診療所』の認可を得るとともに、'10 年 4 月には「栄光病院」が『在宅療養支援病院』としての認可を得、病院及び両クリニックとの連携強化を行いました。そして、'13 年 4 月には「在宅医療センター栄光」をオープンし、より一層充実した在宅医療を推進しています。'18 年 6 月には、「栄光会訪問看護ステーション」を栄光病院敷地内に移転し、病院との連携をさらに強化しております。'20 年 5 月、亀山クリニックとこどもクリニックを統合し開設した「栄光会ファミリークリニック」(『在宅療養支援診療所』)においても、在宅医療にさらに積極的に取り組んでおります。

健康診断・ドック・栄養相談(健診センター)

’12年7月に健診センターが稼働を開始し、日頃の健康管理によって病気を未然に防ぎ、病気を早期発見するため、高血圧・ガン・心臓病などの成人病予防の各種成人病検診、人間ドック、内視鏡検査、健康・予防意識の向上を図る働きが強化されています。今後、健康に関するデータを情報システムによって把握・管理し、さらに充実した予防医療の取り組みを行っていきます。

リハビリテーション

体力回復や術後の機能回復について、パワーリハビリ機器を完備したリハビリテーションルームの運用に加えや病棟・ベッドサイドでの訓練も行っています。専門のスタッフが一人ひとりの患者さんに合ったプログラムでバックアップします。

救急医療

栄光病院は二次救急告示病院として、地域住民のみなさま方の急な発熱・痛みや苦しみ、突発的な事故などにも対応できる設備やスタッフで24時間・365日体制の医療を行っています。またその実績が認められ、2009年12月、社会医療法人として認可されています。

オープンシステム（開放型病院）

地域医療の向上・充実のため、医師会との協力のもとに、開放型病院として取り組んでいます。今後はさらに機能を充実させ地域医療を担う病院として、地域の皆様の期待に応えていく所存です。

【クリニック】

●栄光会ファミリークリニック

診療科目：内科・小児科・呼吸器内科・アレルギー科

栄光会ファミリークリニックは、’20年5月に、「亀山クリニック」「栄光会こどもクリニック」を統合し、運営を開始しました。

『全世代型のクリニック』として、これまで以上に患者さんに信頼される身近なかかりつけ医として地域に根ざした医療を実践するとともに、栄光病院における専門医療・検査・入院などとの連携を密にしています。また在宅療養支援診療所として患者さんやご家族の要望に応えるため在宅医療を強力に推進しています。

【介護保険事業】

介護は医療・看護と一体でなければならないという理念のもとに、栄光会ファミリークリニックに併設する「医療介護施設かめやま」を中心として、'00年4月介護保険法施行とともに、次の通り関連事業に着手しています。

【関連事業】

- 栄光会ケアプランサービス（居宅介護支援事業所）
- 栄光会訪問看護ステーション（訪問看護、訪問リハビリテーション）
- 栄光会ファミリークリニック 栄光会通所リハビリテーション（デイケア）
- 介護付き有料老人ホーム「かめやま」
- 栄光会ヘルパーステーション（訪問介護）

【栄光病院の施設概要】

栄光病院は、その源流を昭和初期 炭鉱付属として診療を始めた亀山病院に求められます。地域住民の皆様からの厚い信頼を受けてきた伝統を受け継ぎ'86年4月、キリスト教主義の病院として その名も福岡亀山栄光病院に改め、現在の医療介護施設かめやまの地に新築・移転しました。その後'99年9月には特別医療法人の認可を受け(それと同時に病院名を「栄光病院」に改名しました)、'05年11月には現在の地に新築・移転オープンしました。さらに'09年12月には救急医療の実績が認められ新たに「社会医療法人」の認可を受けました。つねに患者さんのニーズにお応えすべく各種施設を備えています。

●許可病床数 178 床

●看護単位 外来 ・ 6 病棟

【内訳】 緩和ケア病棟 A ・ B ・ C 3 病棟 (71 床)

看護配置 7 : 1

地域包括ケア病棟 (45 床)

看護配置 13 : 1

障害者施設等入院基本料病棟 (28 床)

看護配置 10 : 1

回復期リハビリテーション病棟 (34 床)

看護配置 13 : 1

- 救急指定病院 24 時間受診可
- 健診センター
- 重症患者管理施設
 - 心拍、呼吸、血圧監視装置
 - 人工呼吸器、除細動器
 - 心臓ペースメーカー(体外式)
- 消化器内視鏡室
- 気管支鏡検査
- リハビリテーション施設
 - 各種リハビリテーション施設
 - 各種理学療法機器(含 電気ハリ)
 - パワーリハビリ機器
- 中央材料室
- MR I
- 16 列マルチ・スキャンCT
- X線透視撮影装置
- マンモグラフィー
- 迅速血液ガス・電解質測定装置
- 心臓超音波装置
- 腹部超音波診断装置、その他

社会医療法人栄光会の沿革

昭和の初頭	亀山病院(炭鉱付属病院)としてスタート
昭和55年10月	院長 下稲葉 康之 就任
昭和56年 5月	院長 藤江 良郎 就任
昭和57年 4月	救急指定病院 認可
昭和61年 4月	福岡亀山栄光病院(キリスト教主義の病院として現「医療介護施設かめやま」の地に移転)
平成 元年 5月	栄光ホスピスセミナー第1回を開催
平成 2年 4月	ホスピス病棟増築
平成 2年 9月	緩和ケア病棟認可(西日本初 全国で5番目)
平成 3年 7月	医療法人 福岡亀山栄光病院 認可 在宅医療・訪問看護及びデイケア(通所リハビリテーション)スタート
平成 4年 3月	病院納骨堂の建立
平成 5年 2月	ホスピス110番開設
平成11年 9月	特別医療法人 栄光会 栄光病院 認可(福岡県では初、全国で3番目)
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い居宅介護支援等介護関連8事業に着手
平成12年 7月	開放型病院認可
平成13年12月	病院機能評価 V. 3 受審(平成14年2月 認定)
平成15年 4月	社会福祉法人 援助会「聖ヨゼフの園」(北九州市八幡西区)譲受
平成15年 8月	診療所 栄光会クリニック博多の森 開設
平成17年11月	新病院竣工、移転 及び 亀山クリニック開設
平成18年 4月	介護保健施設「グロリア」、特定施設入所者生活介護「かめやま」開設
平成19年 2月	病院機能評価 V. 5 更新・受審(平成19年3月 認定)
平成20年 1月	下稲葉 康之 理事長、藤江会長 就任(藤江会長は平成25年12月末で退任)
平成20年 3月	病院機能評価 付加機能 緩和ケア受審
平成21年12月	社会医療法人 栄光会 認定(福岡県では4番目)
平成23年 4月	住宅型有料老人ホーム「安息」・栄光会ヘルパーステーション 開設
平成24年 1月	病院機能評価 V. 6 更新・受審(平成24年4月 認定)
平成24年 4月	栄光病院新館 竣工(ホスピス病棟、健診センター 他)
平成24年 5月	ホスピス新病棟稼働、病棟再編成
平成24年 7月	健診センター稼働
平成25年 9月	栄光会こどもクリニック開設(栄光会クリニック博多の森を小児科に)
平成26年 5月	社会福祉法人 栄光会 発足
平成27年 4月	下稲葉理事長 『栄光会フィロソフィ(経営理念)』上梓
平成27年 8月	特別養護老人ホーム「こころ」開業
平成29年 1月	病院機能評価 3rd Ver: 1. 1 更新・受審(平成29年4月 認定)
平成29年 7月	社会医療法人 栄光会 会長 下稲葉康之、理事長 青戸雄司 就任 社会医療法人 栄光会 栄光病院 院長 井上裕 就任
平成30年 5月	ケアプランサービス・訪問看護ステーション 移転(栄光病院敷地内へ)
平成30年 9月	介護老人保健施設「グロリア」 閉鎖
平成30年12月	住宅型有料老人ホーム「安息」 休止
令和 2年 5月	栄光会ファミリークリニック 開設(亀山クリニック・栄光会こどもクリニック統合)
7月	社会医療法人 栄光会 名誉会長 下稲葉康之 就任
令和 3年 7月	社会医療法人 栄光会 理事長 井上 裕 就任 社会福祉法人 栄光会 理事長 青戸雄司 就任

■ 社会医療法人栄光会の歴史

『 私たちは「こころ」も「からだ」もともに癒され
幸せに生きる医療・看護・介護”を目指しています』

社会医療法人 栄光会 はキリスト教の精神に基づいて、健康管理、日常診療、救急医療、在宅医療、終末期医療(ホスピスケア)などの医療とともに、介護事業も強力に推進し、人間の全生涯にわたり、地域に開かれた医療・看護・介護を目指して取り組んでいます。悩みや痛み、苦しみを共にし、「こころ」も「からだ」も癒される医療・介護の充実と、同時に患者さん・ご利用者・ご家族など一人ひとりの幸せと生きがいに応えることを目指しています。

炭鉱病院からキリスト教病院に

社会医療法人 栄光会 栄光病院は昭和の初め、志免町亀山に炭鉱付属の亀山病院としてスタートしました。時代は移り変わり、エネルギー革命によって石炭が石油へと転換されると、炭鉱は閉山。亀山病院は付属病院としての使命を終え、地域の一病院として診療を続けていました。'70年代～'80年代の亀山病院は、老朽化が激しく、消防署などから再三改築を迫られる状態でした。そのような中'86年4月、旧病院を 現・医療介護施設かめやま の地に新築移転しました。当時、院長であった藤江良郎医師(元・会長)は、下稲葉康之医師(現・名誉会長 兼 名誉ホスピス長)、折田泰彦医師(現・総院長)らと共に、キリスト教病院として、福岡亀山栄光病院と名前も新たに再出発させたのです。

それは、これまでの診療に加え、まだ「ホスピス」という言葉になじみのない頃に、終末期医療に真正面から取り組む全国的にも珍しい存在の病院でした。

地域の人々の理解と協力に支えられ

キリスト教病院としての再スタート直前、町内会・婦人会・老人クラブなどの代表4～5人が訪ねてこられました。そしてこんな質問をされました。「クリスチャンではない私たちも、診てもらえるのでしょうか?」。地域の方からの素朴な質問です。栄光病院の藤江元会長、下稲葉名誉会長(兼名誉ホスピス長)、折田総院長の3人をはじめ、スタッフの10%程はクリスチャンで、栄光病院の医療精神はキリストの癒しを礎としています。一方、地域には仏教徒や無宗教の方もたくさんおられます。栄光病院は、宗派や信仰の有無に関係なく、24時間診療や訪問看護にあたっています。地域の方々に「クリスチャンであろうがなかろうが一切関係ありません」とお答えしたところ、ある日、病院に大きなふろしき包み2個が届けられました。開けてみると手縫いの雑巾がぎっしりつまっていて、「ぜひ病院で使って下さい」という言葉が添えられていました。このように栄光病院を中心とする栄光会各施設は創立の時から、このような地域の方々の理解と、多くの教会関係者の祈りと支えによって、現在があるのです。

人と人のふれあいを通して

栄光病院の診療内容は内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科・麻酔科・肛門科など 150 床からスタートしました。すぐにベッドは満床になり、その数か月後に 178 床に増床し、その内、24 床がホスピス病棟でした。当初、ホスピスは一般病棟と混在でしたが、'90 年 3 月、念願のホスピス病棟が完成し、'98 年 5 月には 36 床に増床、'05 年 11 月、病院の移転を機に 50 床へ増床しました。その後も、地域の患者さん、関係医療機関からの強いニーズに応える形で、'12 年 6 月に、新病棟の増築・病棟再編をおこない、ホスピス病棟 71 床という全国で最大の病床規模を有する病院になりました。栄光病院では旧病院時代の'82 年から終末期医療に取り組んでいます。告知を受けている、いないにかかわらず、終末期の患者さんにとって、いたずらな延命医療より心と身体を共に癒すケアを目的にして安らかな生活を送ることを大切にしています。最善の医療設備の他に、病院や施設の建物内には礼拝堂を設け、患者さんやご家族、関係者などの結婚式や前夜式（お通夜の事です）・お葬式も執り行っています。一見、医療とは関係ないことのように思われますが、医療の目的は人間の幸せ。患者さんの人生をトータルに考えると、医療の中で「死」は決してタブー視すべきものではなく、希望と喜びをもって「死」を迎えることができるかどうか大切です。それは、死を目前にしたある患者さんが言った「私はこんなに幸せでいいのでしょうか」という言葉に集約されるのではないのでしょうか。その根底には、患者さんとそのご家族、医師、看護師などのスタッフ、牧師やボランティアのみなさんなどとの心と心のふれあいがあります。

そして、未来へ。

栄光病院は'99 年 9 月、特別医療法人として、医療の安定性及び持続性を確保するため新設された法人として、福岡県では 1 番目、全国で 4 番目の認可を得ました。

同じ'99 年には開放型病院の認可を受け、地域の開業医の先生 110 名ほどが賛同登録するなど病診連携が順調に進んでいます。数年前より紹介率は 20%を超える状況となっています。

'01 年には、病院の質的レベルの評価を受けるために、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(V.3)の審査を受け、'02 年 2 月に認定を得ました。その後'07 年には「病院機能評価」の初めての更新を受け(V.5)、翌年 緩和ケア病棟 50 床について「病院機能評価付加機能」として評価をいただきました。更に'12 年 1 月には 2 度目の更新(V.6)、『17 年 1 月には 3 度目の更新(3rdG Ver : 1.1)を無事執り行うことができました。2022 年度には 4 度目の更新審査の受審予定です。

'03 年には、旧病院から同じ志免町内ではあるものの約 0.7km 西方の地に、新病院建築を計画し、'05 年 11 月竣工、移転しました。また旧病院は増改築工事を経て、1F は亀山クリニック（現・栄光会ファミリークリニック）として、その上階には介護老人保健施設「グロリア」や介護付き有料老人ホーム「かめやま」などを('06 年 4 月竣工)を併設、運用するようにしました(この施設を総称して法人内では「医療介護施設 かめやま」と称しています)。

以上により、医療、看護、介護を 3 本柱とする、より地域に密着した病院及びその関連施設を完成させたことになりました。その後、『11 年には新たに住宅型有料老人ホーム「安息」の稼働とリハ

ビリテーション機能の強化を目的とした「通所リハビリテーション」の拡充も行っています。

一方、'09年12月には社会医療法人としてより一層公益性の高い法人格の認可も受けました。これは24時間365日の救急医療の実績が認められたことによるものです。

その後、病院においては'11年度より新病棟の建築に入り('12年4月竣工)、同年6月より病棟再編による新体制、同年7月より新「健診センター」がスタートするなど大きな変化の年となりました。また、'13年4月には、「在宅医療センター栄光」がオープンし、在宅医療に一層注力しています。また、「栄光会クリニック博多の森」が小児医療に特化する事となり同年9月より「栄光会こどもクリニック」としての運営が始まりました。更には福岡県による'14年事業としての特別養護老人ホーム申請(80床、内ショートステイ10床)が認められ、その名も特別養護老人ホーム「こころ」としました。その後も着々と計画は進み、'14年5月には社会福祉法人 栄光会が発足し、その理事長には社会医療法人 栄光会 の下稲葉名誉会長が兼務で就任しました。その後'14年9月には特別養護老人ホーム「こころ」が着工し、予定通り'15年7月には竣工、同年8月より開業の運びとなりました。また、'20年5月には、亀山クリニックと栄光会こどもクリニックを統合し、全世代対応・地域密着のクリニックとして「栄光会ファミリークリニック」の運営を開始しました。コロナ禍にあって、ワクチン接種業務、発熱外来、また在宅医療にも積極的に取り組んでいます。

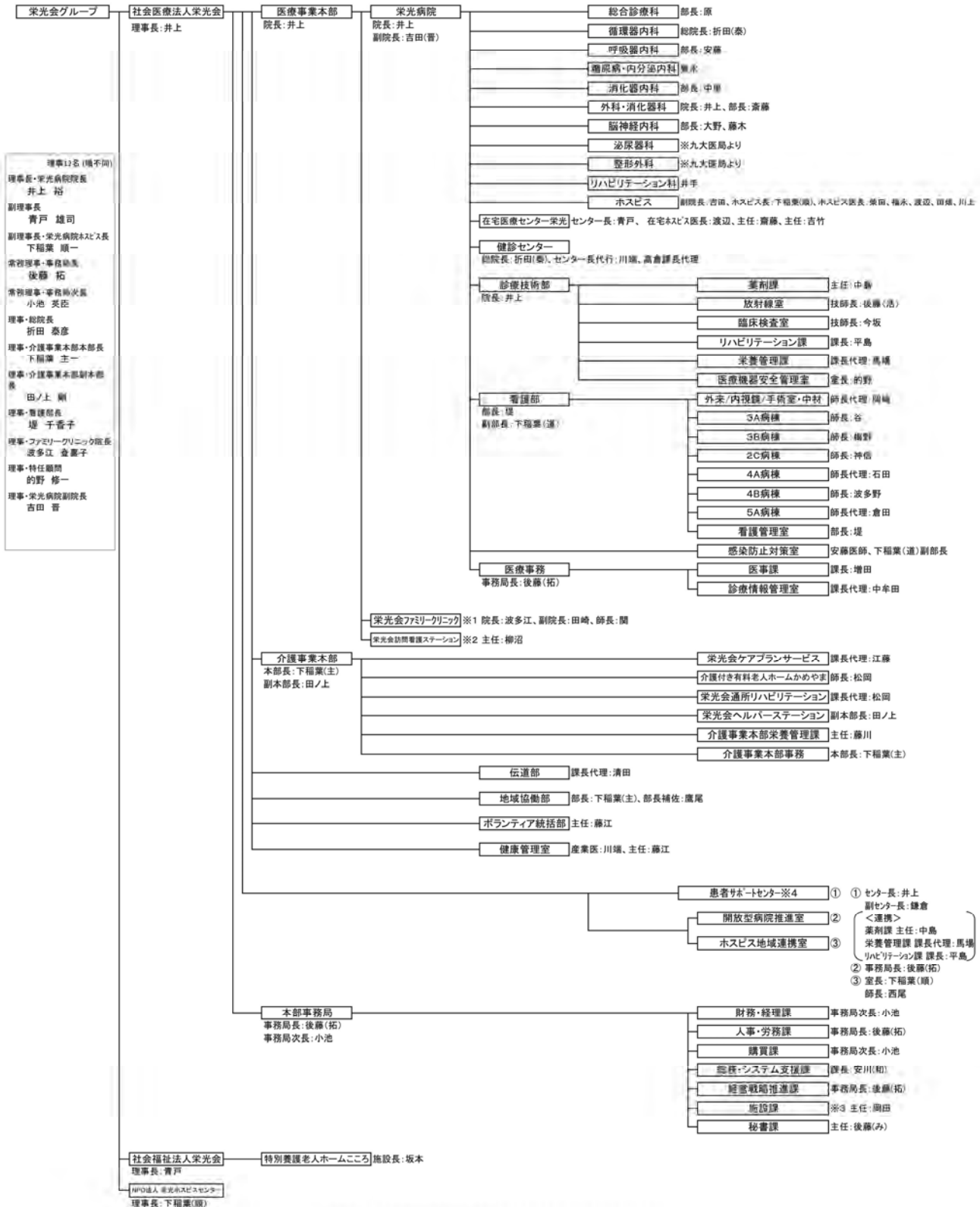
'21年9月2日、法人創立者の一人である名誉会長・下稲葉康之が逝去いたしました。大きな柱を失ったことにはなりますが、志を同じくする栄光会スタッフとともにこの難局を乗り越えていくべく、日々邁進しております。

現在、社会医療法人・社会福祉法人合せると職員数450名を超える大所帯となりました。栄光会グループとしては、産婦人科を除く全ての人生ステージに対応する医療・看護・介護の体制を有しています。今後、地域医療を担う医療機関としての機能を一層向上させ、市中の大規模病院や地域の診療所との連携をさらに密にすることによって、地域住民のみなさまが安心して暮らせる地域医療圏完結型の医療体制を構築し、在宅医療と介護・福祉を統合した患者さん・利用者の方々・ご家族のトータルな支援ができる体制を築き上げたいと思っています。

これからも、建院の理念であるキリスト教精神、栄光会創立の理念を今一度心に刻み、患者さん・ご利用者・ご家族の幸せと生きがいのために、スタッフ一同心と力を合わせて、なお一層励んで参ります。

栄光会グループ組織図(2022. 04. 01. 現在)

※敬称略



※1 : 栄光会ファミリークリニックは、看護師の人事教育責任は看護部が、事務職員の人事教育責任は医療事務が有するものとします。
 ※2 : 栄光会訪問看護ステーションは、看護師の人事教育責任は看護部が有するものとします。
 ※3 : 介護事業本部における施設課職員は、本部事務局の「施設課」に所属するものとします。
 ※4 : 患者サポートセンターは、看護師の人事教育責任は看護部が有するものとします。

■ 栄光会グループ 職員状況 (2022. 04. 01. 現在)

理事長 兼 院長(病院)	1	臨床検査技師	5
総院長	1	薬剤師	3
副理事長	2	放射線技師	5
院長(クリニック)	1	チャプレン	1
副院長(クリニック)	2	管理栄養士	5
医師・常勤	14	歯科衛生士	1
医師・非常勤	1	臨床工学士	2
事務局長	1	本部事務職員	16
看護部長	1	医療事務職員	16
看護師	184	クラーク	12
准看護師	6	診療情報管理士	2
保健師	1	健診事務職員	4
ケアワーカー	80	医療介護施設 事務職員	10
ケアマネージャー	9	夜間管理	1
相談員	5	送迎職員	3
理学療法士	20	生活サポーター	2
作業療法士	14	宿直	4
言語聴覚士	6	休職中	18
音楽療法士	1	派遣職員	2
助手	2		
合 計			464

[事業所別内訳]	栄光病院	339
	医療介護施設かめやま	70
	特別養護老人ホームこころ	55

■ 外来診療予定表【栄光病院】(2022. 04. 01. 現在)

曜 日		月		火		水		木		金		土	
		午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後
総 合	①	原	藤 木	布 巻	原	青 戸	安 藤	原/安藤	豊 永	豊 永	青 戸	原/安藤	手 越
	②	当番医		鶴 田		原		斎 藤		鶴 田		手 越	
	③			豊 永									
外 科		井 上		井 上		井上/斎藤		斎 藤		斎 藤		井上/斎藤	
専 門 ・ 予 約 外 来	循 環 器					畑 島	折田義	折田加	吉 武				
	呼 吸 器				安 藤					安 藤		城 (第1土曜) 常岡 (第3土曜)	
	糖 尿 病		豊 永			豊 永			福 永 (再診のみ/15時迄)				
	脳 神 経 内 科	鶴 田		大 野		藤 木		大 野		藤 木			
	整 形 外 科		山 口	本 村				原雄人 (am10:00~)					
泌 尿 器 科												九 大	
内 視 鏡		中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	原(第4週除く)	原(第4週除く)	中 里	中 里
気 管 支 鏡							安 藤						
※ 予 約 制 ホ ス ピ ス 関 係	ホスピス相談	吉 田 下稲葉順 福 永 田 畑 川 上		下稲葉順 福 永		(吉 田) 柴 田 福 永 川 上		吉 田 下稲葉順 川 上		柴 田 田 畑 (川 上)	(吉 田)	(吉 田) 柴 田 田 畑 (川 上)	
	ホスピス外来	吉 田 下稲葉順 柴 田 田 畑 (渡 辺)		下稲葉順 柴 田 川 上 (渡 辺)	福 永 16:00~	下稲葉順 (渡 辺)	福 永 16:00~	吉 田 下稲葉順 (渡 辺)		田 畑 (渡 辺)	福 永 15:00~		
健診センター	①	折田泰	折田泰	折田泰	折田泰	川 端	(川 端)	折田泰	折田泰	折田泰	折田泰	折田泰	(川 端)
	②	川 端	川 端	川 端	川 端	布 巻		川 端	川 端	川 端	川 端	川 端	

※注) 表中の表示について「/」・「隔週」の意味。表示医師が原則交代で担当します。

○診療時間は、午前9時～午後5時00分（昼休み12時30分～13時30分）となっています。

○午前中の受付は12:00までとなっておりますのでご注意ください。

○午後の診療終了間際の受付につきましては、検査等、診察時間の兼ね合いから、夜間当直医の診療へ切り替わることがありますので、ご了承ください。

○急患は何時でも受け付けております。

○「専門外来」は、原則として予約制です。ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

なお、ご予約に関するお電話は、午後(13:30-17:00)にお願いいたします。

(緊急はその限りではありません)

○「ホスピス相談・ホスピス外来」は、予約制です。事前に必ずお電話でご予約ください。

○月が変わった時は、あらためて保険証をご提示ください。

■ 外来診療予定表【栄光会ファミリークリニック】(2022. 04. 01. 現在)

内科・呼吸器内科・アレルギー科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
波多江	—	波多江	—	手越	—	波多江	—	波多江	—	波多江	—

小児科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—

社会福祉法人 栄光会 現況

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム こころ

施設長 坂本 久美子

こころ方針

おもてなしの心で 入居者さまお一人お一人の

幸せと生きがいのある生活をサポートします

概要

7年目を迎えた特養こころは、全室個室型のユニットケアを提供しています

入居70名＋（短期入所）ショート10名の定員80床

要介護3から要介護5までの方が入居対象です。平均要介護度4.1です

事務スタッフ5名 看護師4名 機能訓練士1名 管理栄養士1名 介護士40名

看護師は夜間オンコール体制です。

2022年度 目標

感染予防に努め入居者が安心して生活できる場所を確保する

1) 感染予防に努めた稼働を継続する

コロナは消滅することなく続いており、今年度も、感染症の発生予防が重要な第一の目標になっていきます。ショートの稼働を目指すのは、コロナの終息を待ってからと考えています。

昨年度は申し込みの方で、キーパーソンが外国籍の方がおられましたが、リモートでの面談を行い入居して頂く事ができました。コロナ禍で困難な事も多いですが、何とか稼働を確保していきたいと思えます。

感染予防については、今年度も、実践研修会を行いスタッフ一人一人が身に付けていきます。

スタッフがコロナを持ち込まない様、日常生活に気を付けています。

コロナ禍において、入居者が楽しく生活できる場所とは遠い状況ではありますが、今年度もレクリエーションに力を入れ健康で少しでも季節感があり、美味しい物を食べ、日々の生活を楽しく安心して過ごしていただける施設を目指します。

2) 介護職の看取り教育、育成を継続する

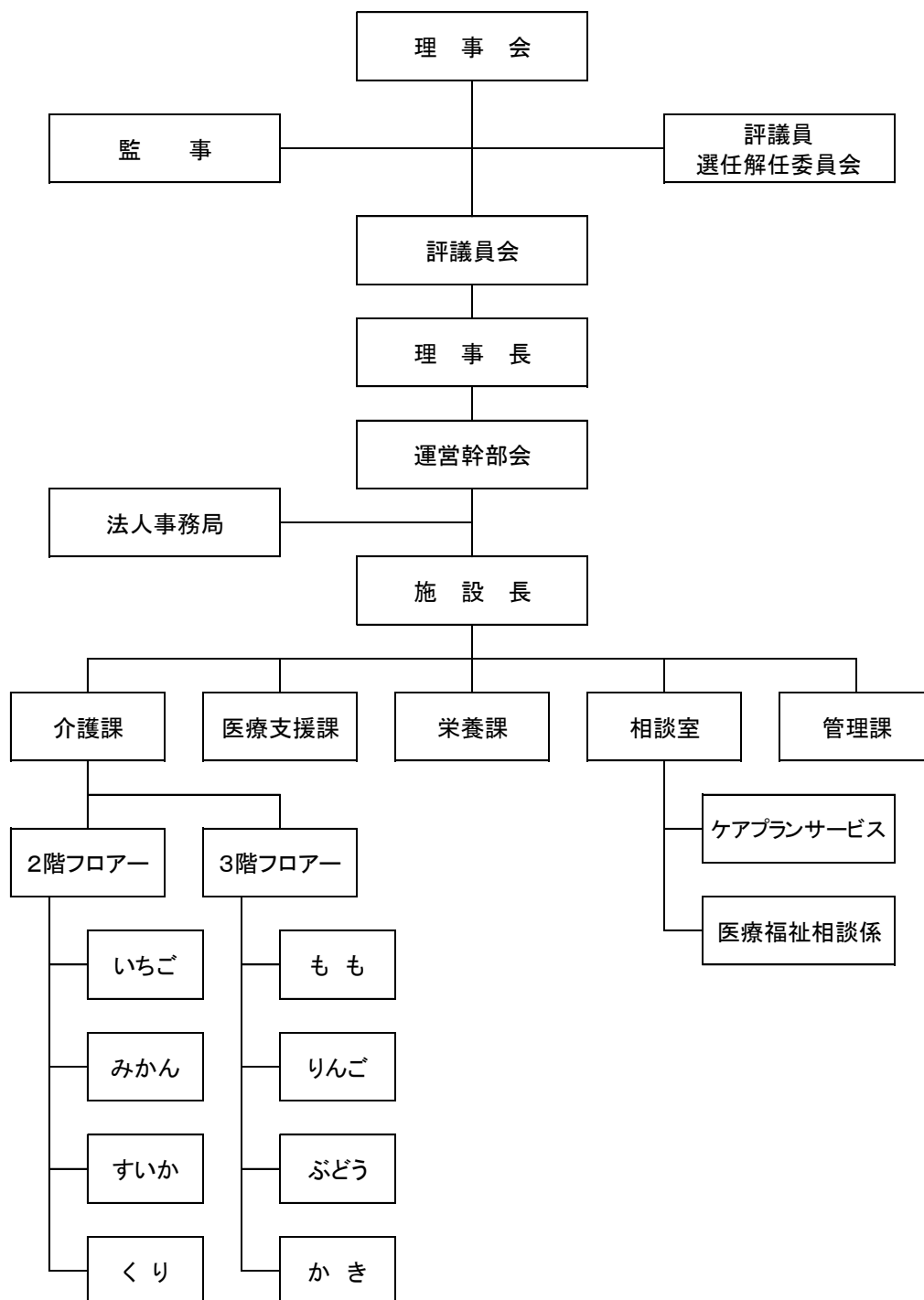
コロナ禍の為にリモート研修や施設内研修を行い、各職員のモチベーションアップを図っていきます。

開設時からこれまで221名の入居がありました。そのうち136名の死亡（110名の看取り）

です。2021年度の看取りは22名です。（2022年3月31日現在）

コロナ禍で、ご家族の面会も十分できない状況ですが、感染予防対策を行いながら、可能な限り短時間での面会を確保していきたいと思います。看取り教育・育成としては、実践研修を継続。エンゼルメイク、デスカンファ（亡くなられた方に対するスタッフの思い）等を通し手紙の書き方など多岐にわたる内容をテーマに、施設研修を合わせてリモート研修なども積極的に活用していきたいと思います。 今年度もとにかく感染予防に努め、コロナ禍を乗り越えたいと思います。

社会福祉法人 栄光会 組織図



社会医療法人 栄光会 現況



医療事業本部

■ 患者サポートセンター

センター長 井上 裕
副センター長 鎌倉 富雄

職場紹介

1. 職員構成

○前方支援（看護師）

副センター長：鎌倉 富雄

副主任：和田 真知子

古賀 悦子

末永 理絵子

山田 佳代

○後方支援（MSW）

副主任：斉藤 直子

矢羽田 有希子

2. 業務内容

・入退院支援 ・医療福祉相談（患者相談） ・地域医療連携（病病連携） ・広報活動 その他

2021年度を振り返って

患者サポートセンターの主な役割である入退院支援を前方・後方支援の看護師とソーシャルワーカーが一連の流れで協力連携を取り、入院前からの退院支援に必要な患者情報を収集に始まり、入院後の患者家族に寄り添った転帰先調整を行うなどして、流れと纏まりのある役割を果たすことができた。今だに続くコロナ渦のリスクが高い状況の中で、何度も往復する患者情報を確認し、安心、安全に入院受入れができるようにも努めた。しかし、後方支援のソーシャルワーカーのマンパワー不足があり、体制を整えたあとも教育や指導に関わる時間や負担、ストレスなども重積することとなり課題となった。ソーシャルワーカーの退院支援を含む相談件数についても、その影響もあり、4694件（2020年度）をピークとして年々増加の一途をたどっていたが（表①）、3351件（2021年度）と大幅に減少している。要因としてはマンパワー不足であったため、病棟各所での対応を協力してもらっていた影響と考える。回復期リハビリテーション病棟の体制強化加算に伴うソーシャルワーカーの専従要件も目途が立たず、現状維持での対応となった。

2021年度もマンパワー不足と体制が十分取れなかったこともあったが、それぞれのスタッフが自分の役割を果たし、協力連携をもって力をあわせて乗り越えることができた。一年一年、纏まりのある部署となり、スタッフが体調を崩すことなくこの一年を終えたことを感謝する。

患サポスローガン：「患者さん・ご家族に寄り添った入退院支援をめざそう！」
～患サポの心は一つ！いつも笑顔はつなげよう～

2022年度に向けて

ホスピス地域連携室との統合、診療報酬改訂に伴う体制の構築、病院機能評価受審に向けた取り組みなど課題があるが、患者さん、家族、地域の方に寄り添い、信頼と安心が与えられるような質の向上を目指していきたい。

2016年度～2021年度 相談受付延べ件数 (表①)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
4 月	364	311	250	254	365	249
5 月	381	299	309	253	369	267
6 月	353	319	290	258	453	294
7 月	317	303	293	305	484	301
8 月	334	322	319	320	487	330
9 月	286	267	234	326	485	250
10 月	338	294	257	416	470	309
11 月	293	300	216	400	365	341
12 月	290	275	203	372	345	273
1 月	290	298	204	353	312	252
2 月	346	282	195	326	278	240
3 月	341	311	242	357	281	245
計	3933	3581	3012	3940	4694	3351

※2018年度は9月より、入院相談を別に集計しております。

2021年度 入院相談件数

	4A	4B	5A	お断り キャンセル	その他 (ホスピス等)	計
4 月	19	5	7	4	1	36
5 月	17	4	10	8	0	39
6 月	14	4	10	3	2	33
7 月	23	6	11	7	1	48
8 月	21	4	11	6	1	43
9 月	16	6	8	10	2	42
10 月	25	3	10	10	0	48
11 月	19	5	12	6	1	43
12 月	30	5	14	5	0	54
1 月	20	2	9	9	0	40
2 月	18	3	5	1	0	27
3 月	20	6	7	12	1	46
計	242	53	114	81	9	499

職場紹介

1. 職員構成

室長：下稲葉順一 師長：西尾雅代 看護師：安井道子 事務：田中陽子

2. 業務内容

- ・ホスピス110番としてホスピスに関する問い合わせに対応
- ・ホスピス相談日程調整
- ・ホスピス相談後、ホスピス病棟案内
- ・ホスピス外来予約対応
- ・転院受け入れ時の感染の有無の確認（当院感染委員会規約に沿う）

2021年度を振り返って

ホスピス相談の件数は693件（2021年度）、前年度683件（2020年度）であり、年々増加している。新型コロナウイルス感染症によりスタッフの人員不足が慢性的に続き、急いで緩和ケアへ転院調整したいが、当院のスタッフ体制が整わず、転院のタイミングを逸して、患者・家族に期待に応えられない時期が続き難渋したが、相談後の入院計画は289名で、前年度261名よりも増加している。外来フォローは78名と減少した。在宅医療においては77名で年々依頼が増加しており、在宅医療センター栄光に医療機関やケアマネージャー、訪問看護ステーションから、急な依頼にホスピス相談も兼ねて往診対応で早急な医療提供となっている。平均在院日数が年々短くなっているが、計画的入院以外に外来フォローから病状悪化により緊急入院も多いが、新型コロナウイルス感染予防対策として、面会制限、外出・外泊禁止に伴い家族との時間を作るために再入院日を決めて短期間退院するケースが増えたことや、予後が厳しい状態でホスピス相談の依頼となるケースが増えていることにも由来していると考えられ、入院数が退院数に及ばず、病棟稼働率が維持できない現状もあった。また、転院計画後に、入院元でPCR陽性者となったり濃厚接触者となったりし感染予防の観点より転院を延期させていただくケースも数件あった。終末期医療においてタイミングの大切さを痛感した。

2022年度に向けて

自宅で癌の診療を受けている方々で、病状が悪化し選択肢を考慮する時間もなくホスピスへ依頼となるケースも増えている。地域医療に奮闘しておられるクリニックの医師、CM、福祉事業所等との連携の強化にも努めていきたい。

年度統計

2019年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
直接入院	2	1	1	2	4	5	5	3	2	0	3	5	33	47%
入院希望	23	22	19	30	24	20	26	22	22	22	22	27	279	
外来フォロー	4	14	16	13	4	10	5	5	13	12	6	4	106	16%
在宅	4	2	4	5	3	1	2	5	5	6	4	2	43	7%
連絡待ち	12	14	22	18	21	17	21	15	12	13	19	13	197	30%
合計	45	53	62	68	56	53	59	50	54	53	54	51	658	内訳

外来開始	30	15%
在宅開始	8	14%
入院	54	27%
他院	4	2%
紹介元で看取り	5	3%
治療中・連絡なし	96	49%

2020年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
直接入院	2	3	3	4	1	3	4	2	4	0	1	3	30	38%
入院希望	29	23	18	21	19	18	24	18	17	19	15	10	231	
外来フォロー	13	11	9	9	8	10	8	11	8	6	10	12	115	17%
在宅	4	2	2	7	4	4	2	5	9	5	7	7	58	8%
連絡待ち	26	23	29	20	29	15	22	13	15	19	12	26	249	36%
合計	74	62	61	61	61	50	60	49	53	49	45	58	683	内訳

外来開始	33	13%
在宅開始	14	6%
入院	77	31%
他院	29	12%
紹介元で看取り	23	9%
治療中・連絡なし	73	29%

2021年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
直接入院	2	2	2	1	3	1	0	0	2	2	0	1	16	42%
入院希望	27	19	27	18	30	21	28	23	20	25	14	21	273	
外来フォロー	5	3	5	5	8	6	10	4	8	8	7	9	78	11%
在宅	3	4	9	11	6	6	5	9	7	4	3	10	77	11%
連絡待ち	19	15	25	23	21	14	16	22	25	19	19	31	249	36%
合計	56	43	68	58	68	48	59	58	62	58	43	72	693	内訳

外来開始	48	19%
在宅開始	15	6%
入院	55	22%
他院	27	11%
紹介元で看取り	20	8%
治療中・連絡なし	84	34%

職場紹介

1. 職員構成

原 一生 : 総合内科専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医
 青戸 雄司 : 総合内科専門医
 安藤 俊二 : 呼吸器専門医 アレルギー専門医 内科認定医
 豊永 雅恵
 布巻 直美
 鶴田 裕子 : 内科認定医 神経内科専門医
 手越 静子

2. 診療内容

総合内科では下記の範囲の診療を行っています。

- ① 生活習慣病の管理
- ② 急性熱性疾患の精査・治療
- ③ 各種疾患のプライマリケア

2021年度を振り返って

COVID-19の影響もあり、インフルエンザ他の感染症患者が昨年度同様に激減した。玄関先での検温や発熱者受診時のゾーニング、防護具の着用、手洗いの徹底、院内にてCOVID-19迅速抗原キット・核酸検査を導入し院内感染対策を行った。

また、オミクロン株による第6波では感染者数も多く、発熱外来担当医による診察を行った。

2022年度に向けて

ワクチン接種が進む中であるがオミクロン株による第6波、Ba.2株による第7波が懸念され本年度も院内感染対策を継続しつつ、上記診療を行う。

年間統計

2021 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診	166	230	205	232	250	178	181	185	221	386	327	228	2789
再診	1229	1158	1208	1250	1232	1157	1276	1203	1296	1179	1259	1455	14902
計	1395	1388	1413	1482	1482	1335	1457	1388	1517	1565	1586	1683	17691

職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立以来、循環器内科の外来部門と病棟部門にたくさんの患者さんを抱えていました。急性心筋梗塞は、当時大学病院もすぐには受け入れてくれず、自院で、I V C Rで対応するか久留米の新古賀病院に頼み込むということで対応していました。心臓カテーテル検査の施設を導入するかどうかの決断を迫られて、多額の費用と人員を必要とすることから断念し、現在に至っています。大学その他の施設もすぐ急性心筋梗塞を取ってくれるようになり。今は対応できるようになっています。外来は非常勤医師で週2日（全日）対応しており、慢性疾患は、造影C Tや心エコー、トレッドミル、ホルターE C Gで対応しています。

2. 職員構成

1) 外来部門

医 師：折田加奈子	木曜午前
畑島 皓	水曜午前
折田義也	水曜午後
吉武智亮	木曜午後
折田泰彦	月曜午後&随時

2) 病棟部門

急性期でなくて、対応できそうな患者さんのみ受け入れ、内科の先生方が担当しています。循環器内科の常勤医が待たれるところです。

3. 診療内容

心臓カテーテル検査とR I 検査以外は、冠動脈C T、心エコー、ホルターE C G、トレッドミル、頸動脈エコー等ほとんどの検査を検査室の助けを借りて行っています。

2021年度を振り返って

九大循環器内科からの先生方が、引き続き診療していただき、助けてもらっています。時々救急来院される患者さんは九大や済生会福岡病院などにお世話になっています。昨年度同様、年度初頭から新型コロナの影響で他科同様、深刻な打撃を受けました。

2022年度に向けて

急性の循環器疾患も受け入れることができるように循環器内科の常勤医のリクルートが望まれます。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門

常勤医師 安藤 俊二

非常勤医師 （九州大学より月2回）

病棟部門

安藤 俊二（4A病棟医長）

2021年度を振り返って

本年度は常勤医師1名（安藤）、外来のみの非常勤医師1名の体制で診療を行いました。

非常勤医師は月2回の土曜日の午前の診療で、健診での胸部レントゲン異常の精査も行っています。当科の主な検査は気管支鏡検査ですが、2021年度は0件で、肺癌診断における気管支鏡検査は遺伝子解析が求められており、当院での肺癌診断のための気管支鏡検査は困難となり、他院に紹介しています。

入院診療は4A病棟で行いました。本年度の入院総数は93例で、2020年度より約4例、2019年度より47例減少し、コロナ禍における病院全体の稼働率の低下が当科にも影響していると考えます。疾患別では肺炎（細菌性、誤嚥性）が14例と最も多く、全体の15%を占めています。睡眠ポリグラフィー検査目的の入院が1例で、睡眠時無呼吸症候群の診断、CPAP療法の導入、導入後のCPAP圧の再評価を行っていますが、新規症例は減少傾向です。慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）の急性増悪が5例、気管支喘息発作での入院はなく、吸入ステロイドを主体とした外来治療が定着したためと考えています。肺癌は4例、治療後の経過観察、ホスピス目的の入院が主でした。呼吸器疾患以外では心不全が9例、尿路感染症が8例、その他の疾患が48例で、特に脳梗塞後、脳出血後のリハビリ目的（回復期リハビリテーション病棟への移行も含めて）が多く、呼吸器疾患以外の一般内科診療も全体の52%と多岐に渡って行いました。

2022年度に向けて

外来診療では患者数の増加に伴い、待ち時間も増加していることが問題であり、効率的な診療、予約時間、人数の調整を行ない、待ち時間の減少を目指します。

入院診療では常勤医師1名のため、重症例の受け入れは困難ですが、患者様のQOLを重視した治療を御家族、コメディカルスタッフともコミュニケーションをとりながら行っていきたいと考えています。

当院では新型コロナウイルス感染症の治療目的での入院は行っていないませんが、治療後のリハビリテーション、経過観察目的での転院受け入れは、急性期病院との連携を取りながら行っていきます。

地域包括ケア病棟としての診療、退院支援の再考、稼働率の向上を目指して、よりコスト意識を持った診療を心がけていきたいと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門・病棟部門： 常勤医師 豊永 雅恵

2. 診療内容

看護師（糖尿病療養指導士）・管理栄養士とチームを構成し、糖尿病専門外来を行っています。医師による診察の他、看護師による保健指導、外来教育、フットケア指導・胼胝処置、栄養士による食事指導など多職種が専門性に特化した指導を行い、更に連携することにより、専門外来として厚みのある診療を行っています。

また、予防医学として合併症の定期検査も重要であり、眼底検査・ABI・頸動脈エコー・心エコー・負荷心電図検査等を組み、また癌の合併も多く、腹部エコー・CT・消化管内視鏡検査等も必要に応じ組みます。検査により、専門施設でのPCI治療・CABG手術を行ったケースや癌の手術に繋がったケースもあります。

近年、透析導入患者の増加が医療経済上問題視されており、年間医療費が1兆7000億円と総医療費の4%を占め、少子高齢化が進む中で社会保障の運営が厳しくなる懸念があります（糟屋地区の透析導入率は他地域より高い）。中でも、糖尿病性腎症が原疾患として第1位となっており、腎臓専門医に紹介する手前の早期の段階での、血糖の厳格管理を含めた進行予防が重要と考え、当院においても、専門チームによる透析予防指導を行っています。

毎年、HbA1c・血圧・eGFRの維持・改善者の割合を厚生局に報告しており、尿中アルブミン量も含め、改善を認めています。

食習慣・生活習慣の変化や高齢化などにより糖尿病患者は年々増加しており、全ての患者が糖尿病専門施設にかかることは現実的に困難です。しかしながら、患者自身は上記のような合併症の定期検査や重症化防止に専門施設での診療を望んでおり、それを実現化するため、全国的に“糖尿病地域連携パス”の取り組みが進められています。普段は、かかりつけ医で診療を受けながら、半年～年に1回は専門施設で治療の見直しや合併症検査、生活指導を受けるといったものです。当院でも、この“地域連携パス”に取り組んでおり、現在、登録医の先生方よりご紹介頂き、連携パスを運営中です。

病棟では、主に糖尿病教育入院・血糖コントロール入院（術前血糖コントロールを含む）を行っており、教育入院については、2週間コースの他、軽症者・働き盛りの患者向けの1週間コースも行っています。病状や患者の理解度等によりますが、最短で2泊3日コースもあります。看護師・栄養士・薬剤師・運動療法士とチームを構成し、当院では集団教室ではなく、患者への“個人指導”を特徴としており、患者様の都合により、入院日を調整できます。

2021年度を振り返って

・糖尿病地域連携セミナーの代わりとして、『症例検討・診療に役立つ情報』を紙面にて、連携施設の先生方・看護師様宛に発送しました（2021／5月・8月・11月・2022／2月）

○2021年5月 症例検討⑥回目＋医師

「高齢者における糖尿病治療薬の選択について」

○2021年8月 症例検討⑦回目＋医師

「効率よく筋肉を増やすには・体内時計について」

○2021年11月 症例検討⑧回目＋医師

「経口GLP-1Aリベルサス錠について」

○2022年2月 症例検討⑨回目＋医師

「減塩のコツについて」

・現在、院内のCDE取得者は9名で、次年度も受験予定者がおります。

・2022年4月より始まる『粕屋地区CKD・糖尿病対策連携システム』の糖尿病専門医療機関として協力依頼あり、登録しました。

2022年度に向けて

糖尿病地域連携診療、糖尿病教育入院、外来透析予防指導を充実させ、継続していきます。

2022年4月より始まる『粕屋地区CKD・糖尿病対策連携システム』の糖尿病専門医療機関としても、地域貢献していきたいと思っております。

院内においては、勉強会（・学会）・資格取得などでレベルアップをはかっていきます。

職場紹介

1. 職員構成

消化器内科部長兼内視鏡センター長： 中里 貴浩

2. 消化器内科と消化器内視鏡センターの診療内容

- ・消化器内科では内視鏡を用いた検査と治療、胃瘻交換、PTEGなどを行っています。
- ・内視鏡センターでは、健診経鼻から拡大内視鏡を用いた精密検査、ESDなどの特殊治療まで幅広く検査や治療を行ってきました。
- ・センターの装備は、オリンパスELITE2台、上部6本（290Z、HQ290、1200N 2本、XP290N 2本）、下部2本（PCF290ZI、PCF-PQ260L）、ERCP1本（JF260V）、炭酸ガス送気システム2台、Solemio QUEVなどです。
- ・センターでは検査室2室を、医師1名、外来看護師（うち内視鏡技師4名）、洗浄員1名で、運営しています。

2021年度を振り返って

- ・コロナ禍の中でも、上部検査は復活傾向あり、前年度比3.7%増加しました。一方下部は1.6%減少しました。
- ・前年度は、癌の発見数が大幅に減少しましたが、今年度は胃癌16%、大腸癌320%、前年度よりも増加しました。
- ・進行癌の占める割合は、胃29%、大腸56%で、特に大腸の進行癌が増加しています。
- ・内視鏡センターでは、BCPの一環として、放火・刃物殺傷テロ対策訓練を昨年8月から開始しました。

2022年度に向けて

- ・大腸検査の減少と進行癌比率上昇は、コロナ禍での受診抑制によるものと考えられ、ハイリスク群に対する受診勧奨と便潜血検査が今後重要と思われます。
- ・我々の施設では、専門研修、感染対策、テロ対策を行い、「安全・安楽・高精度」をモットーに、これまで通り意欲的に内視鏡検査を行っていきます。

診療実績

- ・2021年度は、2935件（上部2558件、下部377件）の内視鏡検査を行い、胃癌6例、大腸癌25例を発見しました。
- ・大腸ポリペクトミー127件、止血術2件、PEG9件、その他消化管異物除去など9件の特殊治療を行いました。胃瘻交換は43件でした。

職場紹介

1. 職員構成

院長： 井上 裕

部長： 斎藤 純

2021年度を振り返って

本年度の外科スタッフは常勤医2名体制であり、病棟入院患者は5A回復期リハビリ病棟と合わせ常時20名程度が外科常勤医の受け持ち患者であった。栄光病院外科は2017年3月をもって手術場を閉鎖し全身麻酔による手術治療を中止した。その後5年が経過し消化器系疾患（急性期疾患および術後リハビリ）および整形外科リハビリを中心に入院患者さんを診察・治療してきた。新型コロナウイルス感染症の蔓延も二年となったが、2020年の稼働率の極端低下は2022年後半に回復傾向を示している。ようやくwith CORONA体制が現実化してきた。

外科診療を充実させるため2021年度に工夫したこと

- 1) 消化器センターとの連携を深め、適切症例を可及的すみやかに地域の中核病院に紹介し、治療（手術）終了後の療養を中心に病棟業務を組み替えたが、順調に多くの外科系病院と連携が取れている。
- 2) 従来糟屋地区および福岡市の中核病院の医師との定期的ミーティング（年二回）を開催してきたが、本年度もコロナ禍にて密な関連を保つことができなかった。
- 3) 患者サポートセンターが稼働することで入退院が一元化でき従来よりもスムーズな診療を行えるようになった。
- 4) 院長・部長の井上が2021年7月から栄光会理事長を兼任することとなり、業務量の見直しから、入院患者主治医数を減らした。
- 5) 2022年1月より5A病棟リハビリ専従医として井手医師が赴任した。5Aの回復期患者は脳血管とともに整形外科も井手医師が担当することとなった。4)と併せて、外科系の患者は主として4A病棟において斎藤医師が適切数を主治医担当している。

今後の展望

- 1) 外科外来手術やその他消化器疾患については今後も積極的に診察・治療（外来・入院）を続ける予定であり、外来患者の増加を図り更に外来治療の充実については努力していく所存である。
- 2) 乳癌検診については本年度ようやくデジタル・マンモグラフィーが導入された。検診センターの充実とともに被検者数の拡大に努めていきたい。

- 3) 整形外科専門医の週3回外来診療と密に連携を取りながら診療を一層充実させていくつもりである。
- 4) コロナ感染症が常態化する中で、感染対策を一層充実させることでなるべく多くの患者の入退院を図るべく努力を続けたいと考える。
- 5) コロナ感染症が一日も早く収束することを願いつつ、2022年度の外科診療を続けていきたいと考える。

統計資料

特になし

職場紹介

1. 職員構成

常勤医： 大野 雅治、呉屋 五十二

非常勤医：鶴田 裕子（外来のみ）

2. 診療内容/業務内容

神経疾患（脳血管障害、認知症、てんかん、神経系感染症、末梢神経疾患、筋疾患、神経難病、頭痛など）を中心とした診療、病院の需要に応じて総合内科外来診療、脳波判読、筋電図・神経伝導検査施行、NST回診（呉屋医師）、訪問診療（大野医師）

担当病棟：神経難病センター、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟

2021年度を振り返って

4B病棟（神経難病センター）の稼働率は昨年度に比べ改善した。レスパイト入院の件数は前年度より増加した。これらは神経難病の方に対応する施設としての認知度が高まったことと関連があると思われる。一方、COVID-19の感染拡大に伴う面会禁止・制限のため入院をためらうケースもみられた。訪問診療の件数は増えており、これも感染拡大の影響があると思われる。

2021年末まで脳血管障害を診療できる回復期リハビリテーション病棟担当医不在の状態が続き、呉屋医師が専従医としてこれに携わった。

神経伝導検査・筋電図検査数は前年度同様であった。

2022年度にむけて

診療の質の向上

4B病棟の目標稼働率の達成、そのための適切な入退院調整、他病院との連携。

神経難病患者を受け入れ、そのQOLの向上を目指す。

在宅療養支援のため定期的なレスパイト入院、訪問診療。

画像検査（特にMRI）や神経筋生理学的検査を積極的に行う。

2021年 年間統計

脳神経内科外来患者数：2623

訪問診療：12件（パーキンソン病 5、筋萎縮性側索硬化症 2、多系統萎縮症 2、
脊髄小脳変性症 1、脊髄炎 1、ミオパチー 1）

検査件数：CT 350、MRI 158、エコー 140、脳波 16、神経伝導検査・筋電図 31

レスパイト入院：9名、28件

4B病棟稼働率（月別平均、%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
82	79	82	83	84	80	90	90	90	93	88	89	86

職場紹介

1. 職員構成

副院長・ホスピス主監：	吉田 晋	ホスピス医：	福永頼子
ホスピス長：	下稲葉順一	(同)	田畑 香
ホスピス医長：	柴田冬樹	(同)	川上豪仁
在宅ホスピス医長：	渡辺啓太郎		

2. 診療内容/業務内容

- ① 外来：ホスピス相談（他院より当院への転入院・外来通院・在宅医療などの相談）
ホスピス外来（ホスピス相談後の患者の外来）
- ② 病棟：3 A病棟 24床、3 B病棟 24床、2 C病棟 23床 計：71床
入院目的：全人的ケアの提供
疼痛などの身体症状マネジメント、レスパイトケア、在宅移行への準備、看取りなど
- ③ 在宅：別途報告あり
- ④ その他
 - 1) NPO法人栄光ホスピスセンター
栄光ホスピトラ発行、グリーフカウンセリングなど
コロナ禍のため現在、栄光ホスピスセミナー（年2回：医療者・一般の方対象）、
栄光ターミナル口腔ケア研修会などについては中止中です。
 - 2) 講義・講演
医学部生、看護学生、高校生（医学部クラス）などを対象
 - 3) 研修の受け入れ
コロナ禍のため現在研修受け入れはおこなっておりません。
 - 4) 学会活動など
日本緩和医療学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会

2021年度を振り返って

2021年度も、2020年度同様に病棟運営において新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた年度でした。以下に直近6年間（2016年度～2021年度）のホスピス病棟関連の統計を示させて顶きましたが、平均病床利用率は74.3%と当院ホスピス病棟が3病棟、71床となって以来、最も利用率が低い年度となりました。入院患者数・退院患者数は2016年度と類似していましたが、平均在院日数の短縮がその主原因と思われます。コロナウイルス感染症対策として、家族の面会制限、外出・外泊の禁止などを行わざるを得なかった影響で、可能な限り、自宅で過ごすことを希望する患者さん・ご家族が増えたことが要因だと考えています。また感染症対策のため、以前のような迅速な入院の対応が困難であることも利用率の低下につながっていると思われます。ただ、病床利用率は低下しましたが、生存退院患者数・予約外入院数は依然多く、病棟業務は多様化し多忙を極めました。

それに加え、マンパワー不足、また前述したように新型コロナ感染症対策も同時に行わなくてはならず、これまで私たちが当たり前に行ってきたケアが提供できないことに苦悩した一年でもありました。この一年、関わる患者さん・ご家族のために、『こころ』をこめてケアに従事してくれたスタッフ皆に感謝の思いです。

また2021年度は7月に長年当院ホスピス病棟での働きに従事してきたリハビリスタッフ、そして9月には栄光会の名誉会長・名誉ホスピス長であった下稲葉康之先生が逝去されました。栄光会スタッフ、特に関りの深かったホスピススタッフにとって、とても悲しく、辛く、試練の年度でした。

2022年度にむけて

2021年12月に川上医師が入職し、ようやくホスピス病棟担当医師6名体制が整いました。今後とも患者さん・ご家族また地域のニーズに応えていけるように、『こころ』を込めて励んでいきたいと思えます。

2022年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策は重要な課題になるでしょう。感染症対策のため、ご家族の面会を制限したり、これまで当たり前に行ってきた病棟行事を中止せざるを得ない状況が続いています。必要不可欠なこととは理解しつつも、本当に断腸の思いです。患者さんとご家族を『つなぐ』ことに力を注いできた私たちが、『分断』することを余儀なくされているからです。ただこのような時期だからこそ、栄光病院が長年培ってきた、ホスピスの『こころ』を、『寄り添う力』を発揮すべき時だと思っています。そして、その思いは、患者さん・ご家族に必ず伝わると信じています。

また前述したように昨年度、下稲葉康之先生、そしてリハビリスタッフを失いました。とても辛いことではありますが、私たちホスピススタッフは、これまで培われてきた、栄光ホスピスの『こころ』を、しっかりと引き継ぎ、発展させ、前に進んでいかななくてはならないと思っております。同時に今年度も『感染対策』と『質の高いホスピスケアの提供』、『健全な病棟運営』という課題に対峙していく所存です。

2016～2021年度統計

年度	入院 患者 数	退院 患者数	死亡 退院 患者数	生存 退院 患者数	予約外 入院数	日数別の 退院患者数			平均 病床 利用 率	平均 在院 日数	ホス ピス 相談
						0-30 日	31-60 日	61日 以上			
2016 年度	565 名	561 名	483 名 〈86%〉	76 名 〈14%〉	133 名 〈24%〉	323 名 〈57%〉	128 名 〈23%〉	110 名 〈20%〉	92.9%	42.8 日	675 名
2017 年度	583 名	588 名	504 名 〈86%〉	84 名 〈14%〉	149 名 〈26%〉	357 名 〈61%〉	119 名 〈20%〉	112 名 〈19%〉	88.4%	42.8 日	692 名
2018 年度	587 名	585 名	478 名 〈82%〉	107 名 〈18%〉	160 名 〈27%〉	364 名 〈62%〉	124 名 〈21%〉	97 名 〈17%〉	83.6%	37.0 日	667 名
2019 年度	645 名	653 名	481 名 〈74%〉	172 名 〈26%〉	189 名 〈29%〉	405 名 〈62%〉	135 名 〈21%〉	113 名 〈17%〉	89.9%	36.0 日	658 名
2020 年度	622 名	636 名	439 名 〈74%〉	197 名 〈26%〉	216 名 〈29%〉	430 名 〈62%〉	120 名 〈21%〉	86 名 〈17%〉	77.2%	31.8 日	683 名
2021 年度	565 名	554 名	422 名 〈76%〉	132 名 〈24%〉	169 名 〈30%〉	388 名 〈70%〉	87 名 〈16%〉	79 名 〈14%〉	74.3%	34.4 日	693 名

当院のCOVID-19下でのがん患者の在宅療養支援について

職場紹介

1. 職員構成

医師 3～4名（内科 1名、脳神経内科 1名、緩和ケア 1～2名）
看護師 3名（主任 1名 常勤 2名）
事務 1名（主任）

2. 診療内容

コロナ感染下の時代は大事な家族の終末期であっても面会制限があり、入院を選択しない患者・家族がいる。一方で介護力の低下や症状悪化で在宅療養の限界を迎えた場合は入院を選択することもある。

地域医療を担う医療者も今までは患者の状態が悪化すれば入院を勧めたら良かったが、体調が悪化しても看取りを含めて、在宅療養支援の強化する意識が必要である。

療養場所の制限がないことは患者・家族にとって重要なことであり、できるだけ地域で暮らすことのできる環境や安心感を提供することに繋がる。

当科はホスピス病棟もある在宅医療部門であり、がんの症状や精神的苦痛緩和を病院受診せずとも自宅で提供できるようにしている。

また、在宅療養中に入院が必要な体調、精神的苦痛や介護困難になった場合は栄光病院のホスピスも使用できるようにしている。

2021年度を振り返って

栄光病院の在宅医療センターは、1. 地域のがん治療病院や、当院や他院の退院支援、2. がん治療病院の症状緩和や療養について院外に出向いての面談、3. 施設療養の支援を軸に置いた在宅療養を行っている。

2021年度の新規患者数は157件。往診を含めた自宅訪問数は1876件／年であった（図1）。自宅看取りは113件（図2）で在宅療養困難で当院ホスピス入院後死亡は46件であった。

2021年度も前年度同様に、新規依頼や訪問件数が増加しており、病状が悪くても自宅で過ごしたい要望が高かった。在宅医療のみが正解ではなく、病状や家族の心配から、残された時間が短くても入院することが本人や家族にとって安心できる対応であれば入院も勧めている。

2022年度にむけて

今後でもできるだけ依頼を断ることなく、また迅速に往診に向かうことを心がけてゆく。

医師の対応が困難な場合は当科の別の医師の派遣を行い、利用者の安心を得るようにしている。

地域での医療の広がりのためには、訪問看護ステーションや施設との協働も必要で、医師だけでなく当科の看護師も地域の看護師、薬剤師やケアマネージャーと連絡を切れ間なくできる関係性強化を図り続ける。

図1：訪問件数

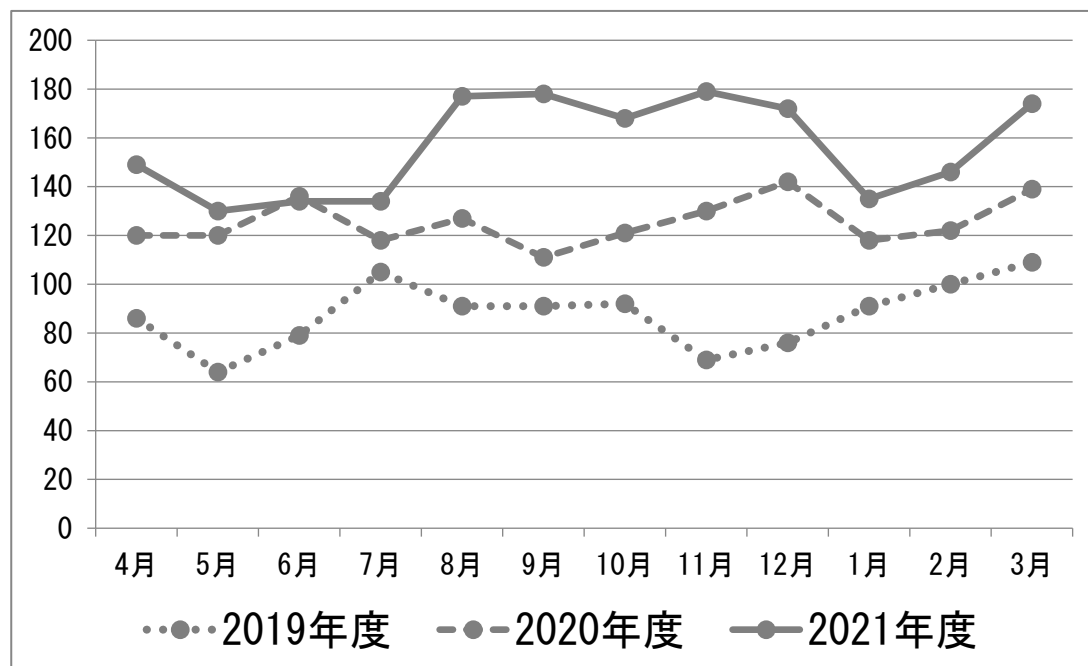
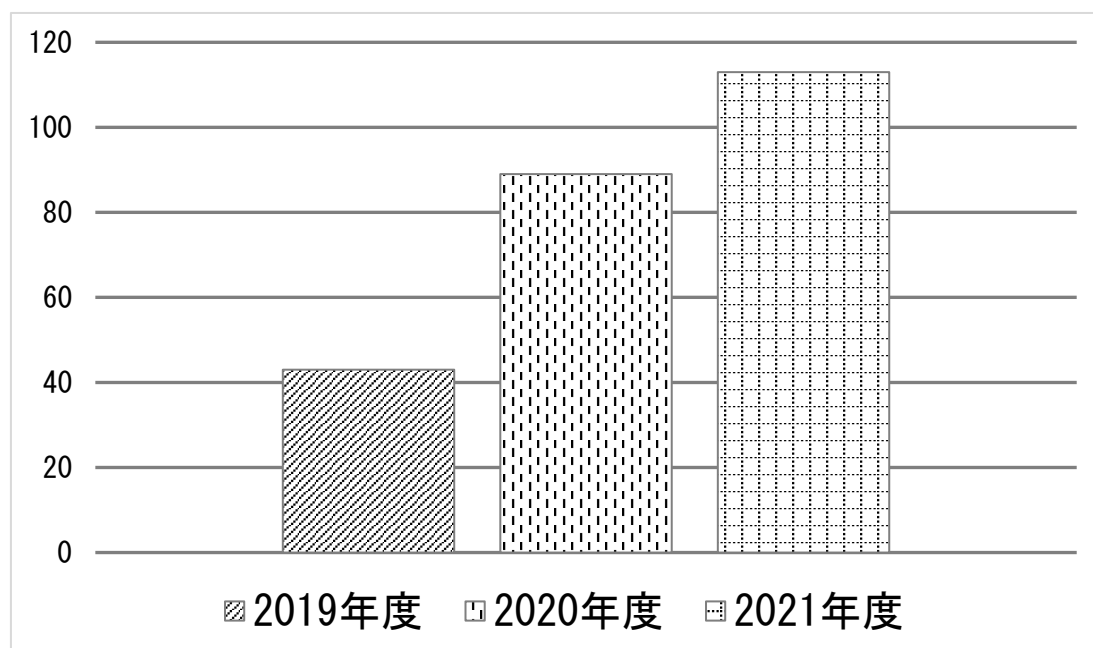


図2：自宅看取り数



■ 健診センター

センター長：総院長 折田 泰彦

職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立以来、①地域医療②救急医療③ホスピス④健康管理（健診）の4本の柱を掲げてスタートしました。④の健診は開院当時、一般外来の中で、当時の故藤江院長と折田副院長がそれを担い、様々な健診の基礎を作り上げました。

平成24年（2012年）ホスピス病棟の増築に伴、その一階に健診センターが新設され、働きを開始しました。1 親切・2 快適・3 迅速・4 正確・5 テーラーメイド・6 安全をキーワードに受診者も増加の一途をたどっています。（図1）但し、一昨年度から右上がりの状況が鈍っています。その原因は現体制と現在地では人的余裕とスペースの余裕がないためと考えられます。

2. 職員構成

医師：折田 泰彦、川端 隆史、脳ドック（大野医師、藤木医師）

乳がんドック（斎藤医師・井上医師）

看護師：吉村 敦子（外来所属）

事務方：檜山 典子、畑田 雅代、石井真生、高倉誠一

3. 診療内容／業務内容

健診・ドックは一般健康人が対象です。日本人の死因はがんが30%、動脈硬化（心臓病・脳卒中）が30%を占めています。いずれも無症状で進行しますので、その早期発見と早期治療を目指します。各種がん検診、企業健診などがそうです。また、平成20年（2008年）に始まった特定健診（いわゆるメタボ健診）は専ら、動脈硬化やその原因となる生活習慣病の発見とその是正を目指します。時代の要請に応じてドックも各種オプションを備えています。

事務職員は、各種健康組合などとの折衝、各企業への営業、電話での健診の予約、事前のご案内の送付、診察介助、検査の場所へのご案内、健診が終わると検査結果のまとめ、パソコンへの打ち込み、料金の計算・受領、報告書の送付等、多岐に亘る仕事をこなしています。

2021年度を振り返って

昨年度から続いている新型コロナの影響で深刻な打撃を受けました。それを取り返すための努力の結果、前年度を上回る実績を上げました。関係各課、特に内視鏡室には多大のご協力を頂きました。

2022年度にむけて

今年度も年度初頭からコロナの影響はありながら、職員がすべてのことにおいて習熟し、受診⇒結果報告の期間が7日程度と短くなってきています。

今年度も前出のキーワードを守り、関係各課の御協力を得ながらやっていく所存です。よろしくお願いします。

尚、図2が示す通り、当センターの関係各課への依存度／貢献度は検査室、X線室に30%近く、内視鏡室に80%近くになります。

更に、外来への精密検査受診の割合は7%前後になります。

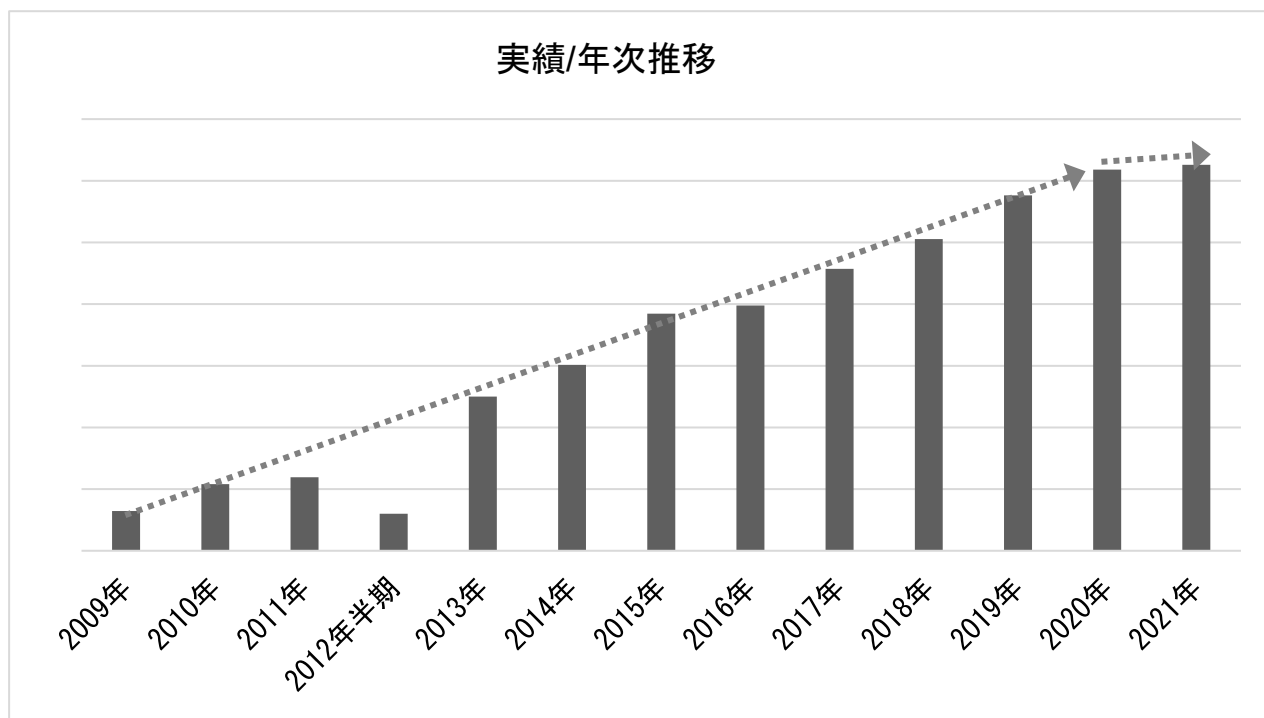


図 1 : 増加速度が鈍化

2019年度の検査科への健診件数の割合

検査	健診センターより	病院全体
血液・生化・血清	3,712人	
尿	3,864人	
心電図	3,294人	
エコー総数	542人	
腹部	321人	
頸動脈	119人	
乳腺	89人	
甲状腺	4人	
心臓	9人	
肺機能	260人	
眼底カメラ	256人	
血圧脈波	84人	
総計	12,554人	41,274人
割合%	30.4%	100%

図 2 : 検査室に30%の依存／貢献をしています。

同じく放射線室に28%、内視鏡室の胃カメラに80%の依存／貢献をしています。

尚、精密検査の受診で、外来新患者の7%の貢献をしています。

診療技術部

職場紹介

1. 職員構成

薬剤師 4名（2022. 1月から3名）

調剤助手 2名

2. 業務内容

入院患者の薬剤鑑別

入院患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤

入院患者に対する薬剤管理指導

一部外来患者の注射剤の混注

各種委員会等への参画

新型コロナワクチンの管理と調整

2021年度を振り返って

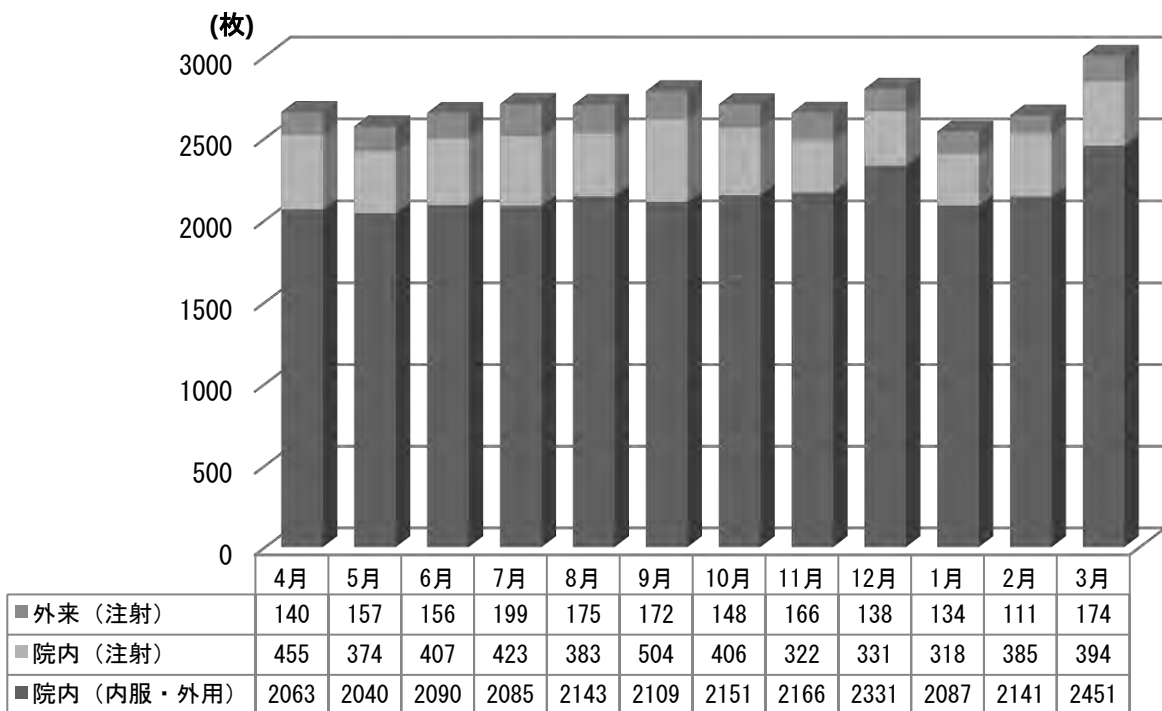
後発医薬品を製造する企業のうち数社が、国から承認された内容と異なる手順で医薬品を製造しており、医薬品医療機器等法に基づく業務停止命令を受けた。また、災害の影響や海外での製造・輸出停止等も重なり、通常どおりの出荷ができていない医薬品が3000品目を超えた。医療現場では、他の医薬品への処方変更や医薬品卸との頻回な納入交渉など、医療提供に支障を来している。

当院でも採用薬のメーカー変更や規格変更、処方日数の変更や同効薬への変更など医薬品の確保・治療継続に努めている。

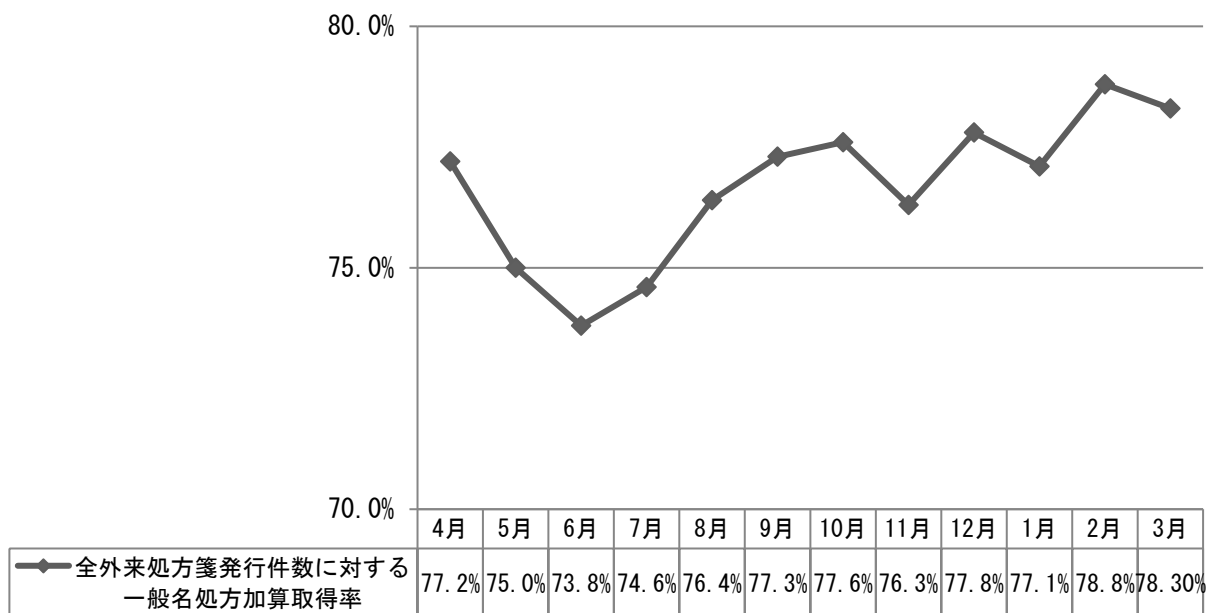
2022年1月からは、当院でも、新型コロナウイルスに対するワクチン接種の3回目を開始しており、薬剤課ではワクチンの保管・管理と接種時の充填作業を行なっている。海外では既に、医療従事者や高齢者を対象に4回目の接種を進めている国もあり、日本でも4回目の接種が予想される。

また、新型コロナウイルスに対する経口治療薬（ラゲブリオR、パキロビッドパックR）が特例承認され、登録センターへの登録も完了している。これら治療薬には注意点多く、十分な知識を身に付けておく必要がある。

2021年度 院内処方箋枚数



全外来処方箋発行件数に対する一般名処方加算取得率



放射線室

技師長 後藤 浩次郎

職場紹介

1. 職員構成

放射線技師 5名（男性3名、女性2名）

クラーク 1名（女性1名） 計6名

2. 業務内容

一般撮影、ポータブルX線撮影、骨塩定量検査、CT、胃透視、大腸透視、嚥下造影、MRI、MRCP、マンモグラフィー、健康診断撮影

2021年度を振り返って

2021年度も依然として新型コロナウイルスの影響があり、一般撮影、胃透視検査、CT検査の件数が減少となった。MRI検査とマンモグラフィー検査は増加しており2022年度は全体的に増加することを期待する。

今後、新型コロナウイルスが落ち着き、日常生活が普通に戻れば検査件数も増加すると考えられる。

2020～2021年度 統計

一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	521	321	722	755	778	671	794	717	768	624	596	725	7992
2021年度	552	575	667	653	713	631	714	687	679	584	607	644	7706

CT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	282	265	306	319	291	298	392	268	292	288	271	313	3585
2021年度	309	271	299	309	305	319	324	278	271	237	212	315	3449

MRI

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	63	66	92	89	74	74	94	95	90	60	71	115	983
2021年度	89	73	101	92	80	83	80	79	91	72	73	83	996

胃透視

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	5	0	15	25	17	26	48	39	39	19	30	13	276
2021年度	13	12	23	12	14	9	16	20	17	17	23	20	196

MMG

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	7	2	22	34	26	33	36	27	33	32	34	24	310
2021年度	24	12	30	33	28	27	41	38	49	27	25	23	357

臨床検査室

技師長 今坂 正生

職場紹介

1. 職員構成

臨床検査技師 5名 クラーク1名（パート）

2. 業務内容

1) 検体検査 血液、尿、糞便等の分析

2) 生理検査 心電図、超音波、呼吸機能、脳波、トレッドミル、眼底カメラ、脈波

3. 検査機器

血球計数器、血液ガス分析装置、電解質測定装置、生化学自動分析装置、心電計、

24時間ホルター心電計、トレッドミル、超音波診断装置、肺機能測定器、脳波計、筋電計、無散瞳眼底カメラ、血圧脈波計、24時間血圧測定器、簡易型睡眠時無呼吸検査装置

2021年度を振り返って

検査件数は昨年度より増加したが、コロナ前の件数までには届かなかった。そんな中で増加した検査と言えば、コロナウイルス感染の検査である抗原、ID NOW、PCR検査（外部委託）であった。

2月初旬は検査キットの不足や、PCR検査の結果の遅延など対応に苦慮する事もあった。

その他として、1月から1名退職に伴う新たなスタッフの入職で、新しい業務体制となった。これにより健診業務やエコー検査が、より柔軟に対応できるようになった。

2017～2021年度 統計

(件)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
血液検査	3,581	3,976	4,208	3,655	3,544
尿、便検査	7,190	7,987	8,876	8,497	9,010
生化学・免疫(院内)	6,998	7,057	7,317	5,682	6,489
血液・生化学・免疫(外注)	11,596	11,403	12,130	11,400	12,648
細菌検査	332	315	257	182	189
病理・細胞診	481	447	372	279	368
心電図(負荷含む)	3,783	3,981	4,706	4,609	4,721
ホルター心電図	38	38	59	60	51
肺機能	213	315	324	52	28
腹部エコー	1,238	1,337	1,366	1,187	1,252
表在エコー	437	570	537	530	542
心エコー	360	386	420	340	279
脳波	27	20	37	18	17
眼底カメラ	138	256	297	314	330
血圧脈波	45	142	177	159	167
その他	29	23	23	14	22

リハビリテーション課

課長 平島 哲也

職場紹介

1. 職員構成

課長 理学療法士 平島 哲也 課長代理 理学療法士 石元 淳也
主任 理学療法士 長谷川裕介 他 理学療法士 12名 作業療法士 9名 言語聴覚士 6名

2. 業務内容

- 1) 入院、外来患者治療・訓練
- 2) 各部署カンファレンス、ミーティング参加
- 3) 義肢・装具業者との業務調整
- 4) 退院前訪問指導・住宅改修案作成・調査実施

2021年度を振り返って

2020年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染対策を取りながらの業務運営でした。

感染の拡大状況に応じてリハ課の体制の変更や一時的に一部病棟のリハ介入をやむなく中止する等の対応が必要でした。そのような状況下において、リハビリテーションの質・量を維持するため、スタッフ各々が工夫をすることで、今年度はリハビリの提供量を2019年度と同等まで回復する事が出来ました。2022年度はこの2年間の経験をもとに、ウィズコロナでのリハ課のあり方を検討しながら、より良いリハビリテーションを提供したと考えています。

2021年度 年間統計

(単位数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
PT	入院	4,110	3,569	4,148	3,967	4,209	3,888
	外来	139	132	162	196	218	297
OT	入院	2,497	2,272	2,553	2,667	3,011	2,923
	外来	23	32	13	35	24	31
ST	入院	1,771	1,791	1,975	1,919	2,215	2,134
	外来	0	0	0	0	0	0

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	入院	4,244	4,083	4,217	3,780	3,482	3,859
	外来	311	291	295	266	199	308
OT	入院	3,208	2,995	2,965	2,743	2,522	2,883
	外来	35	15	26	21	12	24
ST	入院	2,302	2,116	2,117	1,883	1,836	2,075
	外来	0	0	0	0	0	0

■ 栄養管理課

課長代理 馬場 ひとみ

職場紹介

1. 職員構成

病院側責任者：馬場 ひとみ 管理栄養士 3名

委託側：(日清医療食品株式会社) チーフ 村山 智江

管理栄養士2名 栄養士3名 調理師3名 調理員3名 食器洗浄パート6名

1日実働人数 8～9名

2. 業務内容

1) 給食管理：入院患者、付添食、職員食

2) 栄養管理：入院患者

3) 栄養指導：入院患者（糖尿病教育入院を含む）、外来患者、特定健診

2021年度を振り返って

- ・昨年度から嗜好調査を夏と冬に行うようになり、季節ごとの嗜好の変化を検証することを試みた。まだ、2年分しかデータがないので、引き続き同じ条件での調査を行う予定。
- ・5年ぶりに約束食事箋を見直し、それに伴いオーダーリングシステムの内容を大幅に見直した。
- ・献立をサイクルメニュー化し、9月から開始した。サイクル化することで、食事の満足度が低下する事への不安があったが、概ね好評との手ごたえを感じている。
- ・栄養指導は昨年度を上回る件数となっており、業務の主軸となっている。糖尿病教育入院患者への指導は特に時間をかけ、退院後も外来栄養指導で切れ目のないフォローを行った。それだけに、以前よりもマンパワーを栄養指導に充てる必要性があり、栄養指導報告書のレイアウトの見直し、栄養計算の簡易ソフトの導入などの業務改革を徐々に行っている。

2021年度 年間統計

食種別食数（単位：食）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	9,638	9,296	9,098	9,437	9,731	9,612	10,297	10,359	10,630	10,631	8,950	10,169
特別食	1,640	2,010	2,222	1,968	2,549	2,029	1,823	1,834	1,777	1,490	1,736	2,213
合計	11,278	11,306	11,320	11,405	12,280	11,641	12,120	12,193	12,407	12,121	10,686	12,382

栄養指導件数（単位：件）

※入院にはケア病棟の栄養相談を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	41	30	33	34	32	30	37	27	39	36	28	43
糖尿病透析予防指導	3	1	3	5	5	2	5	3	2	3	5	5
入院	21	15	16	14	23	18	22	19	15	21	21	30
合計	65	46	52	53	60	50	64	49	56	60	54	78
保健指導	2	2	2	2	2	1	2	2	0	1	2	2
総合計	67	48	54	55	62	51	66	51	56	61	56	80

職場紹介

1. 医療機器安全管理室とは

栄光病院を訪れる患者が安心して治療を受け、そして療養できるように、医療機器を必要時迅速に供給できるよう機器の整備、保守点検を主業務とする部署である。

2. 職員構成

職員：飯田 多佳子（臨床工学技士）

室長：的野 修一（臨床工学技士）

3. 業務内容

1. 医療機器保守点検計画作成
2. 医療機器保守点検
3. 医療機器修理対応
4. 医療機器貸出し対応
5. 医療機器に関する情報収集
6. 医療機器新規、入替え購入時の機種選定
7. 医療機器に関する研修会実施
8. 睡眠時無呼吸症候群検査調整
9. その他

2021年度を振り返って

2021年度も例年通り年度初めに作成した計画に沿って保守、点検を進めてきたが、今年度は高齢化社会を反映してか認知症を持った入院患者の増加に伴う各部署からフロアセンサー、サイドセンサー、ベッドセンサー等の離床センサーの要望が多くあり在庫が不足したため、それぞれの数量を増やし対応した。また酸素流量計等の劣化に伴う不備も散見され都度点検、新規購入を行った。全体的に2005年移転時の保有機器の劣化が徐々に現れてきており、その殆どがメーカーによる点検修理期間が終了し故障したら修理不能となるため、今後在庫調整、買替え等の対応が必要となると思われる。

2022年度にむけて

2022年度は前年度からの懸案事項である電波法の改正により生体情報モニターの送信機10台が使用不可となる（11月）ことや移転時設置したナースコールのメーカーによる点検修理期間が終了に伴い買替えが必要となるなど課題も多くあるが、各部署からの要望にスムーズに対応できるよう、業務を進めていきたいと思っている。

看護部

2021年度はコロナ渦が2年目を迎えて先が見通せない中、病院経営もさらに厳しい状況でのスタートとなりましたが、看護部においては①看護部理念“優”の心を基にした、安全で質の高い看護の提供 ②互いに認め合い、スタッフ全員の笑顔と元気を支える職場作り ③安定した経営への積極的参画という三つの目標を掲げ、地域住民の健康と幸せを守り、栄光会の理念である“癒し癒される”医療の提供の実現のためそれぞれの部署においてスタッフ一丸となって励んでまいりました。しかしコロナ渦における状況の中、看護師はもとより看護補助者の採用も思うように進まず慢性的な人員不足が続き、結果として仕事量の増加、残業時間の増加からくるスタッフ一人一人の疲弊を解消できないまま一年が過ぎてしまい、離職率も昨年度と2020年度と比較すると看護職員2.7%→9.2%、看護要員7.4%→11%と増加してしまったことは、看護部長としてスタッフに対して本当に申し訳なく思っています。ただ、そのような状況の中であっても各部署において師長、主任、副主任を中心として、それぞれが創意工夫し業務改善を行い、また互いに協力しながら患者、家族のために“安全で質の高い看護の提供”を行って頂いたことは心から感謝する次第です。また“互いに認め合い、スタッフ全員の笑顔と元気を支える職場作り”においても今回の看護部アンケートの中に①職場の雰囲気が良い。②人間関係が良い。③スタッフが優しい④スタッフが思いやりをもって患者にかかわっている⑤メンバーの仲が良く、協力しあい、雰囲気が良い⑥言いたいこと、必要なことが話し合える等の意見が多数あり、スタッフ一人一人が大変な状況にありながらも互いを思いやり意識して働きやすい、より良い職場作りを行って頂いたと思っています。“安定した経営への積極的参画”においてはマンパワー不足から不本意ながらも患者の入院制限等もせざるを得ない状況もありましたが、そのような中でも各部署が経営目標を意識ししながら、皆で何とか目標を達成していこうとする姿勢を見せてくれたことは本当に感謝でした。最後に私事で恐縮ですが2022年3月末をもちまして6年間勤めさせて頂きました看護部長職を退任することとなりました。振り返れば色々なことが思い出され、中には困難なことも多々ありましたが、その度に師長会に連なる指導者、現場のスタッフに助けて頂き、ここまでやってこれたと思っています。2022年度からは堤千香子新看護部長のもと、今まで以上にみんなで栄光会看護部を発展させていただきたいと願っています。

私の看護部長としての6年間を支えてくださった、看護部を始め栄光会の全ての皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

栄光会看護部 理念

優

～やさしさ～

“人の^{うれい}憂を背負える^{やさ}優しい看護師であれ”

人が^{うれい}憂を背負うと書いて、“^{やさしい}優”と読む。

私たちは、患者さんの“^{うれい}憂”(悩み、悲しみ、痛み、苦しみ)を覚悟を持って共に背負い、常に寄り添う看護師でありたいと思います。

栄光会看護部基本方針

- 1:私たちは、安全、安心、安楽な看護の提供に努めます。
- 2:私たちは、看護の専門性を追求し、知識、技術の向上に努めます。
- 3:私たちは、協調と信頼のもと、チーム医療の推進に努めます。
- 4:私たちは、地域包括ケアに貢献する、看護の提供に努めます。
- 5:私たちは、やりがいを持って、働き続けられる職場づくりに努めます。
- 6:私たちは、組織の一員として、積極的な経営参画に努めます。

2019年4月1日 栄光会 看護部

2021年度看護部目標

I：看護部理念“優(やさしさ)”の心を基にした

安全で質の高い看護の提供

II：互いに認め合い、スタッフ全員の笑顔と元気を支える職場づくり

III：安定した経営への積極的参画

2021年4月1日

2021年度看護要員推移

社会医療法人 栄光会 栄光病院 看護部長 的野 修一

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
看護要員数 (月初値)	212	210	209	213	208	207	207
入職者数 (2日～翌月1日)		2	4	1	2	1	
法人内異動数 (2日～翌月1日)							
退職者数	2	3		6	3	1	4

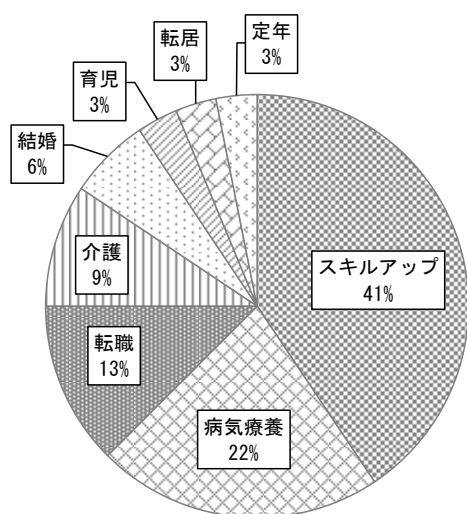
	11月	12月	1月	2月	3月	3月末日の 看護要員数	計
看護要員数 (月初値)	203	203	205	205	208	210 (注2)	
入職者数 (2日～翌月1日)	1	3	2	2	3 (注1)		21
法人内異動数 (2日～翌月1日)				+1			+1
退職者数	1	1	2		9 (内3/31付 8)		32

(注1) 2022年 4月1日の入職者は含まれない

(注2) 2022年3月31日の退職者は含まれない

<退職率 15.2%>

< 退職理由 >



■ スキルアップ	13人
■ 病気療養	7人
■ 転職	4人
■ 介護	3人
■ 結婚	2人
■ 育児	1人
■ 転居	1人
■ 定年	1人

職場紹介

1. 職員構成

師長代理: 岡崎 祥子 主任看護師: 田羽田 裕子

他看護師: 17名

(内、消化器内視鏡技師4名、福岡糖尿病療養指導士2名、日本糖尿病療養指導士1名)

ケアワーカー1名 クラーク1名

2. 診療内容／業務内容

総合診療科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・脳神経内科・糖尿病内科

ホスピス・消化器外科・肛門科・整形外科・泌尿器科・発熱外来

消化器内視鏡センター・健診センター・中材

2021年度を振り返って

2021年度外来目標

『地域連携を図り感染対策及び看護ケアの質の向上に努めより良い患者サービスを提供する』

1. 感染対策の強化
2. スタッフのスキルアップ
3. 地域連携の推進
4. 時間外初診率と患者数の回復
5. 待ち時間の短縮

上記の部署目標を掲げ、一年間取り組んだ。

年度初めは、新型コロナウイルス感染症が下火となっており、発熱外来は落ち着いたスタートだった。

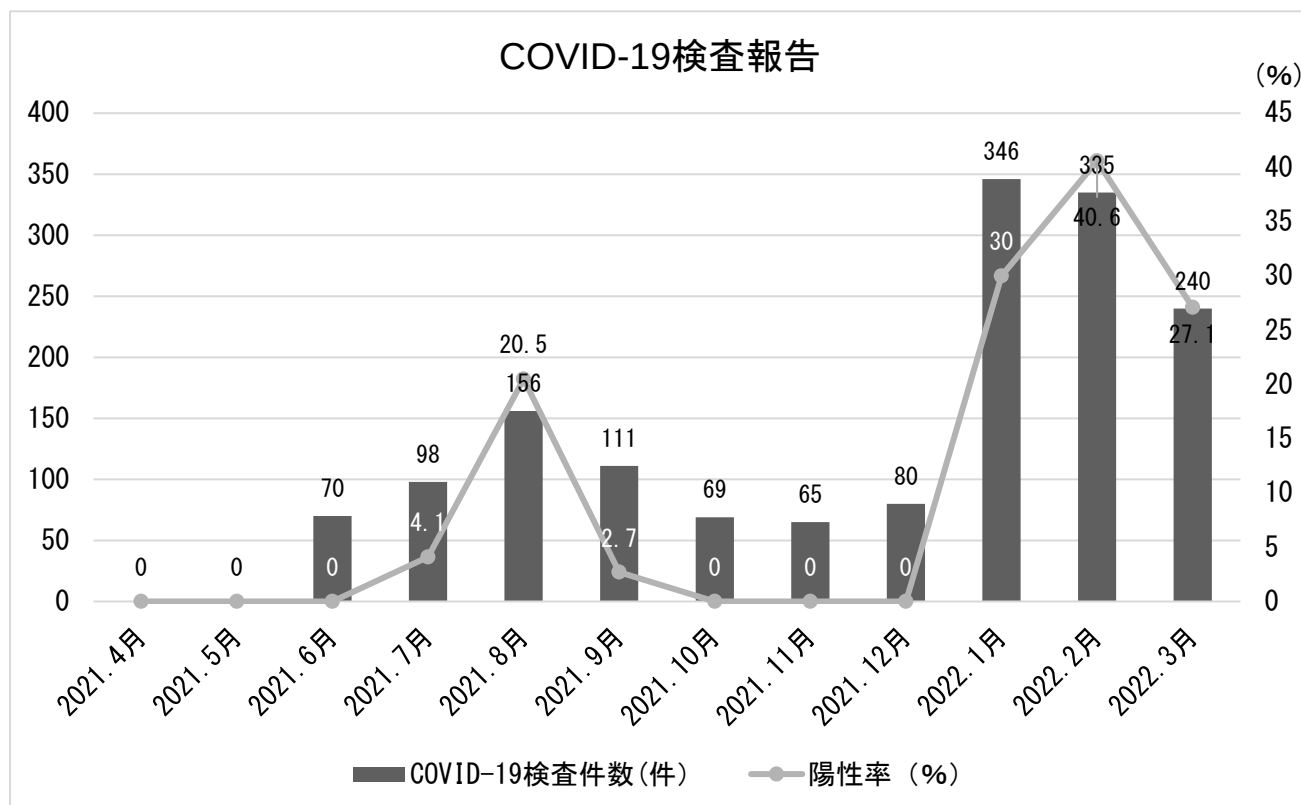
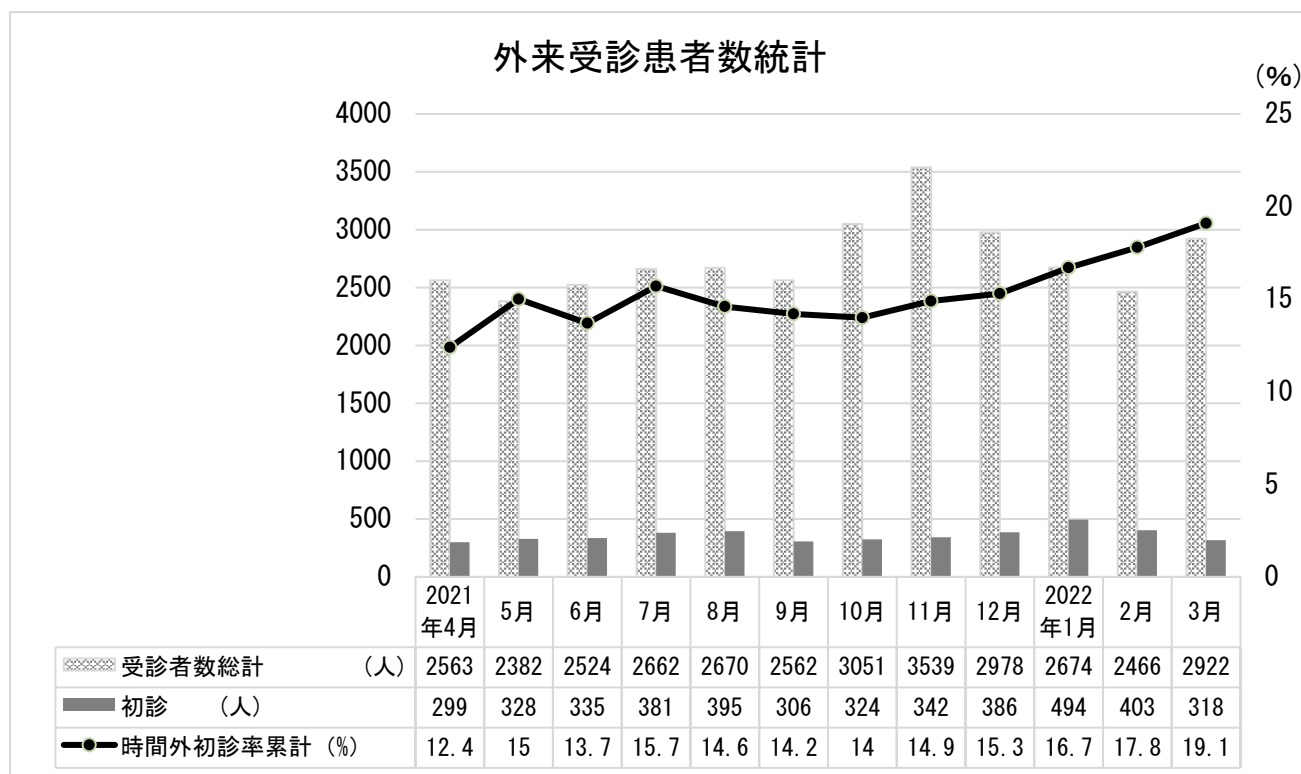
6月より再び新型コロナウイルス感染症が拡大しだし、日々変わる感染対策に対応しながら、通常診療と平行していった。下半期は、発熱外来対応や新型コロナウイルス感染症に関する問い合わせの対応に追われ、忙しい中だったが、ゾーニングとPPEの正しい使用を実践していった。

丸2年コロナ禍による受診控えやインフルエンザの罹患減少が大きく影響し、時間外初診率の低下や受診患者数の低下は、2021年度も大きな問題点となった。発熱患者も積極的に受け入れ、当院の外来でできることはできる限り対応していく地道な努力を行ったことで、初診を含む受診率は徐々に回復傾向にある。今一度、気を引き締め、医師・看護師・コメディカルで協力し合い、地域の患者様のために頑張っていきたい。

待ち時間については調査を行った上で再評価が必要になるが、予約票の変更・受付時間のこまめな確認を行いながら、患者様への声掛けも心掛けた。受付から会計までスムーズな流れができる様に、今後はシステム変更も課題となる。

『withコロナ』が当たり前の時代になってきたが、その様な中でも患者様やご家族の方々が安心して当院の外来を受診できる様に、新知識の習得は勿論、スタッフ一同『心を込めた対応』を心掛け、実践していく。

年間統計



職場紹介

1. 職員構成

師長：谷 幸子 主任：松藤 千代

看護師 23 名 看護助手 2 名 クラーク 1 名

2. 診療内容／業務内容

主として悪性腫瘍の患者又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者が入院の対象者となる患者とその家族に対し「いのちの質の向上をめざす全人的ケア」をモットーに、症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に、家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアをめざす。

2021 年度を振り返って

次のような目標に向けて取り組んできた。

1. 病棟内教育：

「己を知る、他人を知る」

コロナ禍で患者様との関わり方やケア方法が変化していく中、原点を振り返り、知識や技術の見直し、看護観に向き合う。

- ・倫理の勉強会をグループワーク形式で行えたことで、他スタッフとの意見交換も交えながら自分自身を振り返るきっかけにつながったと考える。引き続きデモンストレーションのような勉強会も要検討。

2. 業務改善：

カンファレンス申し送りの簡素化を図る

スタッフ同士の協力体制の強化を図る

- ・申し送りの簡素化、安楽障害をスタッフが使用しやすいようにすることができた。

3. 環境（看護師）：

働きやすい環境を作る

皆の気づきをルール化していく

- ・様々な意見に対し、業務改善計画を立てることができ、現状に合わせてルール化し、それぞれ見直し、改善しながら運用できている。

4. 環境整備：

看護師が気づいて行動できる

- ・看護師が気づいて行動できるように視覚で、汚染や不潔場所を提示していったが、提示期間中は、綺麗に保たれているが、目標場所が変わると意識が低下。各個人が意識することを継続していけるよう図っていく

5. 資源：

病棟の資源の有効利用、メンテナンス、患者の安全

- ・車椅子、点滴台などの整備・点検を行い安全に使用できるように務めた
- ・ナースステーション内の本棚の書籍、書類の整理整頓を行った、引き続き整理整頓・5Sの定着を図っていく。

2022年度に向けて

1. 臨床倫理に関する理解を深めることで、日頃からの倫理面に関する感性を高めることができる
-情報共有、カンファレンスのあり方
2. フィロソフィーの促進
-家族ケア、スピリチュアルケア
-コミュニケーション
3. 5S活動
-ワークライフバランス
-業務改善
4. 自分たちが心身共に健康で働ける
-セルフケア
-知識・技術の向上
5. 患者の療養環境を充実させる
-働く職場の環境、おもてなし
-多職種連携、入退院支援

年間統計

病棟稼働状況

2021年度(R3)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均患者数(目標20.0)	20.2	17.9	18.9	22.5	21.6	21.9	19.6	19.2	20.3	17.6	17.5	18.7
稼働率	84%	75%	79%	94%	90%	91%	82%	80%	85%	74%	73%	78%
のべ患者数	607	555	568	696	669	656	609	576	630	547	491	579
平均在院日数	39.6	41.7	34.6	48.6	45.6	61.6	70.5	51.4	41.0	33.3	35.3	39.0
転・入院患者数(転入数)	17	11	19(1)	13(2)	15	10(1)	8(1)	11(1)	16	16	13	14
退院患者(転出数)	13	14(1)	13	15	14	12	9	10	14	16	14	13
(うち在宅移行)	3	0	2	4	1	2	0	1	1	2	4	4
在宅移行率	23%	23%	15%	27%	7%	18%	0%	10%	6%	13%	29%	7%
直近1年間平均在宅復帰率	21%	22%	23%	22%	22%	19%	19%	19%	16%	17%	21%	16%
平均待機日数	1.71	1.73	2.63	4.08	1.29	4.50	4.00	3.33	3.43	6.88	3.62	3.07

年間入院患者数162名 年間退院患者数128名(うち看取り患者数128名)でした。

コロナ禍で、病院の面会が制限されるなか、ホスピス病棟は短い時間ながら3密を避け面会をしていただくことができました。

職場紹介

1. 職員構成

看護師：21名（うち緩和ケア認定看護師1名） 看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

3 B病棟のミッションに沿ってがん終末期ケアをおこなう

3 B病棟ミッション

- 1) ホスピス病棟の基本理念（患者とその家族に対し『全人的ケア』をモットーに症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアを目指す）に沿ったケア提供を継続できる
- 2) 個々が経営参画の意識を持ちつつ、質の高いホスピスケアを提供できる
- 3) これまで培われた組織力を次世代に継承できる
- 4) 個々がプロフェッショナルとしてビジョンを持ち、お互い切磋琢磨することができる

2021年度を振り返って

2021年度病棟テーマ：development ～育んできたものを発展させよう～

2021年度 3 B病棟目標・計画・実際

I. 質の高い専門的ケアを通して、安心・安全・信頼できる看護を提供する

1) 接遇・倫理観を含めた患者・家族が中心となる看護の知識・技術の向上

①コロナ禍での患者・家族に寄り添ったケアを発展させる

（面会パンフレット、診断カンファレンスの充実）

②接遇・倫理観を深める

- ①面会制限に対するパンフレット作成したが、度々変更になる中で入院時タイムリーに変更できず以前の面会案内が入っていることもあった。

タブレット面会がもっと活用出来たらもっとよかった。

- ②倫理カンファレンスは何度してもいい振り返りとなった。

2) 最適な療養の場をアセスメント・調整できるスキルを高める

①最適な療養先のアセスメントをしていく（シート作成、活用）

②退院支援、調整スキルを高める（プラン修正、パンフレット等）

- ①作成したシートを入院時に入れる事で定着した。ホスピスカンファレンスでも情報共有できている。
- ②パンフレットの活用や退院カンファレンスの様子を撮影した動画も作成したが、活用できるまでには至っていない。

Ⅱ. 働きやすい職場風土の維持・促進

1) 多職種・他部署との連携力の向上

①病棟内の各委員を中心に、それぞれの委員会の活動内容が病棟スタッフに理解できるよう定期的に報告会を企画し、委員会とスタッフ間の連携を図る。

①委員会活動を知るきっかけになったが、多職種や他部署との連携力の向上には至らなかった。

2) スタッフ同士が支え合う事ができる環境の調整（永松チーム）

①サンキュープロジェクトを通し、スタッフのモチベーションと、強みを向上・発展させる。

②デスカンファレンスの充実。看護を適切な方法で振り返り、さらに良いケアが提供できるチームとしての発展を目指す。

①チームの方の配慮もあったのかな？と思うこともあったが、サンキューメッセージを貰うこと自体が嬉しかった。

②事前にサマリーへのコメント記載を促されたことで、デスカンファレンス内で情報や思いなどのコメントが増えた。充実したカンファレンスになったが、事前に記載しているスタッフが固定している事は気になった。

Ⅲ. 積極的な経営参画

1) コスト意識を高め、広報活動も視野に入れた業務改善

①毎月フリートーキングを行いながら、業務改善を行う。

②SNSを立ち上げる。

①月一回の目標は達成できていなかったのが、必要時にフリートーキングをおこない、業務整理や業務移動をおこなっていった。

②法人の業績悪化などで中断を余儀なくされた。その状況は病棟会で報告していたが、詳細が分からないスタッフもあり、周知できていなかった。

2022年度に向けて

2022年度3B病棟テーマ：『癒し癒される 3B Ver.』

マンパワー不足に悩まされ、身も心も疲れ切った2021年度であったため、今こそ原点回帰し、癒し癒されることをしっかりと感じよう！
という願いを込めた

2022年度3B病棟目標

I. 質の高い専門的ケアを通して、安心・安全・信頼できる看護を提供する

1. コロナ禍における接遇倫理観を含めた患者・家族が中心となる看護の知識・技術の向上(チーム)
2. 機能評価受審に向けた取り組み(主任)

Ⅱ. 働きやすい職場風土の維持・促進

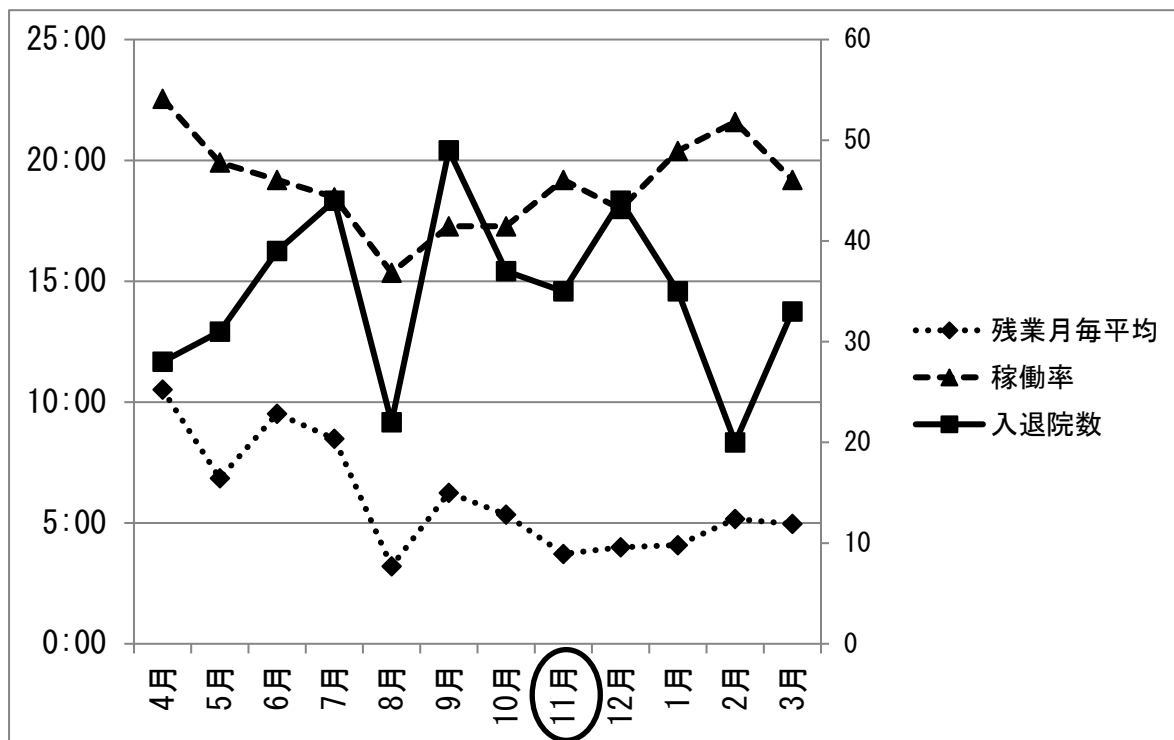
1. ワークライフバランスの充実(チーム)
2. スタッフ同士が支え合う事ができる環境の調整(チーム)

Ⅲ. 積極的な経営参画

1. 経営を視野に入れた多職種・他部署との連携力の向上(チーム)
2. 診療報酬改定に向けた取り組み(チーム)

年間統計

始業前残業時間短縮の取り組みにおける就業後残業時間の推移



11月末より経営改善を視野に入れた業務改善チームを中心に始業前残業時間の短縮に取り組んだことで、申し送り時間も短縮し、就業後残業時間も短縮する結果となった。
この取り組みは、現在も継続している。

職場紹介

1. 職員構成

師長：神信 美砂

主任：村勢 加寿代

看護師 22名（うち緩和ケア認定看護師 1名、がん性疼痛認定看護師 1名）

ケアワーカー 2名、クラーク 1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2021年度を振り返って

1) 倫理カンファレンスの実施により、自分たちの倫理的課題に気づく力を高める

- ①毎週木曜日の13:30から倫理カンファレンスを開催し、日常業務の中で起きているモヤモヤすることをテーマにフリートーキングとした。ナースコールがなる中で落ち着いてカンファレンスではできなかったが、皆で悩みを共有することはできた。
- ②モヤっとすることが浮かんたらノートに記入し、それをもとにカンファレンスのテーマを考える予定だったが、ほとんど活用されなかった。
- ③カンファレンスの場ではなく非公式の場では自由に倫理的な悩みを話している場面を見ることができていた。発言しやすい雰囲気や環境を意識的に作る必要がある。

2) 転倒インシデントカンファレンスを通じ、転倒予防策の継続評価をし、安全な環境を提供する

- ①毎週土曜日の13:30から転倒を中心としたカンファレンスを開催した。転倒したからすぐにセンサーをつけるのではなく、転倒の背景をカンファレンスで意見交換しながらアセスメントし、予防策に努めた。
- ②転倒後のタイムリーなミニカンファレンスが毎回確実に開催できずにいたため、皆でカンファレンスの声掛けをしていく必要があった。

3) 個々のやりがいにつながる看護を実践するために、チームメンバーのやりたい看護をチームで支援する

- ①今年度は欠員のため2チームとチームメンバー同士のフォローしていくことにしたが、欠員が続くとストレス増大し自分のことで精いっぱいとなり、うまく機能しなかった。
- ②チーム会も開催できず、チームリーダーが工夫してメンバーとやりとりをしていた。ただし、スタッフの感情処理が不十分なことやチームリーダーの負担が増えた。

4) 入院受けの体制作りで稼働率85%、1日平均患者数19.5名となる

- ①人員不足で目標達成ならず、少ない人員の中で入院うけの工夫はしていた。

2022年度に向けて

病棟目標

1. がん性疼痛を有する患者の基準マニュアルに添った疼痛マネジメントで、個別性のあるケアとなる。
2. チームメンバーとしてお互いを尊重し「わかろう」とし、共に悩み、考えを出し合いながら実行するというプロセスを楽しむチーム作り～ご機嫌なチームづくり～
3. 101番目の病院を果たす栄光ホスピス病棟として、入院や在宅移行について臨機応変に対応していく。

職場紹介

地域包括ケア病棟入院基本料1 算定
看護基準 13:1以上

1. 職員構成

医師： 外科医師 2名（病院長・外科部長） 外科・整形外科他担当
内科医師 3名（内科部長・総合内科部長・糖尿病専門医） 呼吸器・消化器内科他
看護師：24名
師長代理：石田 美千代
主任： 古賀 直子 ・ 岡村真澄（退院支援）
副主任： 増山 明子
（糖尿病療法指導士2名、災害支援看護師1名）
看護補助者：5名
主任： 佐藤 久美
（介護福祉士2名）
病棟クーク：1名

2. 業務内容（地域包括ケア病棟）

住み慣れた地域における生活支援の体制を下支えする3つの受け入れ機能（①急性期からの受け入れ、②在宅や施設で療養している方の緊急時の受け入れ、③自宅等で生活されている方の緊急時の受け入れや糖尿病教育入院等）と、在宅復帰のための心身の準備・回復や在宅サービスの検討等、院内多職種協働・地域内多職種協働による「退院支援機能」を実践することで、地域において、切れ目のない医療提供を行い、「ときどき入院 ほぼ在宅」を目指しています。

2021年度を振り返って

1. 患者・家族に寄り添い、安心・安楽な看護の提供

- ①多職種との連携強化に向けて、カンファレンスの充実を図り情報共有する事ができた。
- ②SHELL分析・KYTを月1回以上実施した。（状況により週1回実施）
- ③褥瘡発生率1.1%・スキンテア1.6%で0%にはならず。
- ④認知症ケアや倫理の勉強会は、月1回実施できた。

2. 職員満足度を上げる

- ①リフレッシュ休暇は、希望者7名全員取得できた。
- ②WLBに配慮した働き方について面談時に話し合い実施できた。
- ③時間外勤務時間の短縮は、業務を定期的に見直したが、人員不足もあり、目に見えての短縮には至っていない。

3. 病棟稼働率85%以上・在宅復帰率70%以上（直近6ヶ月）を維持する

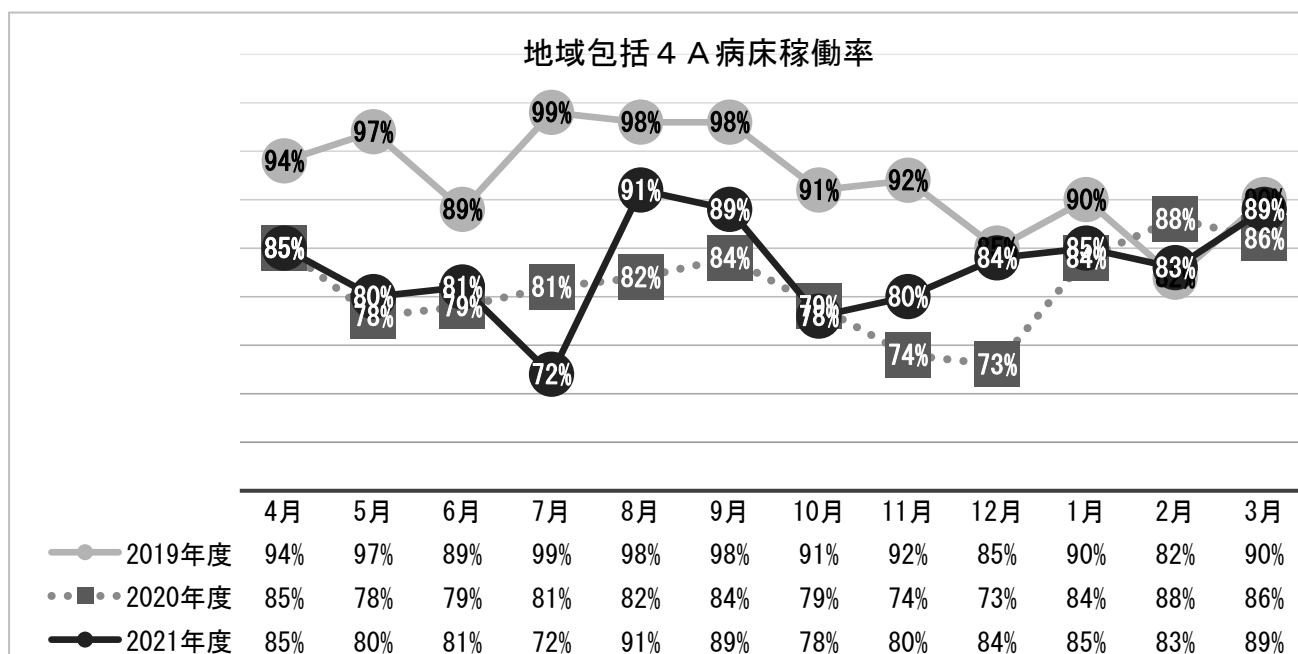
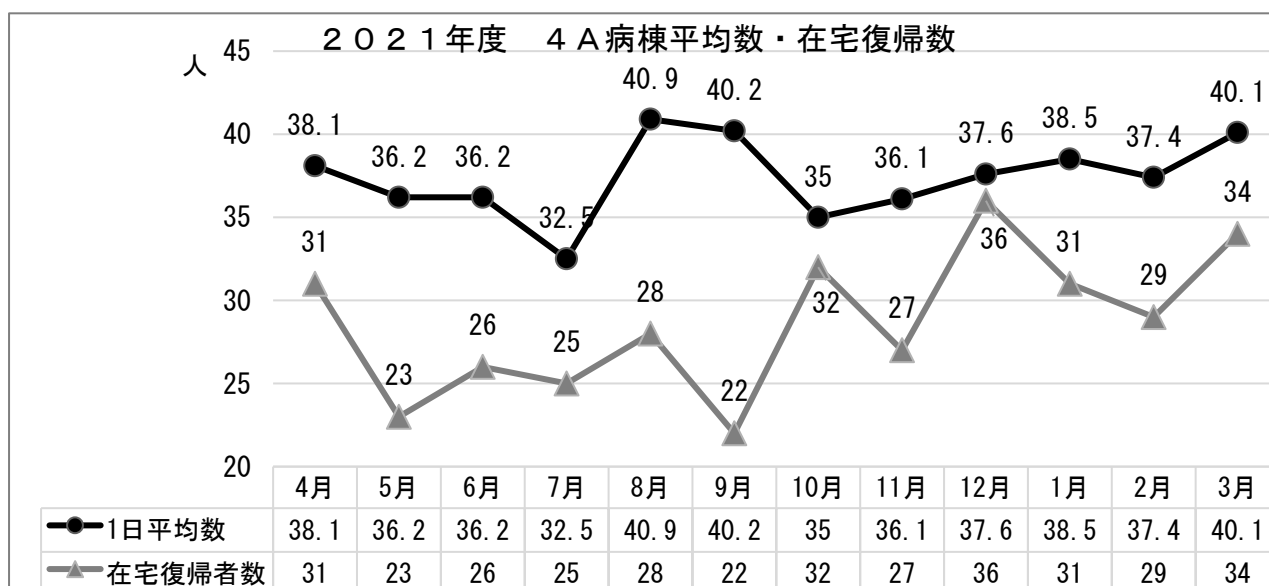
- ①病棟稼働率85%以上は、4ヶ月間のみだったが、在宅復帰率は維持できた。
- ②緊急入院お断りゼロは、病床確保ができない時期があり、達成できず。
- ③入院初期から退院を意識した看護計画の立案ができた。

2022年度にむけて

<取り組むべき課題>

- 1. 時間外勤務を改善し退社できる職場環境づくり⇒ 職員満足度を上げ働きやすい職場を作る
- 2. 退院支援体制の構築 ⇒ スタッフ全員で退院支援に関わり選ばれる温かみのある病棟を目指す
- 3. 病院機能評価受審に向けた取り組み、実施
- 4. 加算に向けた取り組み

年間統計



職場紹介

1. 職員構成

看護師 19名 看護補助者 5名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

<病棟基本方針>

- ① 地域の神経難病患者を主に受け入れていきます
- ② 入院患者のADLを維持し、QOLを高めることで継続的で安全・安楽な医療看護を提供します
- ③ 癒し、癒される関係の構築を図ります
- ④ レスパイトを通して在宅医療の支援を図ります

<4 B病棟の目指すべき医療・看護>

多職種専門職によるチーム医療を基本として、神経難病及び障害を持つ患者の療養生活におけるQOLの向上を目指します

<入院患者状況>

神経難病を主に対象とする病棟。

主な疾患名は、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症など。

主な入院目的は、①病状評価のための検査 ②身体機能維持・向上を目指したりハビリ ③症状マネジメント ④合併症治療 ⑤呼吸器装着、胃ろう造設・交換 ⑥レスパイトのための短期入院 ⑦在宅療養指導 ⑧医療依存度の高い患者の長期療養～看取りケアなどへの対応を行っている

<病床数> 28床

2021年度を振り返って

【病棟目標】

1. 安心・安全な看護の提供

- ①京セラチーム活動を通して看護の質向上を図る
- ②5Sの促進により業務改善を図る

<評価>

チーム活動を主体に、勉強会・意識調査、KYT・P-mSHEL分析などを実施しケアの質向上に努めた。患者に喜びを提供したいという意識は高く持っているが、尊厳を持ったケアが日々できているか振り返る場を持つことがあった。

2. 意思決定支援の充実により患者家族の意思を大切にした看護の提供

- ①意思決定支援に必要なマニュアル・同意書の作成
- ②活用方法についての検討を進める

<評価>

マニュアル・同意書の土台づくりはできたが、活用実践には至っていない。カンファレンスの中で意思決定について検討する場は増えている。

3. 働きやすい職場環境作り

- ①リフレッシュ休暇の全員取得
- ②お互いの考え。価値観を認め合う意見の発信

<評価>

リフレッシュ休暇取得は30%程。人員不足などあり取得に差が生じた。

スタッフ間の考え方の違いがお互いのストレス・ジレンマにつながることもあり、意見交換の場やグッド・サンクスカードを活用しスタッフ間のケアに努めた。

2022年度にむけて

【病棟目標】

1) チームで協働し、患者・家族の思いに沿った入退院支援、療養支援を行う

- ①定期的なチームカンファレンスを行い、患者状況と方向性を共有する
- ②定期的な家族会の開催、患者—家族をつなぐ場を作る
- ③患者の立場に立ち、QOL向上のために出来るケアを考え実践する
- ④在宅療養に必要な退院支援の充実を図り、レスパイト入院を増やす

2) 5Sを促進し、気持ちの良い、働きやすい職場環境を作る

3) 経営参画とスタッフケアのバランスを考えた部署の運営

- ①25名／89%目標稼働率の維持
- ②入退院支援加算1取得の実践
- ③倫理カンファレンスの実践（モヤモヤ、ジレンマ、困っていることを語る、聴く、考える場）
- ④リフレッシュ休暇の全員取得

職場紹介

1. 職員構成

師長代理：倉田 正子 主任：平山 好恵 副主任：江島 佑果
看護師 17名（上記含む） ケアワーカー 8名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や骨折術後など患者さんの急性期治療が終わり、リハビリテーションを集中的に行う病棟です。

在宅復帰を目標に各職種専門性を活かし、各患者さんにあった効率的なリハビリテーションを提供します。

2021年度を振り返って

2021年度も前年同様、新型コロナウイルス感染症対策の為、面会制限や外出泊禁止等の制限を続行せざるを得ず、入院中の患者さんには大変なストレス下での入院生活となり、ご家族も入院中の患者さんの状況が分らず不安な日々を過ごしておられたと思います。

その様な中でスタッフ一同、僅かでもそのストレスや不安を払拭できるよう、日々の患者さんの状況を細やかにお伝えする様心掛けています。

また、職員も感染のリスクと医療従事者として様々な制限の中、大変な思いをしながら業務に励みましたが現在までクラスター等の発生はなく経過できており感謝です。

2021年度の病棟目標

I. 安全で質の高い看護・介護の提供 II. 他部署との連携強化 III. 経営への積極的参画

上記目標を掲げ、活動チームの立ち上げや、業務改善等様々な取り組みを行いました。成果もみられた一方で、反省点として目標が絞れておらず、課題が広すぎたため具体策の実践が困難でした。

1月よりリハビリ専従医師が入職し、2月には部署異動、昇格人事に伴い所属長、主任が交代となりました。次年度は、今年度の反省点も踏まえ目標に向かって取り組んでいきたいと思っています。

2022年度にむけて

◇5A病棟のあるべき姿

『在宅復帰』

1. 患者個々にあった看護・支援をおこなう
2. 【連携】各職種の専門性を活かし、効率的なリハビリを提供する

◇病棟目標

1. 退院支援を病棟全体で取り組み、看護の質向上を目指す。
2. 残業時間削減のため、業務を見直し業務負担軽減をおこなう。
3. 認知症への知識を高め、対応力強化を図る。

年間統計

	平均病床率	在宅復帰率	重症者	重症者4点 (FIM16点) 以上改善
基準値		7割以上	3割以上	3割以上
2021年度 実績	88.5%	82.6%	45.9%	65.5%



医療事務

職場紹介

1. 職員構成

課長	増田	こずえ				
主任	上條	憲一	豊福	稔		
副主任	森岡	直美				
入院担当	山田	留実	久芳	志穂		
外来担当	城戸	綾乃	深野	良太	定村	千香子
	藤本	悟史	澤井	紋也	山田	淳子
						計 12 名

2. 業務内容

- ・ 窓口受付
- ・ 会計業務
- ・ 診療報酬請求（レセプト作成・点検・総括・請求）
 - 外来（在宅医療含む）：月平均 2100 件
 - 入院：月平均 250 件
- ・ 各種文書受付
- ・ 未収金管理
- ・ 他院からの問い合わせの対応等

2021 年度を振り返って

- 京セラ式病院原価管理手法導入（2014 年 7 月開始）後、診療報酬請求のデータを「病棟別」・「診療科別」・「医師別」に集計を開始し、診療報酬請求に対する査定についても医師別に集計を行い、医局の先生方に報告、部署内でのミーティングや、勉強会を通して把握することに努めた。
- 「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時・特例措置」に基づく新点数や加算点数が次々と始まる一方で、特例措置期間を終える点数もあり最新情報の収集と周知に努めた。
- 2020 年 10 月より、レセプトについて診療内容の入力に加え、一部で診療別処理コード入力開始になり、コード入力のないものは返戻対象となった。更に 2022 年 4 月からコード入力の対象項目が増える予定である。
- 未収金管理については、関連部署と連携し、早期の対応を行った。

2022 年度にむけて

- 4 月の診療報酬改定に伴う変更点など情報収集に努める。
- 「法人全体の収入増加ならびに患者満足度向上を支援し、法人の必要収益の確保をサポートする」ことを部署のテーマとする。

職場紹介

1. 職員構成

課長代理 中牟田 美千代

副主任 中畑 順子

2. 業務内容

- 1) 入院診療記録の保管管理
- 2) 入院診療記録の整理・点検
- 3) 退院時要約（サマリー）の早期推進と管理
- 4) 国際疾病分類（ICD-10）に基づく疾病コーディング
- 5) 「診療情報管理システム」へ情報登録、統計業務
- 6) 入院診療記録のアリバイ管理、貸出業務
- 7) 「DPC退院患者調査」データの作成業務
- 8) 全国がん登録データ作成業務
- 9) 診療情報管理委員会の運営

2021年度を振り返って

1. 診療記録の点検・管理

記録の見直しや点検を行い、診療記録の質向上に努めた。

2. 退院時サマリーの管理

退院14日以内サマリー作成率は、医師協力のもと毎月90%以上を維持している。

3. DPC退院患者調査（厚労省に提出）

様式1作成件数：1, 171件

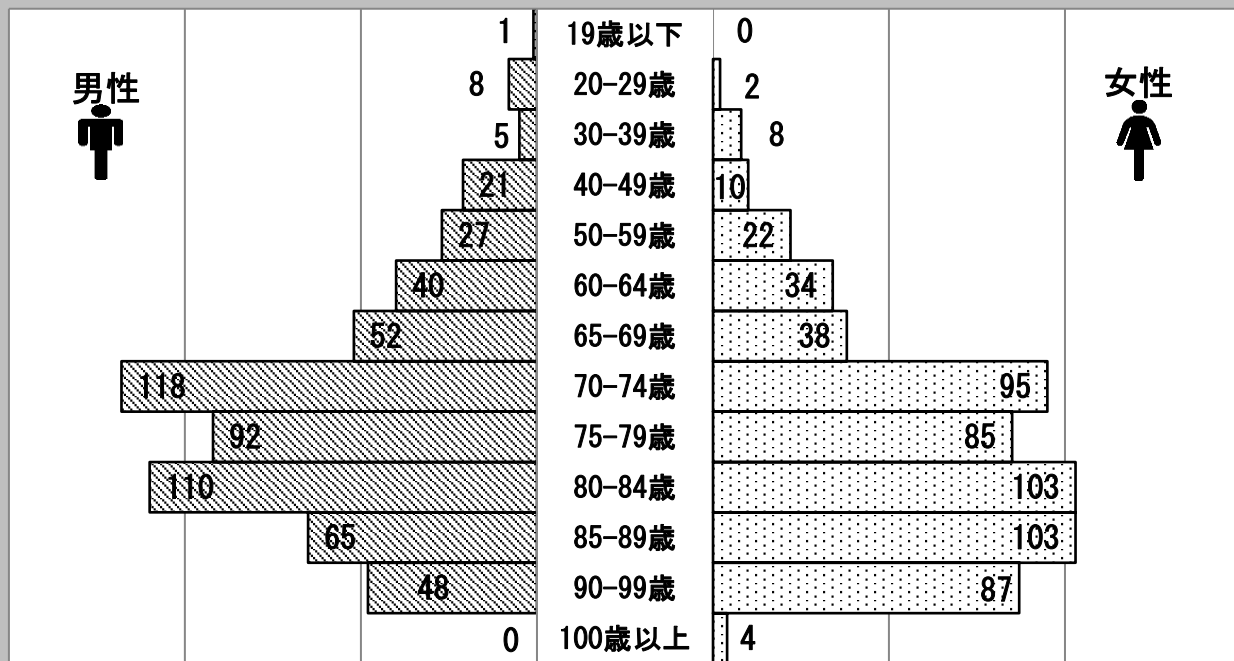
本年度は大きな調査項目の追加・変更は行われなかった。

4. 全国がん登録（2016年1月より法制化）

2020年登録件数（新規がん）：625件

診療情報管理室においては、期限内に提出を行うなど、迅速かつ正確な対応が求められる。
今後も精度の高いデータ提出を継続的に行えるよう努めていきたい。

男女別/年齢階層別 全病棟退院患者件数 (総件数：1,178件)



地域包括ケア病棟 疾病中分類別・上位疾病別・病名数

番号	順位	分類名	件数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	平均年齢
1	1	糖尿病	35	8.4	526	15.0	67.7
2	2	筋障害	21	5.0	949	45.2	84.5
3	3	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	19	4.5	741	39.0	82.2
4	4	脳血管疾患	17	4.1	609	35.8	75.1
5	4	腸のその他の疾患	17	4.1	200	11.8	68.7
6	6	その他の型の心疾患	16	3.8	418	26.1	82.3
7	6	外的因子による肺疾患	16	3.8	713	44.6	78.3
8	6	胆のう<嚢>、胆管及び膵の障害	16	3.8	290	18.1	67.6
9	9	膝及び下腿の損傷	13	3.1	513	39.5	66.8
10	10	消化器の悪性新生物<腫瘍>	12	2.9	243	20.3	89.0
11	10	内耳疾患	12	2.9	77	6.4	78.4
12	12	代謝障害	11	2.6	309	28.1	82.5
13	12	錐体外路障害及び異常運動	11	2.6	534	48.5	77.5
14	14	肝疾患	10	2.4	292	29.2	78.5

対象期間の総退院件数：419件

障害者施設等病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① G12 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	計	21	30.0
	男	4	14.3
	女	17	40.5
② G20 パーキンソン＜Parkinson＞病	計	11	15.7
	男	6	21.4
	女	5	11.9
③ G90 自律神経系の障害	計	8	11.4
	男	3	10.7
	女	5	11.9
④ G31 神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	計	4	5.7
	男	1	3.6
	女	3	7.1
④ G71 原発性筋障害	計	4	5.7
	男	2	7.1
	女	2	4.8

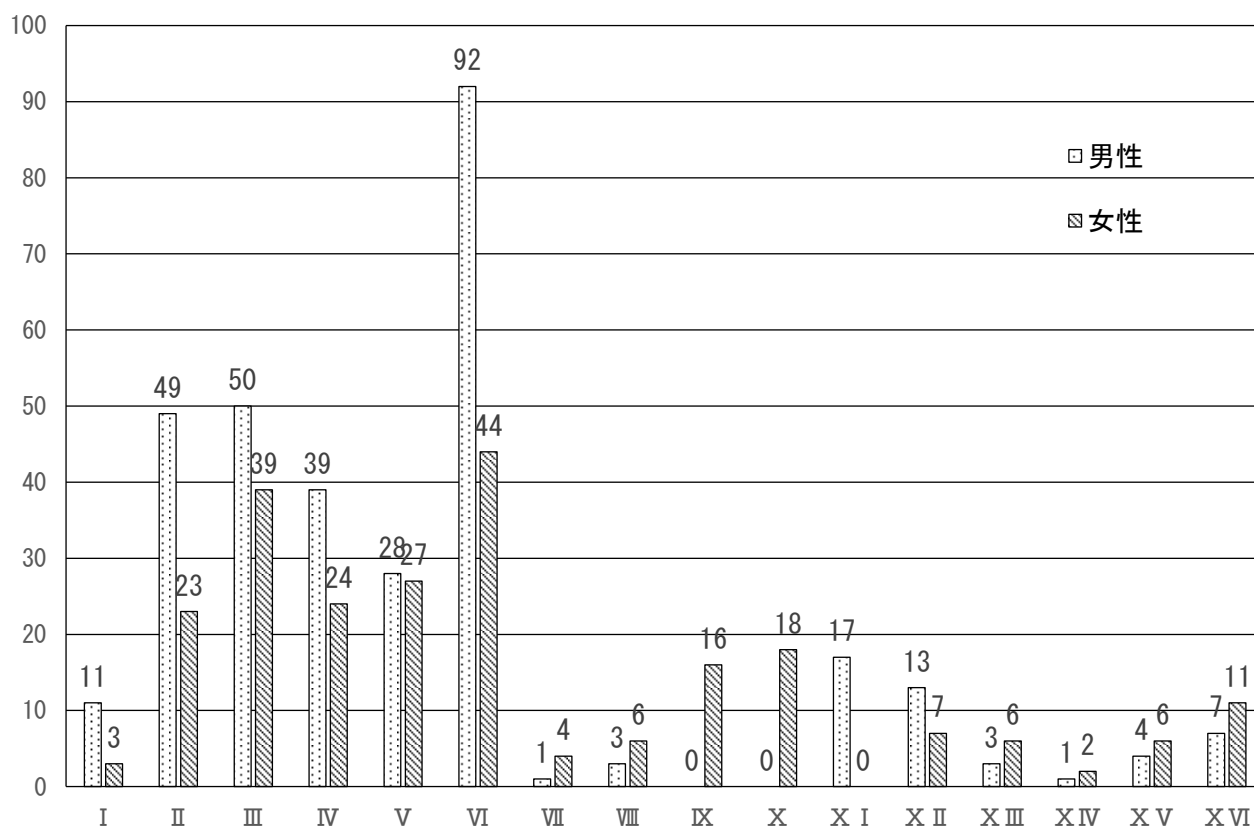
総退院件数	計	70	100.0
	男	28	40.0
	女	42	60.0

回復期リハビリテーション病棟 上位疾病割合

		総数	構成比(%)
① I63 脳梗塞	計	28	20.9
	男	11	21.2
	女	17	20.7
② S72 大腿骨骨折	計	27	20.1
	男	8	15.4
	女	19	23.2
③ I61 脳内出血	計	23	17.2
	男	10	19.2
	女	13	15.9
④ S32 腰椎及び骨盤の骨折	計	14	10.4
	男	7	13.5
	女	7	8.5
⑤ S06 頭蓋内損傷	計	10	7.5
	男	6	11.5
	女	4	4.9

総退院件数	計	134	100.0
	男	52	38.8
	女	82	61.2

緩和ケア病棟 男女別・悪性新生物部位別 件数



部位		男性	女性
I	口唇、口腔及び咽頭	11	3
II	食道、胃	49	23
III	小腸・結腸・直腸・肛門及び肛門管	50	39
IV	肝・肝内胆管・胆嚢及び胆道	39	24
V	膵	28	27
VI	呼吸器及び胸腔内臓器	92	44
VII	皮膚	1	4
VIII	中皮及び軟部組織	3	6
IX	乳房	0	16
X	女性生殖器	0	18
X I	前立腺	17	0
X II	腎盂・腎・尿管及び膀胱	13	7
X III	眼、脳及びその他の中枢神経系	3	6
X IV	甲状腺	1	2
X V	部位不明	4	6
X VI	リンパ組織、造血組織及び関連組織	7	11
計		318	236

【診療圏別・男女別・退院患者件数】

診療圏	合計	糟屋郡志免町	糟屋郡宇美町	糟屋郡篠栗町	糟屋郡須恵町	糟屋郡新宮町	糟屋郡久山町	糟屋郡粕屋町	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市西区
男	587	137	75	13	62	1	3	36	36	109	6	7	2
女	591	180	59	8	45	--	--	37	25	123	10	13	3
計	1,178	317	134	21	107	1	3	73	61	232	16	20	5
構成比(%)	100.0	26.9	11.4	1.8	9.1	0.1	0.3	6.2	5.2	19.7	1.4	1.7	0.4

診療圏	福岡市城南区	福岡市早良区	大野城市	春日市	古賀市	宗像市	福津市	太宰府市	筑紫野市	那珂川市	久留米市	大牟田市	小郡市
男	3	4	30	13	3	1	1	15	11	2	1	--	1
女	3	9	22	14	1	5	3	5	11	1	3	1	--
計	6	13	52	27	4	6	4	20	22	3	4	1	1
構成比(%)	0.5	1.1	4.4	2.3	0.3	0.5	0.3	1.7	1.9	0.3	0.3	0.1	0.1

診療圏	朝倉市・朝倉郡	北九州市	中間市	飯塚市	宮若市	田川市・田川郡	京築 (行橋市・豊前市・ 京都郡・築上郡)	その他(九州内)	その他(九州外)
男	1	3	1	1	2	--	1	5	1
女	1	2	--	3	--	1	--	3	--
計	2	5	1	4	2	1	1	8	1
構成比(%)	0.2	0.4	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.7	0.1

栄光会ファミリークリニック 栄光会訪問看護ステーション

職場紹介

1. 職員構成

院長 波多江登喜子

副院長 田崎英範

医師 青戸雄司（在宅診療）、手越静子（水曜日外来）

看護師 堤千香子（2022年1月まで）、関恵美子（2022年2月から）

小林千恵、久保山佳子、馬場恵美子、石井咲紀、田中節子、池松千沙

医事課 安河内晶子、深江美幸、下田律子、南里郁子

2. 診療内容

内科、呼吸器内科、アレルギー科、在宅診療（在宅療養支援診療所）

小児科

2021年度を振り返って <内科>

この年度もCOVID-19感染症に明け暮れた年度でした。特に5月から始まったコロナワクチンの接種には地域の皆さんのお力になれるように力を注ぎました。1回目、2回目はかかりつけ医での接種が可能でしたので1ヶ月に500～1000名の方に対応しました。50名／日以上、150名／週以上、時間外接種の加算にも度々該当し、2021年5月中旬から2022年3月末までのワクチン業務のみの総収入が22,780,911円にのびりました。

また、2020年12月より小児科、内科とも発熱外来を設置しています。感染症トリアージを行いPPE（個人用防護具）を着用しての診療となり煩雑な日々が続いています。9月からCOVID-19の抗原検査やPCR検査を開始し、オミクロン株の大流行とともに現在も毎日複数の陽性者の届け出を行っています。

在宅診療は130～140名前後の方々に対し月1～2回訪問しています。ご自宅や施設でお看取りをした方が14名、入院後に療養型病に転院になった方が12名でした。90歳以上など超高齢の方が多くなった影響と思われます。栄光会以外の他医療機関からの紹介が14名でした。

2022年度に向けて <内科>

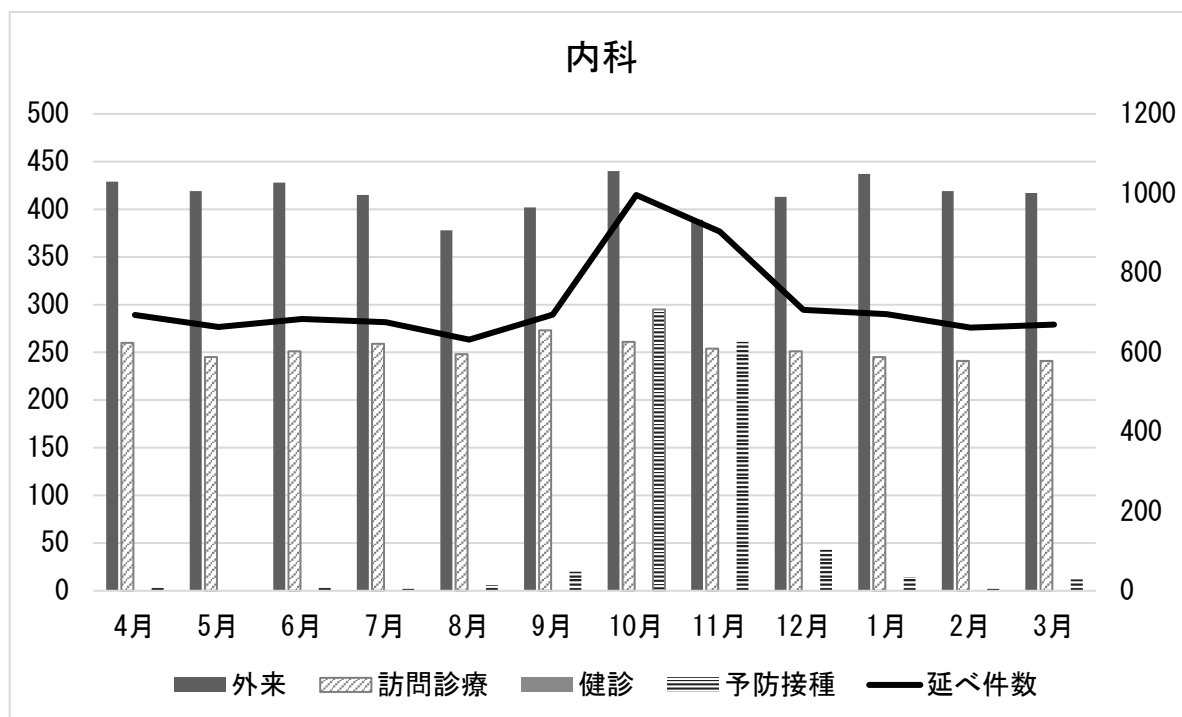
当クリニックは小児科、内科、訪問診療、通所リハビリテーションなどを行っています。今年度もCOVID-19感染症に対応した診療体制となると思われます。発熱外来にてCOVID-19の抗原検査、PCR検査を続行するとともに適応患者さんにはラゲブリオなどの内服治療も行っていきます。ワクチン接種も積極的に行う予定です。

禁煙外来、アレルギー性鼻炎に対する免疫舌下療法、睡眠時無呼吸症候群の治療、肺がん検診も継続して行います。在宅医療も栄光病院以外の医療機関からの紹介患者さんを伸ばしたいと思っています。

年間統計＜内科＞

2021 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来(人)	429	419	428	415	378	402
訪問診療(件)	260	245	251	259	248	273
健診(人)	0	0	0	0	0	0
予防接種(件)	5	0	5	2	6	20
延べ件数(件)	694	664	684	676	632	695

2021 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
外来(人)	440	389	413	437	419	417	4986	416
訪問診療(件)	261	254	251	245	241	241	3029	252
健診(人)	0	0	0	0	0	0	0	0
予防接種(件)	295	261	43	14	2	12	665	55
延べ件数(件)	996	904	707	696	662	670	8680	723



2021年度を振り返って <小児科>

小児の新型コロナ感染者は、当初はそれほど多くはありませんでしたが、2022年、オミクロン株が主流となった第6波の1月末頃より一気に増加しました。同時に、小児からの家族内感染も増え、ご家族全員を同時に診療する機会も増えてきました。

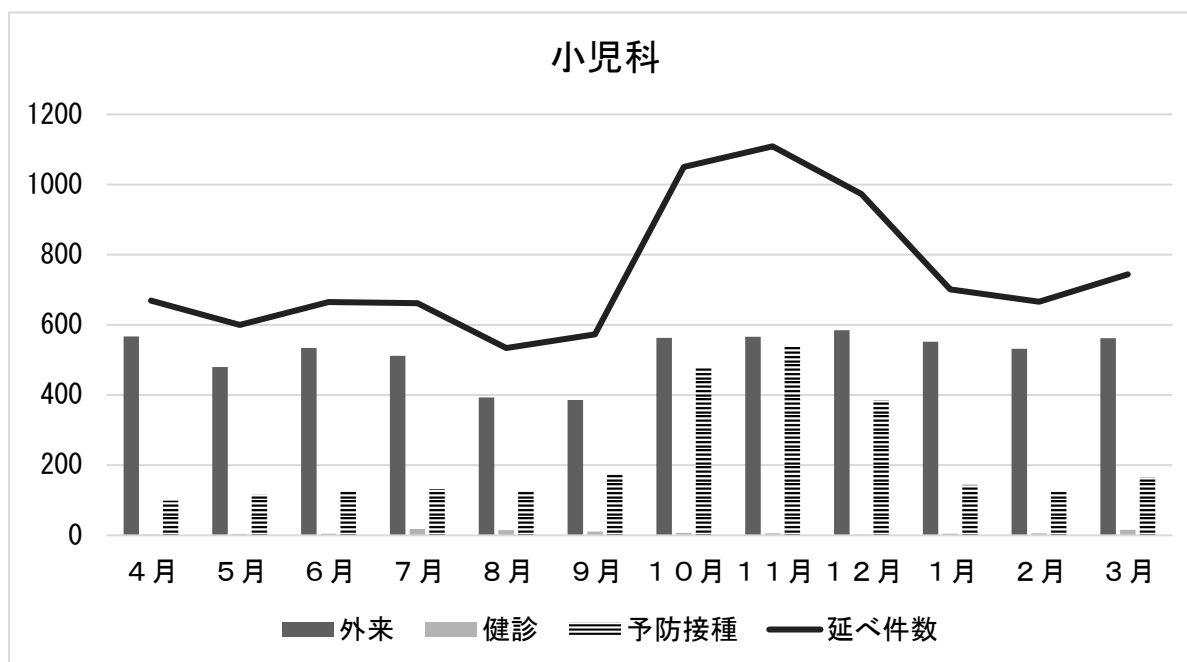
2022年度に向けて <小児科>

2022年4月より、待望の子宮頸がんワクチン勧奨再開となりました。日本では、今でもまだ年間約3000人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。それを出来る限り減らしていくために、ワクチン接種の啓蒙に注力していきます。

年間統計<小児科>

2021年	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外来(人)	567	480	534	512	393	386
健診(人)	3	4	5	18	15	11
予防接種(件)	99	116	126	132	126	176
延べ件数(件)	669	600	665	662	534	573

2021年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
外来(人)	563	566	585	552	532	562	6232	519
健診(人)	7	6	2	5	6	16	98	8
予防接種(件)	480	537	386	144	128	166	2616	218
延べ件数(件)	1050	1109	973	701	666	744	8946	746



職場紹介

1. 職員構成

管理者（主任） 柳沼 由加理

副主任 高尾 聡美

看護師（常勤7名・非常勤2名）

リハビリ（PT：1名・OT：3名）栄光病院外来リハビリ兼務

クレーク 1名

2. 利用者数

訪問看護利用者延べ人数	1, 192名	月平均99.8名
内介護保険		月平均47.9名
医療保険		月平均46.8名
年間訪問延べ件数	8, 299件	月平均691.5件
年間新規利用者数	109名	（介護保険：17名・医療保険：92名）
年間在宅看取り件数	59件	
年間夜間オンコール対応件数	296件	月平均24.6件

2021年度を振り返って

【年間目標】

地域包括ケアシステムの構築に向け医療と介護をつなぐ、キーパーソン的な役割を担い、多職種と連携しながら地域を支えていく。個々のスキル・質の向上に努め、小児から高齢者まで幅広い年齢層へ対応できる部署となる。

【評価】

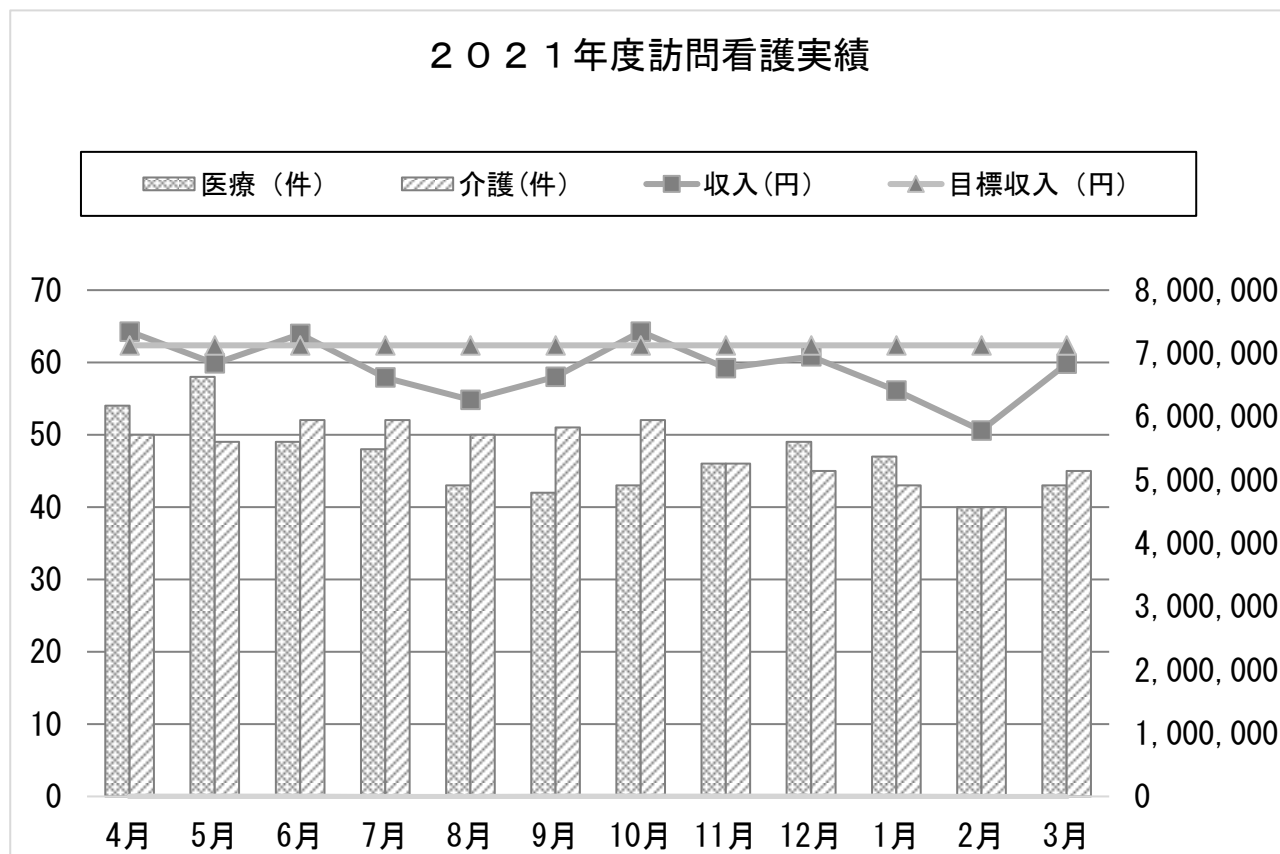
コロナ禍において入院は面会制限がある為、在宅生活を希望される方、一方では自宅に訪問スタッフが来ることでコロナ感染のリスクが高くなる為訪問を一時中断してほしいと希望される事もあり訪問件数は減少する事もあった。2021年の看取り件数は59件、前年度61件と変動はなかった。利用者・家族が自宅で安心して過ごせるようにオンコール対応は早急に細やかな配慮を心がけ、自宅での生活を支える為、多職種と連携を図り環境調整や福祉用具の導入は速やかに行った。主治医とも密に連携を図り関係構築・強化に努めた。

個々のスキルアップの為それぞれが計画を立て、Webでの研修やセミナー、死の臨床研究会年次大会へ口頭発表等積極的に行い、日頃の看護ケアの振り返りを行い訪問看護の質の向上に努める事ができた。小児経験者の看護師が退職等で減少し、小児の新規受け入れは困難な状況である。当ステーションの特色でもあるターミナルケア・家族ケアを中心に利用者・家族に寄り添い、看護の提供を行う事が出来たと考える。

2022年度に向けて

1. ホスピスの心で仕え、質の高い看護の提供の実践
2. 専門職としての意識を持ち自身のスキルアップに努める
3. 業務改善・安定した部署経営の取り組み

年間統計



介護事業本部

■ 介護事業本部

本 部 長 下稲葉 主一

副本部長 田ノ上 剛

介護事業部 理念

関わる全ての人が癒し癒される介護を実践する

～ Action with passion for mission ～（使命の為に情熱を持って取り組もう）

《基本方針》

- ・利用者一人ひとりに寄り添って、ともに歩むケアを目指します
- ・医療と介護の連携により、日常生活における安心と活力をサポートします
- ・地域のニーズに応え、積極的に地域交流・貢献に努めます
- ・職員が切磋琢磨して、健全な経営を基盤にしたやりがいのある職場を目指します
- ・職員、その家族の物心両面の幸せを追求します

職場紹介

介護事業部

《所属部署》

介護付き有料老人ホームかめやま、栄光会通所リハビリテーション

栄光会ヘルパーステーション、栄光会ケアプランサービス

介護栄養管理課、介護事業本部事務

2021年度を振り返って

2021年度は介護報酬改定が行われた。

- 1) 2025年及び2040年に向けた改定となっており、今後の各部署に求められる役割や栄光会として担っていくべきことを検討する機会となりました。
- 2) 本年度は特に介護事業部内の業務における連携を強化して、課題の共有や解決に向けて取り組みを行った。日常業務を通じて、相互理解が深まる事となりました。
- 3) 新型コロナウイルス感染症が拡大し、2年が経過しました。この間、様々な困難がありましたが、ご入居者・ご利用者、ご家族のご理解、また、職員の協力により、運営を継続することができました。今後に向けて、BCPをより具体的なものに改定し、対策を強化していきます。

2022年度に向けて

《介護事業部 事業計画》

1. サービスの質の向上

- ・EBMIに基づいた医療介護の提供
- ・ホスピタリティの実践
- ・ご利用者と職員双方の満足度追求

2. 地域共生を目指した事業展開

- ・ 地方行政との連携強化
- ・ 空きスペースの有効活用
- ・ 介護予防事業の推進

3. 安定した収益の確保

- ・ 加算算定を安定して満たす運営の実践
- ・ 営業活動の更なる展開
- ・ 切れ目のないサービスの提供

4. 働きやすい職場作り

- ・ 教育システムの構築
- ・ 労働環境の整備
- ・ 部署間の協力体制推進

職場紹介

1. 職員構成

職種	資格	氏名	勤務形態	
管理者 主任介護支援専門員	介護福祉士	江藤 晃	常勤	
主任介護支援専門員	社会福祉士	森下 茂子	常勤	
	歯科衛生士	田中 まゆみ	常勤	
	社会福祉士	川畑 志保	常勤	
介護支援専門員	介護福祉士	室 孝二	常勤	
主任介護支援専門員	介護福祉士	青戸 孝江		非常勤
	合計		常勤 5名	非常勤 1名

2. 業務内容

契約者が居宅での介護サービスやその他の保健医療サービス、福祉サービスを適切に利用することができるよう

- ・ 介護相談
- ・ 要介護認定支援、更新の手続き代行
- ・ 居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- ・ サービス事業者や行政との連絡調整
- ・ 施設入所・退所支援
- ・ 介護予防支援等業務の一部委託

等が中心の業務となる

2021年度を振り返って

在宅介護の現場では、新型コロナに感染した利用者や職員についての連絡が、毎日のようにケアマネジャーに寄せられ、サービスの変更や家族の感染に伴うショートステイの確保、受診調整同行などケアマネジメントの対応に追われる、新型コロナウィルスの影響下の元であったが、今年度 特定事業所加算Ⅰ・特定事業所医療介護連携加算の算定要件を満たす事業所となった。

特定事業所加算Ⅰ・特定事業所医療介護連携加算の算定には、ターミナルケアマネジメントや中重度者、支援困難ケースへの積極的な対応が必要とされ、専門性の高い人材確保、質の高いケアマネジメントの実施体制を、今年度中に整備することができた。

栄光病院はじめ、近隣の病院を退院し在宅介護をされる方、地域にお住まいで介護が必要な方に対し、

地域の社会資源を活用できるようケアマネジメントを提供し、介護予防支援については、地域包括支援センターより受託している。また、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、ヘルパーステーション、通所リハビリテーション、訪問診察など、法人内事業所はもちろん、地域の他事業所や行政と連携を取りながら、多職種協働によるケアマネジメントを提供している。ウィズコロナ時代の新しいケア様式の中、課題の抽出が進み、現場対応の方法共有、ICTツールの活用等の業務改革が定着していった一年であった。

職場紹介

1. 職員構成

看護師： 常勤6名 非常勤1名
 ケアワーカー： 常勤8名 非常勤2名
 支援相談員： 1名
 介護支援専門員： 1名
 機能訓練指導員： 非常勤1名

2. 業務内容

施設入居者への生活全般に対する支援

2021年度を振り返って

2021年度もコロナウイルスの影響が大きい1年であった。優先度が高い方から順次入居受け入れを行っていったが、看取り以外での退居（入院、他施設への転居）が多く、稼働はほぼ横ばいとなった。外部からのボランティアも引き続き制限しているが、地域等の感染状況を考慮し、面会制限の内容を随時変更するなど、できるだけ皆様のストレス解消につながる方法を考えていった。皆様の前で天ぷらを揚げるなど、施設内で行える取組みを管理栄養士と協力し、不定期ではあるが継続して行った。

年間統計

稼働率

2021 年									2022 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
88%	85%	86%	84%	83%	86%	88%	86%	88%	84%	84%	83%

看取りの数

2021 年									2022 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1	1	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0

平均年齢

2021 年									2022 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
90.6	89.9	91.1	91.1	90.9	91.5	90.5	90	90.5	89.6	89.7	89.8

職場紹介

1. 職員構成

理学療法士	3名（内1名 非常勤）
作業療法士	2名
看護師	1名（栄光会ファミリークリニックとの輪番）
介護福祉士	7名（内2名 非常勤）
ヘルパー	2名
相談員	1名（非常勤 介護士兼務）
事務員	1名
送迎非常勤	2名

2. 業務内容

利用者様のリハビリ 送迎
自宅での動作検討 ご家族への介護、介助アドバイス
健康観察 社会参加の支援

2021年度を振り返って

昨年度も、新型コロナウイルスの感染状況により、通所リハビリの活動が大きく左右される一年となりました。

利用者様のご利用に関しては、緊急事態宣言中の利用自粛や、施設内感染に伴う休業等の影響もあり、利用人数はかなり不安定な状況でした。

その中でも更なる安全な営業を心がけて、度重なる感染対策の見直しや換気管理、安全な食事環境の徹底と体調不良時の利用者及び、家族に対する注意喚起を再三実施しました。

また、コロナ禍ではご自宅での担当者会議等が中止となり、ご家族との情報共有やご自宅での動作確認等が図りにくい状況が続いています。

今後も、コロナの影響は続く想定し、この状況下においても活動性の高い生活を支える通所リハビリの役割を保てるよう模索してまいります。

職場紹介

1. 職員構成

管理者（常勤兼務）	： 1名
サービス提供責任者	： 1名
介護福祉士（常勤専従）	： 1名
介護福祉士（非常勤専従）	： 2名
ヘルパー（常勤兼務）	： 1名

2. 業務内容

ご利用者のご自宅に訪問し、生活や身体の介護を行う。

具体的には、料理／掃除／洗濯などの家事全般から、

日用品の買い出し（買い物代行）、そして食事／入浴／排泄などの
各種身体介助が中心となる。

2021年度を振り返って

昨年同様、コロナウイルス感染予防への対策に細心の注意を求められたと同時に、限られた制度の範囲内で、ご家族やケアマネージャーと連携しながら、いかにご利用者のニーズに応えるか、試行錯誤の連続であった。今年のアンケート調査でも高評価を頂くことができたが、これに甘んじることなく、今後も研鑽を積み重ねていきたい。

訪問介護事業は全国的に厳しい運営状況にあり、実際、近隣のいくつかの事業所も閉鎖となっている。その主な理由は、スタッフの少数化と高齢化にあり、事業所単独での努力では立ち行かなくなっているのが実情である。よって、今後も事業所間の連携や行政との協力関係を築いていくことも必要と考える。

職場紹介

1. 職員構成

管理栄養士 1名

委託（日清医療食品株式会社） 調理師 3名

2. 業務内容

献立作成・発注・施設入所者・利用者様食事提供・栄養管理・クリニック栄養指導

2021年度を振り返って

入所者・利用者様に栄養のバランスを考慮し、より家庭的な味を心がけ、安心安全な食事の提供を目標に取り組んできました。

コロナ禍で、外出が難しい入所者様には、季節を感じていただけるような食事を心がけました桜の時期には、桜ちらし寿司や桜もち、夏の暑い時期はかき氷・そうめん、冬は米麴から作る甘酒や大豆から味噌を作る等、食を通して癒し癒される時が過ごせたと感じています。

多職種協働によるNST（栄養サポートチーム）を月に1回行う事で栄養の重症化を防ぎ個々の食事形態や喫食状況を把握、誤嚥予防、体重減少等、早期に身体状況の変化に気づき改善策を考える様に取り組んでいます。

2022年度にむけて

入所者様は、コロナ禍で外出が困難なため、四季折々の食材を献立に入れ込む事で、季節を感じていただき、より家庭的な雰囲気味わっていただける様に努めていきます。

通所リハビリ利用者様にはリハビリの状況を把握し、フレイル・サルコペニア予防のため、その方にあった栄養量の提供・補助食品の提案を行う。一人一人スクリーニングを行う事で体重の変化、身体状況をすばやく把握する事で健康寿命をのばし、自分らしい生活が送れるお手伝い出来ればと思います。

外来クリニックにおいては生活習慣病予防のため、栄養指導の必要性を理解いただき具体的な献立の提案を行う。タニタ体組成計を用い、見える化による目標を設定し達成を目指します。

コロナ禍ではありますが、地域包括における栄養士の役割として健康教室・うきうきルーム・料理教室開催時には、最新の栄養情報を伝え食の支援活動を行う事で地域の健康増進、病気の予防、介護予防等の役割をはたしていきたいと思っています。

又、子供の栄養不良・過多も近年問題となっています。身体は毎日食べる物で作られます。

世代ごとの問題点もあり、一人で解決するのではなく、今こそ地域の力が必要と感じます。

微力ではありますが、栄光会栄養士の力を発揮していきたいと思っています。

伝道部

職場紹介

1. 職員構成

チャプレン/グリーフカウンセラー 清田直人

2. 業務内容

社会医療法人 栄光会 栄光病院 伝道部は1997年に設立し、病床訪問をはじめとし、患者礼拝、院内キリスト教行事の企画等を中心に活動している。

- 1) 患者、家族へのスピリチュアルケア、職員へのカウンセリング、
遺族へのグリーフカウンセリング
- 2) 患者礼拝“よきおとずれ会”“第四日曜礼拝”の主宰
- 3) 院内キリスト教行事の執行
- 4) 院内における洗礼式、冠婚葬祭などの執行
- 5) NPO栄光ホスピスセンター
- 6) 協力牧師会事務局 栄光ひまわり会事務局

a) 伝道部基本理念

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」
—栄光会創立の精神—

- i) キリスト教病院としての栄光病院建院の精神を確認し、「わたしたちの信仰」に基づいてその目的達成につとめる。
- ii) キリスト者スタッフは、まず自らの勤務を通じてキリスト者としての立証につとめ、他のスタッフや患者・家族に対して、キリストの愛を持ってそのつとめを行う。

b) 伝道部目標

- i) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙
- ii) 院内キリスト教行事の充実
- iii) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア

2021年度を振り返って

年間聖句：「どうか主が私たちの中にいて、進んでくださいますように」（出エジプト記 34：9）

- iii) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア コロナ禍における病床伝道を意識する
○様々な制限がある中でも、しっかりと患者・家族・利用者に福音伝道がなされていくよう祈りつつ、各部署と密に連携し、患者・家族・利用者の宗教的ニーズを見過ごさずケアに励む。

1. 行事

- ・たんぽぽ 毎月発行
- ・よきおとずれ会 院内放送のみで開催
毎週火、木、土曜日 9:00～9:30 栄光の間（野村先生、清田）
- ・聖日礼拝 第4日曜日 10:30～11:30 礼拝堂
新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・イースター集会 日時：2021年4月3日（土）14:00～15:00 院内放送のみで開催
- ・協力牧師会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・第58回追悼記念会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・召天者墓前記念礼拝 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・秋の特別讃美集会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止
- ・栄光病院クリスマス会 日時：12月25日（金）14:00～14:50 院内放送のみで開催
- ・年末感謝礼拝 日時：2021年12月29日（水） 8:30～8:50 礼拝堂
- ・年頭感謝礼拝 日時：2022年1月5日（水）8:30～8:50 礼拝堂
- ・第59回追悼記念会 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策により中止

2. その他

院内葬儀	0件（3月31日現在）
院内結婚式	0件（3月31日現在）
納骨式	5件（3月31日現在）
洗礼式	2件（3月31日現在）

2022年度に向けて

年間聖句：「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい」（ローマ人への手紙 12:12）

1) キリシト教精神に基づく病院理念の啓蒙

○栄光会の体制が大きく変化していくなかで、改めて栄光会の土台となるキリシト教精神を確認しつつ啓発する。

地域協働部

職場紹介

1. 職員構成

部長 下稲葉 圭一 部長補佐 鷹尾 剛 / 和田 優里菜

※地域協働部は、栄光会他部署のメンバー諸氏の協力により成り立っています。

2. 業務内容

時代背景

2025年、2040年に向け、時代は「地域包括ケア」及び「地域共生社会」へと向かっている。
人口体系の変化に伴う様々な変化に、地域社会及び地域事業者は対応できているのか？

目的

医療介護と地域社会がネットワークを組み、地域社会で生活をしている皆さまの幸せと幸せな人生
最期に貢献する為に協働する仕組みをつくる事にある。

内容

栄光会と地域を繋ぎ、ネットワーク化する中で協働できる仕組みをつくる事

- ①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営
- ②「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局
- ③「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局
- ④大学及び各団体、企業との協働
- ⑤iPadで脳若トレーニング講座の運営

2021年度を振り返って

下稲葉会長及び部長補佐を担っていた林邦男さんが7月に他界し、大きなショックと悲しみ、そして貴重な力を失った。また本年度も新型コロナウイルス感染拡大により各事業が影響を受けた。課題としては、事業の継続性である。その体制と環境をつくる事が次年度の大きなテーマになった。

A 志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営

「うきうきルーム」は、担当町内会の公民館に理学療法士を中心に訪問し、各種講座や運動を行う。

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大によりこれらの活動が中止となる。

7月より、志免町健康課主催のセンターで行う「うきうきルーム」のみ1回／月の運営を行う。

B 「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大により2年連続活動休止状態である。

C 「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局

当活動を通じて、全町的にネットワークの構築が出来てきている。

互助活動広報啓発事業及び互助活動コーディネート事業を通じ、いくつかのモデル事業及び協働を行う。その1つに、別府3町内会「べふ3福祉のまちづくりプロジェクト」との協働がある。

町内会内で生きる力が気になる方の支援を行う為、住民と専門職等で「生きる力支援推進会議」を実施。ここから、各組での福祉サポーター配置等を行い「生きる力の見守り」を推進する方針へ。

D 大学及び各団体、企業との協働

福岡工業大学様との協働⇒篠栗町前期高齢者の体力測定プロジェクト参加

志免中学校様との協働⇒支え合い新聞部活動

志免町シニアクラブ連合会様との協働⇒シニアスマホトレーナー育成講座開催へのコーディネート等々..

E iPadで脳若トレーニング講座の運営。

脳若ステーション栄光会内で、iPadで脳若トレーニング講座の運営を実施。通所型と訪問型にて運営。

通所型は2回／月の水曜・木曜で実施。実施場所は、医療介護施設かめやま内。

訪問型は1回／月で志免町社会福祉協議会デイサービス輝き。他は、東月隈自治会で開催。

2022年度に向けて

前年度の活動に加え、今年度は「介護予防事業」実施への準備を推進する他、地域協働事業については、コロナ等があっても事業継続できるようハイブリット体制を組み、PDCAの積み重ねを行っていく。その中で、多様な人財及び多様な団体と繋がりネットワークの拡がりへと繋げていく。

年度統計

2021年度 志免町委託事業 『うきうきルーム』参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
別府2	準備月	新型コロナウイルス感染拡大により、2020年度は中止となる。											0
別府3													0
南里3													0
志免5													0
志免6													0
石橋台													0
向ヶ丘													0
王子八幡													0
モントーレ													0
御手洗													0
サンリヤン													0
保健センター		中止		12	中止		16	13	11	7	10	9	78
合計		0	0	12	0	0	16	13	11	7	10	9	78

2021年度 志免町委託事業 『通所型健康教室』参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	事業自体がなくなる。												0

2021年度 栄光会脳若ステーション 『iPadで脳若トレーニング』 訪問型
(場所：志免町社会福祉協議会 デイサービス輝き)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	17	中止		17	中止		20	20	20	中止		17	111

2021年度 栄光会脳若ステーション 『iPadで脳若トレーニング』 医療介護施設かめやま 木曜日通所型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1回目	7	5	休	7	5	休	7	7	6	5	4	6	52
2回目	9	休	休	6	休	休	6	6	5	休	5	4	32
合計	16	5	0	13	5	0	13	13	11	5	9	10	84

2021年度 栄光会脳若ステーション 『iPadで脳若トレーニング』 医療介護施設かめやま 水曜日通所型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	未	未	未	未	2	休	2	1	2	休	休	2	9

2021年度 栄光会脳若ステーション 『iPadで脳若トレーニング』 訪問型 (場所：東月隈公民館)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	40	40

ボランティア統括部

職場紹介

1. 職員構成

主任 1名

2. 業務内容

ボランティア活動が円滑になされるための支援

2021年度を振り返って

昨年度（2020年度）と同様、コロナ禍の中、ボランティア活動は一部を除き 休止となっています。2020年2月23日より、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、ボランティアのみなさんには屋外での活動である花壇の整備以外、活動の休止をお願いしています。感染の収束を願いながらも、2年以上の月日が経過し、今なお ボランティア活動の全面再開の見通しは立っていません。

そのような中、マスクを着用する、病院建物内には入らないといった感染対策を講じた上で活動することを確認し、新型コロナウイルス対策会議の承認を得て、花壇ボランティアの活動は継続されています。『癒しの花壇』が病院を訪れる多くの人々の心を明るくしてくれていることでしょう。今、病院の玄関前の花壇には 次々と美しい花が咲き、通る人の目も心も 慰められていると思います。

その他 患者さんに直接お会いすることはできないけれども、折り紙やペーパークラフトの飾り物を自宅で作って送ってくださるボランティアさんがいらっしゃいます。患者さんや病院のことを想いながら、一折り、一折り 作ってくださったことを考えると心が温められます。患者さんの見える所に展示するようにしています。

2022年4月現在、63名の方がボランティアに登録してくださっています。活動休止の期間、63名のみなさんにあてて、はがき、メール、電話等でつながりを絶やさないようにと努めています。ボランティアさんからも励ましのお便りをいただき感謝しています。またボランティアさんに元気な顔を見せていただける日が来るのを心待ちにしています。

年間のボランティア活動

製作、整備活動

外回りの整備—玄関前ボランティア花壇

季節の装飾—折り紙の壁掛け ・ ペーパークラフトの花

年度実績

玄関前ボランティア花壇の整備

月	新規登録数	延べ活動 回数	延べ活動 時間
4	0	12	9:00
5	0	11	15:20
6	0	14	15:35
7	0	21	18:30
8	0	15	9:25
9	0	15	10:00
10	0	15	11:55
11	0	15	11:55
12	0	7	6:20
1	0	6	3:05
2	0	7	4:05
3	0	9	6:55
計	0	147 回	123 時間 5 分

季節の装飾の製作

月	作 品	
4	折り紙の壁飾り	『 チューリップ 』
5	折り紙の壁飾り	『 端午の節句 』
	ペーパークラフト	『 カーネーション 』
6	折り紙の壁飾り	『 紫陽花 』
7	七夕飾り	
8	折り紙の壁飾り	『 納涼 』
9	折り紙の壁飾り	『 お月見 』
10	折り紙の壁飾り	『 ハロウィン 』
11	折り紙の壁飾り	『 秋の風情 』
12	折り紙の壁飾り	『 クリスマス 』
	ペーパークラフト	『 クリスマスオーナメント 』
1	折り紙の壁飾り	『 お正月 干支 』
	ペーパークラフト	『 かすみ草 』
2	折り紙の壁飾り	『 バレンタイン 』
	ペーパークラフト	『 レンギョウ 』
3	折り紙の壁飾り	『 ひなまつり 』
	スクラッチアート	『 星座 』

本部事務局

職場紹介

1. 職員構成（2021／4／1現在）

事務局長	1名
事務局次長	1名
課長	1名
主任・副主任	11名
一般職	5名
【計】	19名

2021年度を振り返って

コロナ禍2年目の年度でした。ワクチン接種も開始となりましたので、栄光会、また 本部事務局としても地域住民の方々のために少しでもお役に立てればと、積極的にその業務に取り組んで参りました。私たちとして初めての経験でもあり、戸惑いもありましたが、多職種で協力し合い、システムを少しずつ改善しながら、安全なワクチン接種を推進することができたと考えております。

また本部事務局としては、2021年度内に新しい職員を複数名迎えました。新たな人員体制の元で、まずはお互いのコミュニケーション、良い人間関係の構築に努めるという、本部事務局としての土台作りの年度となった、と今振り返って感じております。今後は、それぞれの課における業務の再確認・見直しを図り、法人における本部事務局の役割をしっかりと果たすべく、発展させていくことができればと考えております。

2022年度に向けて

2022年度は、まさに「withコロナ」の年度になると思われます。本部事務局の業務もコロナ対策と切り離すことは出来ないため、今後はさらに柔軟な対応と臨機応変さが求められることが予想されます。お互いに協力し合い、タイムリーな情報共有に努めながら、本部事務局としてしっかりとその役割を果たして参りたいと考えます。また、本部事務局の組織体制の見直し・再構築にも着手し、職員一人一人がさらに生き生きと活躍できる職場作りに取り組んで参ります。

職場紹介

「経営の羅針盤」となるべく、法人の経営成績および財政状態を適正かつ速やかに把握し、経営の改善・向上に寄与する」。

1. 業務内容

- 1) 各種財務諸表作成
- 2) 資金の調達、管理、運用
- 3) 理事会、幹部会への財政状態・経営成績・財務分析報告
- 4) 新規事業計画の支援（財務面での検証）、または立案・作成
- 5) 法人の意思決定に資する各種情報の収集

年度統計

外来患者数

診療科	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
内科	1,487	1,452	1,484	1,553	1,561	1,414
外科	303	215	241	285	308	311
循環器科	184	170	188	178	177	187
呼吸器科	207	160	204	195	201	185
整形外科	86	88	99	105	108	93
リハビリ	89	85	95	117	108	143
健診センター	279	329	479	491	501	362
在宅医療センター栄光	149	130	134	133	177	184
その他診療科	207	212	213	229	207	229
〈計〉	2,991	2,841	3,137	3,286	3,348	3,108

診療科	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内科	1,506	1,437	1,578	1,638	1,714	1,814	18,638
外科	318	336	348	254	194	288	3,401
循環器科	175	167	193	151	139	188	2,097
呼吸器科	204	183	181	182	170	192	2,264
整形外科	99	141	105	101	79	123	1,227
リハビリ	161	147	144	123	95	151	1,458
健診センター	521	829	676	337	390	419	5,613
在宅医療センター栄光	169	179	172	135	146	173	1,881
その他診療科	588	1,128	429	225	75	166	3,908
〈計〉	3,741	4,547	3,826	3,146	3,002	3,514	40,487

医業収入

年			2021		2021		2021		2021		2021					
月			4月		5月		6月		7月		8月		9月			
患者数	栄光病院	外来	人	2,563		2,382		2,524		2,662		2,670		2,562		
		健診センター		279		329		479		491		501		362		
	在宅医療センター栄光			149		130		134		133		177		184		
	訪問看護			867		780		892		838		778		774		
	ファミリークリニック	内科(外来)		434		432		432		417		384		422		
		内科(訪問診療)		260		245		234		259		248		273		
		小児科		669		588		683		662		534		573		
	通所リハ			983		912		963		1,027		891		957		
病床棟	・ 延患者数 ・ 1日平均	3 A	人	607	20.2	555	17.9	568	18.9	696	22.5	669	21.6	661	22.0	
		3 B		375	12.5	447	14.4	546	18.2	535	17.3	522	16.8	590	19.7	
		2 C		507	16.9	578	18.6	505	16.8	489	15.8	474	15.3	544	18.1	
		4 A		1,142	38.1	1,120	36.1	1,087	36.2	1,009	32.5	1,270	41.0	1,206	40.2	
		4 B		691	23.0	685	22.1	692	23.1	718	23.2	728	23.5	674	22.5	
		5 A		917	30.6	856	27.6	830	27.7	804	25.9	976	31.5	916	30.5	
		全院		4,239	141	4,241	137	4,228	141	4,251	137	4,639	150	4,591	153	
	・ 稼働率 ・ 入退院 (転棟含む)	3 A/24	人	84%	30	75%	26	79%	32	94%	28	90%	28	92%	22	
		3 B/24		52%	36	60%	43	76%	45	72%	36	70%	23	82%	28	
		2 C/23		73%	28	81%	35	73%	28	69%	29	66%	35	79%	46	
		4 A/45		85%	83	80%	72	81%	68	72%	76	91%	66	89%	61	
		4 B/28		82%	16	79%	14	82%	11	83%	10	84%	9	80%	15	
		5 A/34		90%	20	81%	27	81%	28	76%	16	93%	29	90%	23	
		全院		79%	213	77%	217	79%	212	77%	195	84%	190	86%	195	
	有老<かめやま> 35室		%	88%		84%		84%		81%		82%		86%		
	その他	・ 時間外比率		%	12%		17%		12%		20%		12%		11%	
		・ 死亡退院		人	38		37		37		41		31		42	
・ 救急車来院回数		回	13		17		15		18		14		22			

年			2021		2021		2021		2022		2022		2022			
月			10月		11月		12月		1月		2月		3月			
患者数	栄光病院	外来	人	3,051		3,539		2,978		2,674		2,466		2,922		
		健診センター		521		829		676		337		390		419		
		在宅医療センター栄光		169		179		172		135		146		173		
		訪問看護		894		856		852		803		648		821		
		ファミリークリニック		内科(外来)	735		650		456		483		421		430	
				内科(訪問診療)	261		254		251		245		241		241	
				小児科	1,050		1,109		973		669		666		743	
通所リハ			1,026		978		923		527		547		880			
病床棟	・ 延患者数 ・ 1日平均	3 A	人	609	19.6	576	19.2	630	20.3	547	17.6	491	17.5	579	18.7	
		3 B		577	18.6	574	19.1	589	19.0	547	17.6	501	17.9	588	19.0	
		2 C		528	17.0	560	18.7	555	17.9	539	17.4	446	15.9	516	16.6	
		4 A		1,085	35.0	1,084	36.1	1,167	37.6	1,192	38.5	1,046	37.4	1,243	40.1	
		4 B		779	25.1	758	25.3	780	25.2	807	26.0	690	24.6	772	24.9	
		5 A		1,020	32.9	983	32.8	927	29.9	968	31.2	900	32.1	965	31.1	
		全院		4,598	148	4,535	151	4,648	150	4,600	148	4,074	146	4,663	150	
	・ 稼働率 ・ 入退院 (転棟含む)	3 A/24	人	82%	17	80%	22	85%	30	74%	32	73%	27	78%	29	
		3 B/24		78%	32	80%	34	79%	35	74%	27	75%	18	79%	29	
		2 C/23		74%	38	81%	33	78%	37	76%	28	69%	32	72%	41	
		4 A/45		78%	80	80%	74	84%	93	85%	71	83%	79	89%	86	
		4 B/28		90%	13	90%	11	90%	12	93%	7	88%	17	89%	12	
		5 A/34		97%	18	96%	30	88%	29	92%	17	95%	20	92%	22	
		全院		83%	198	85%	204	84%	236	83%	182	82%	193	85%	219	
	有老<かめやま> 35室			%	88%		86%		88%		84%		83%			
その他	・ 時間外比率	%	13%		21%		19%		25%		28%		35%			
	・ 死亡退院	人	30		38		46		31		32		42			
	・ 救急車来院回数	回	25		16		23		36		25		20			

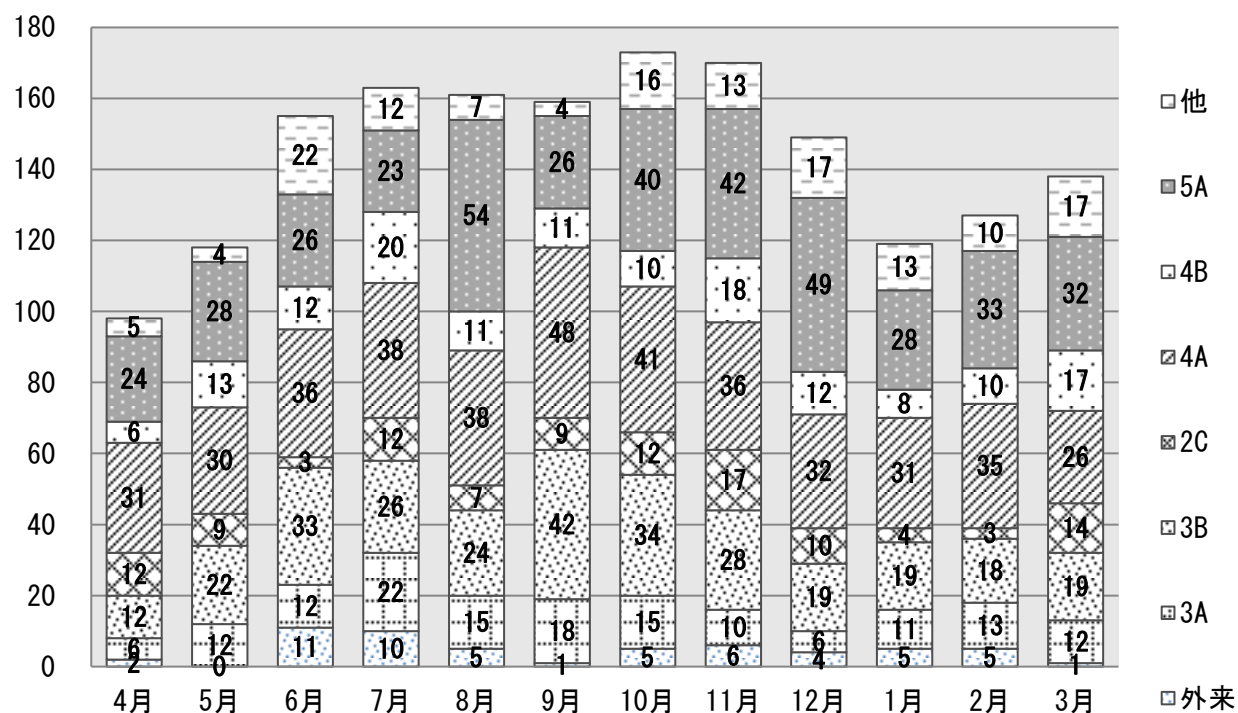
その他

医療安全管理委員会

2021年度インシデント・アクシデント報告年間集計（2021.4.1～2022.3.31）

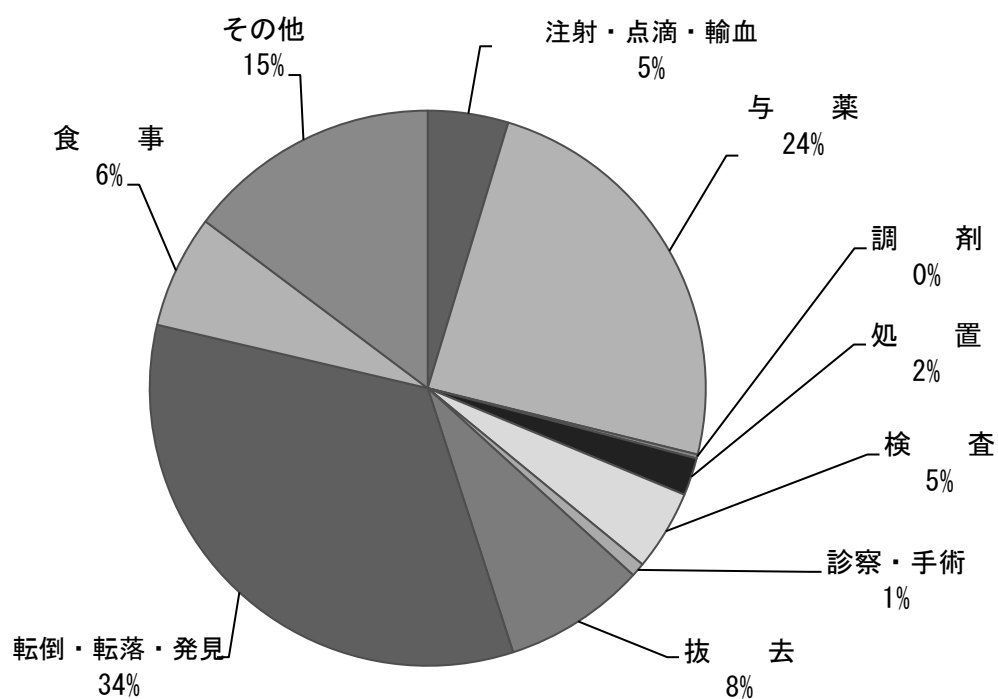
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	2	0	11	10	5	1	5	6	4	5	5	1	55
3A	6	12	12	22	15	18	15	10	6	11	13	12	152
3B	12	22	33	26	24	42	34	28	19	19	18	19	296
2C	12	9	3	12	7	9	12	17	10	4	3	14	112
4A	31	30	36	38	38	48	41	36	32	31	35	26	422
4B	6	13	12	20	11	11	10	18	12	8	10	17	148
5A	24	28	26	23	54	26	40	42	49	28	33	32	405
他	5	4	22	12	7	4	16	13	17	13	10	17	140
計	98	118	155	163	161	159	173	170	149	119	127	138	1,730

2021年度インシデント・アクシデント報告件数年間推移



2021年度インシデント・アクシデント報告内容内訳（2021.4.1～2022.3.31）

	外来	3A	3B	2C	4A	4B	5A	他	合計
注射・点滴・輸血	6	14	17	3	24	2	4	11	81
与薬	0	39	78	15	153	38	90	5	418
調剤	0	0	1	0	0	0	0	3	4
処置	1	3	4	0	12	15	2	1	38
検査	19	3	2	1	18	10	7	21	81
診察・手術	11	0	0	0	1	0	1	1	14
除去	0	33	68	4	15	9	13	1	143
転倒・転落・発見	1	60	90	84	75	25	230	17	582
食事	0	0	9	1	14	29	26	35	114
その他	17	0	27	4	110	20	32	45	255
計	55	152	296	112	422	148	405	140	1,730



研修状況

院内・院外研修状況

■ 2022年度 新入職員研修スケジュール

◀ 新型コロナウイルス感染症対策 対応版 ▶

研修場所 2F大会議室

4月1日(金)

- | | | |
|--------|-------|---|
| 8:30～ | 9:00 | 開院記念日・入職式 |
| 9:10～ | 10:00 | 訓辞・講義 井上理事長 |
| 10:00～ | 10:20 | 法人の概況・職員の心構え 後藤事務局長 |
| 10:20～ | 10:50 | 人事・労務関係配意事項Ⅰ 川原課長代理
人事・労務関係配意事項Ⅱ／「人事制度について」 後藤事務局長 |
| 11:00～ | 11:40 | 感染管理「院内感染防止対策について」 下稲葉(道)副看護部長 |
| 11:40～ | 12:20 | 「看護部の紹介」 堤看護部長 |
| 12:20～ | 12:30 | 名札写真撮影 (本部事務局内撮影場所) |
| 13:30～ | 14:10 | 「栄光会における地域協働活動」
～住民が支え合い、安心して暮らせる地域社会を目指して～
下稲葉(主)本部長 |
| 14:10～ | 14:30 | 消防訓練実施要領説明 安川課長 |
| 14:30～ | 15:10 | 消防訓練 安川課長
＜礼拝堂・5A or リハビリテーション課前自動販売機付近＞ |
| 15:20～ | 16:00 | 「良き援助者とは？」下稲葉(順)副理事長・ホスピス長 |
| 16:00～ | 16:30 | 「医療安全」・「臨床倫理」 吉田副院長 |
| 16:30～ | 17:00 | 人事・労務関係入職時提出書類説明 布川主任 |

4月4日(月)

- | | | |
|-------|------|---------|
| 8:30～ | 9:00 | 永年勤続表彰式 |
|-------|------|---------|

第 13 回 T Q M 研究発表会の開催

栄光会第 13 回 T Q M 研究発表会を開催した。目的は、栄光会の患者様・利用者様に対するサービス向上、医療・看護・介護のレベルアップ及び勤務モラル向上を期したもの。栄光会全部署が参画し、病院主催により開催。従来通り、発表内容に対する審査と報奨を検討し、各部署創意工夫を凝らした準備と発表を行った。

司会・進行等 看護部及び本部事務局合同

開催日：2021 年 9 月 11 日（土） 14：00～16：00 礼拝堂及び W e b 併用

発表部署（8 部署）下記スケジュール参照

発表時間等 発表時間 8 分×8 部署 挨拶・講評 27 分 計 120 分

審査員 井上理事長・青戸副理事長・下稲葉副理事長・吉田副院長・的野看護部長

堤看護部長代理・谷副看護部長・下稲葉本部長・田ノ上副本部長・後藤事務局長

小池事務局次長 計 11 名

時 間	部 署	テーマ
14:00～14:05	開会挨拶	
14:05～14:13	①栄光会訪問看護 ステーション	「訪問看護でのフットケア」 ～尿素クリームを使用し胼胝や鶏眼を改善した事例～
14:15～14:23	②4 B 病棟	「点滴実施忘れをなくそう！」 ～ミキシング台の配置・伝票確認方法の見直し～
14:25～14:33	③栄光会 ケアプランサービス	「特定事業所医療介護連携加算算定をめざして！」
14:35～14:43	④外来	「予約票の改訂」 ～みんなの作業を楽にしたい！～
14:43～15:00	休憩	
15:00～15:08	⑤栄光会ヘルパー ステーション	「ご利用者へのメンタル面のフォローについて」
15:10～15:18	⑥地域協働部	「これからの介護予防について」
15:20～15:28	⑦3 A 病棟	「在宅退院を希望した患者を調べて見えてきたこと」 ～実際の退院を振り返って～
15:30～15:38	⑧薬剤課	「当院入院患者における、オレキシン受容体拮抗薬 （レンボレキサント錠）の不眠症改善効果の評価」
15:38～16:00	講評	

※なお、審査採点の結果、最優秀賞：外来

優秀賞：栄光会ヘルパーステーション、優秀賞：栄光会ケアプランサービス
が表彰された

■ 院内研修会 実施状況

栄光これから研修会

月	日	研修会名	講 師	受講者数
5	1 2	『認知症ケアについて』	大野 脳神経内科部長	2 8 2
6	2	『医療安全』	鎌倉 副センター長	2 7 8
8	4	『医薬品の取扱いについて』	澁江 薬剤師	2 2 8
9	1	『感染対策』	感染防止対策室 野田職員	2 7 5
1 2	1	『医療機器の安全管理』	日本光電 安全管理部	2 7 4
1	1 7	『感染対策』	安藤 内科部長	2 7 7
2	7	『医療安全』	吉田 副院長	2 6 5

新入職員研修

4	1	『感染管理』（新入職員研修）	下稲葉（道）副看護部長	2 8
4	1	『医療安全』、『臨床倫理』	吉田 副院長	2 5
4	1	『消防訓練』	安川 総務・システム支援課長	3 1

その他

8/18	『ハラスメント』	2 4 4
10/25	『防災講習』	

■ 看護部 院内研修

看護部 教育計画（院内研修）

実施月	モニター担当	研修テーマ	講師
5月	3 A	看護必要度	eラーニング
7月	3 B	事例から考える臨床倫理 (がん末期の患者、最期の場面をどこで迎えるか)	eラーニング
8月	2 C	倫理② 看護職のための臨床倫理と意思決定支援 ～事例から考える立ち止まる倫理～	eラーニング
10月	4 B	落ち着いてクレームに対応するためのポイント	eラーニング
2月	訪問看護	虐待から患者を守る	eラーニング

師長（管理研修）

実施日	5月 10日	6月 7日	7月 5日	8月 2日	8月 30日	9月 27日
	10月 25日	11月 29日	12月 27日	1月 31日	2月 7日	2月 21日
	2月 28日					

■ 看護部 院外研修参加報告 2021年4月～2022年3月

部署	日付	主催	テーマ	参加数
2 C	5/22	日本ホスピス緩和ケア協会 九州支部	これからの緩和ケアを考える ～アンケート調査結果を手掛かりとして～	1
	5/30	渡辺式家族看護研究会九州支部	「渡辺式」家族アセスメント／支援モデルを使ってみよう	1
	7/4	日本緩和医療学会	第31回日本緩和医療学会教育セミナー	1
	11/21	九州メディカルサービス（株）	弾性着衣とリンパ浮腫	1
	11/4	久留米大学病院緩和ケアセンター	痛みの治療に使用する薬剤 ～オピオイドをはじめとした薬剤選択のポイント～	1
	12/4.5	日本死の臨床研究会全国大会	暮らしの中にある看取りへ	3
	1/13	久留米大学病院緩和ケアセンター	「痛みのアセスメントとケア」 ～ケアに繋げるポイント～ 看護ケアの実践 ～リラクゼーション／マッサージ／リハビリの導入症例～	1
	2/11	「渡辺式」家族看護研究会 福岡支部	家族ケア困難事例について	2
3 A	10月	日本看護協会	褥瘡	1
	12/4,5	日本死の臨床研究会	第45回日本死の臨床研究年次会	1
	3/10	久留米大学緩和ケア研究会	未成年の子どもをもつがん患者と子どもへのケア	1
	7/6	日本看護協会	災害看護～現場で災害が起こったら～	1
	4/17, 18 5/15	ライフ・プランニング センター	リンパ浮腫研修 試験	1
	6/18, 19	日本緩和医療学会	第26回日本緩和医療学会学術大会	1
	1/30	日本緩和医療学会	第32回日本緩和医療学会教育セミナー	1
	2/19, 20	日本がん看護学会	第36回日本がん看護学会学術集会	1

	9/28, 29	日本看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1
	10/14, 15	日本看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1
3 B	5/30	ZOOM	渡辺式事例検討会	7
	8/4	ZOOM	死の臨床渡辺式WS 事前事例検討会	8
	9/28, 29	看護協会	認知症	1
	10/9	聖マリア	「医療界に広がるユマニチュードを語る」	1
	11/21	(株) エクサウィザーズ	ユマニチュード入門	1
4 A	4/14	L i f e S c a n J a p a n	新たな血糖変動指標 Time in range と S M B G の活用について	1
	4/26	ノボノルディスクファーマ株式会社	G L P 1 受容体作動薬を活用した糖尿病治療	1
	4/30	S S K セミナー	排泄ケアと退院支援	1
	5/16	一般社団法人看護支援協会 B O C プロバイダー事務所	B O C プロバイダー認定資格講座	1
	5/17	日総研	病院機能評価 (3 r d G) 受審のポイント	1
	5/18	マルホ (株)	在宅・高齢者施設でよくみる湿疹・皮膚炎の治療戦略	1
	5/28	コンバテック	地域で支える創傷ケア	1
	6/8	メディバンクス(株) 3 M ジャパン	創傷スキンケア W E B セミナー 褥瘡発生危険因子の I A D とそのケア	1
	6/10	福岡看護協会	コロナ禍で実践する正しい感染防止対策	7
		福岡看護協会	看護実践に活かすリスクマネジメント	1
	6/11	粕屋糖尿病懇談会・粕谷医師会・ノボノルディスクファーマ(株)	C D K を合併した糖尿病患者の血糖コントロール	1
	6/24	博多フットケアカンファレンス・福岡医師会・小野薬品工業(株)	心不全治療における S G L T 2 阻害薬の位置づけ・整形外科による糖尿病・重症虚血性足の足病変治療の取り組み	1
	6/26	福岡糖尿病セミナー・福岡医師会・ノボノルディスクファーマ(株)	第 6 7 回福岡糖尿病セミナー	1
	7/1	ナースの星	低栄養 フレイルリスクの対応	1
	7/4	国立がん研究センター	第 2 回認知症の緩和ケア研究会	3

	7/6	福岡看護協会	心電図に強くなろう	2
		福岡看護協会	現場で役に立つ褥瘡ケア基礎編	1
	7/8	福岡看護協会	排泄を支える看護①排便障害	2
	7/13	筑紫医師会・ノボノルディスクファーマ(株)	第49回筑紫糖尿病・内服アーベント	1
	7/16	福岡看護協会	看護過程と看護記録	2
	7/18	メンリッケ	メンリッケセミナー オンラインで学ぼう	1
		メンリッケヘルスケア	今だから見直そう！創傷治療のコスト 明日から使える！ドレッシング材使用のタイミング	1
	7/20	福岡看護協会	人工呼吸器に強くなろう	1
	7/21	パラマウントベッド	床ずれ対策WEBセミナー明日から実践、床ずれ・スキンケア対策	1
	7/24・25	日本糖尿病協会	第8回日本糖尿病療養指導学術集会	2
	7/28	ノボノルディスクファーマ(株)	経口GLP1製剤で糖尿病治療をより早くより強く	1
	8/10	(株)やさしい手	第32回地域連携退院支援研究会セミナー 訪問看護ステーションで行うターミナルケアと意思決定支援	1
		福岡看護協会	災害看護 現場で災害が起こったら	2
		コンバテックジャパン	アクアセルAg使用における在宅ケアの実践	1
	8/11	アボットジャパン	摂食嚥下とポジショニングセミナー	1
	8/19	福岡看護協会	排泄をささえる看護②排尿障害	1
	8/21	アルケア	ストーマケア	2
	8/28	アボットジャパン	ストレス高血糖とは	1
	8/30	ナースの星	第3弾WEB退院支援塾1回目	1
4B	6/10	eラーニング	経口摂取を支える口腔健康管理と食事介助方法	1
	6/12	不明	フィジカルアセスメント基礎編：呼吸器循環器	1
	7/6 8/10	看護協会	現場で役立つ褥瘡ケア：基礎編	3
	7/6	日本ACLS	BLSプロバイダーコース	1

	7/8	eラーニング	オーラルフレイル	1
	7/16	ネスレ	チームで取り組む排便ケアメリッド	1
	7/16	看護協会	看護過程と看護記録	1
	7/17	日本難病看護学会	第26回日本難病看護学会学術集会	1
	7/17	日本エンドオブライフケア学会	第5回非がん疾患のエンドオブライフケアセミナー	1
	7/18	日本難病看護学会	第26回日本難病看護学会学術集会	1
	7/18 8/27	メンリッケヘルスケア	今だから見直そう創傷治療のコスト 明日から使えるドレッシング材使用のタイミング	3
	7/20	不明	フィジカルアセスメント基礎編：脳神経腹部	1
	7/25	m h a n k	基礎から学んで実践アドバンスケアプランニング～その人らしく 充実した人生を送れるように支援しましょう～	1
	7/30	福岡東方PD連携Webセミナー	神経難病	1
	8/2	eラーニング	食事のお世話	1
	11/10	九州大学病院看護キャリアセ ンター	安全な呼吸管理について	2
	12/15	メンリッケセミナー	皮膚科医が解説 創傷ケアと観察のポイント	1
	2/10	スミスアンドネフェー	DESIGN-R2020をケーススタディを 通して学ぼう	1
	2/15	パラマウントベッド	明日から実践 OHスケール活用による床ずれ対策	2
	不明	看護協会	看護に活かすフィジカルアセスメントⅡ 循環・脳神 経系	1
	11/10	九州大学病院	安全な医療機器使用について	1
	1/22	看護 r o o i	症例で分かる 臨床ですぐに役立つ心電図セミナー 基礎編1	1
	1/28	看護 r o o i	症例で分かる 臨床ですぐに役立つ心電図セミナー 基礎編2	1
	2/7	看護 r o o i	症例で分かる 臨床ですぐに役立つ心電図セミナー 基礎編3	1
	9/3	ネスレ	専門職だからこそ押さえておきたい食支援の基本	2
	9/3	eラーニング	口腔ケア	1
	10/5	eラーニング	誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア	1
	10/5	eラーニング	これからの栄養サポート	1

	9/25	ネスレ	経腸栄養分野の誤接続防止コネクタの導入	1
	10/20	看護協会	現場で役立つ 褥瘡ケア基礎編	1
	11/19	ネスレ	高齢者に必要な経腸栄養半固形栄養の選び方	1
	9/7	在宅ケア移行支援研究所	第三段Web退院支援塾2回目	1
	9/22	在宅ケア移行支援研究所	第三段Web退院支援塾3回目	1
	9/22	プロバイダー公式グループ	白ごま油の勉強会	1
	9/25	日本老年看護学会	認知症高齢者の治療とケアを多職種チームと共に ～せん妄予防の観点から～基礎編	2
	10/6	在宅ケア移行支援研究	第三段Web退院支援塾4回目	1
	10/9	看護協会	地域包括ケアに向けて在宅看護の現場から	1
	10/18	看護協会	看護職が行う入退院支援調整	1
	10/27	在宅ケア移行支援研究所	第3段Web退院支援塾5回目	1
	11/1	看護協会	災害看護 現場で災害が起きたら	1
	11/1	看護協会	最新の心不全看護	1
	11/3	看護協会	心電図に強くなろう	1
	11/6	日総研グループ	漏れないストーマケアの具体策 予防とトラブル対策	1
	11/9	さわやか	看護師のための認知症ケア集中セミナー	1
	11/12	看護協会	現場で役立つ 褥瘡ケア応用編	1
	11/27	老年看護学会	認知症高齢者へのせん妄予防ケア	1
	12/4	日総研	令和4年度診療報酬規程方向性の予測と看護部としての対応策	1
	1/29・30	老年看護学会	ELNEC—J高齢者カリキュラム	1
	2/3	アボットジャパン	栄養ケアと退院支援～継続ケアの視点から考える～	1
	2/18	アボットジャパン	食べるを支える 在宅における栄養管理と摂食嚥下支援	1
	3/1	日総研	令和4年度診療報酬改定 答申内容の解釈と看護部としての対応策	1
	3/12	NPO法人ホスピスのこころ 研究所	日本のホスピス50周年記念シリーズ講演会 還りみて、今ホスピスのこころに寄せて	1

5 A	6/12	看護協会	コロナ禍で実践する正しい感染防止対策	1
	8/25	回復期リハビリテーション病棟	看護・介護 10 か条に込められた意味	1
	6/10	看護協会	看護実践に活かすリスクマネジメント	1
	7/6	看護協会	心不全看護	1
	7/18	メンリッケヘルスケア	今だから見直そう創傷治療コスト	1
	9/9	看護協会	看護現場に活かすファシリテーション技術	1
	9/22	看護協会	脳卒中看護の基本	1
		エムハंक	認知症せん妄の看護	1
	7/6	看護協会	現場で役立つ褥瘡ケア基礎編	1
	5/28		急性期ケアから地域ケアまで活動を通して感じるケアポイント あなたならどうする？褥瘡ケアへ事例をみんなで考えましょう	1
外来	6 月	看護協会	コロナ禍で実践する正しい感染予防対策	2
	6/12	内視鏡技師会	内視鏡学会	4
	7 月	看護協会	現場で役立つ褥瘡ケア	2
	7 月	看護協会	心電図に強くなろう	1
	7 月	看護協会	高齢者の End of life care	1
	7 月	看護協会	コロナ禍で実践する正しい感染防止対策	1
	7 月	看護協会	フィジカルアセスメント	1
	9 月	看護協会	心電図に強くなろう	1
	10 月	看護協会	看護実践に活かすリスクマネジメント	1
	10 月	看護協会	最新の心不全看護	1
	11 月	九州メディカルサービス	実践に役立つ圧迫療法	1
	11 月	九州大学病院	安全な呼吸管理について	1
	2/12		ハラスメント防止研修	1
	2/12		個性を伸ばす教育	1
	2/12		臨床判断能力の育成に向けたシミュレーション	1

	2/12		ICT 時代に求められる看護実践能力	1
	2/22	九大病院	がんセミナー	1
訪問 看護	6 月～	看護協会	訪問看護師養成講習会（新任期）	1
	6/26	コンバテック オンラインセ ミナー	在宅現場で今、起こっている！ 複雑な問題を抱えるストマ管理	1
	6/18	パラマウントベッド	床ずれ対策WEBセミナー	1
	6/16	メディベックス（株） WEBセミナー	地域包括ケア時代の在宅医療、多職種連携 「最期まで住みなれた地域・自宅で」	1
	6/10～	看護協会WEBセミナー	フィジカルアセスメント基礎編～脳神経・腹部	2
	7/3	看護協会WEBセミナー	看護実践に活かすリスクマネジメント	1
	7/28・29	看護協会WEBセミナー	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的 知識～	1
	8/11	看護協会WEBセミナー	家族看護～家族に向き合う力を高めよう～	1
	6/22	看護協会	看護研究コース 公開研究①	1
	8/17	看護協会	看護研究コース 公開講座②	1
	7/8	看護協会	排泄を支える看護①排便障害へのケア	1
	8/19	看護協会WEBセミナー	排泄を支える看護②排尿障害へのケア	1
	9/16	看護協会	Win-winの交渉術～交渉を心から楽しもう	2
			第35回日本がん看護学会	1
			日本看護サミット2021	1
			死の臨床渡辺式WS 事前事例検討会	1
			がん性疼痛の看護ケア～入院から在宅まで～	1
	9/28. 29	看護協会WEBセミナー	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2
			訪問看護事業所におけるBCP	1

対外研修の状況

■ 栄光ホスピスセミナー これまでの歩み

1986年4月の開院当初より、特別医療法人 栄光会 栄光病院では終末期医療に取り組んでまいりました。そして、1989年5月、当院ホスピス3年間の経験を踏み台とし、さらに多くの方々の現場でのご経験を提供していただき、ホスピスケアの確立・充実をめざして学問的にそして实际的・具体的に研鑽に励み末期がん患者とその家族の生活の質を高めることに寄与することを目的として「栄光ホスピス研究会」を設立し、セミナーを開催してまいりました。

	演題 又は テーマ	講師 (敬称略)	その他	参加人数
第1回 89.5.20	医の心 福岡亀山栄光病院ホスピスの3年	脇坂 順一 久留米大学名誉教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	VTR「忘れ得ぬ人」	261
第2回 89.7.15	がん告知は いま	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	看護婦・患者・患者家族・牧師 弁護士の立場よりの発表	84
第3回 89.9.2	医師として 末期医療(ホスピス)に どのようにかわるか	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	37
第4回 89.12.9	ホスピス～全人格的ケア 4つの痛みはどう應えるか 末期医療ケアの現状と今後の課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島 正治 厚生省健康政策局 保健医療技術調整官		230
第5回 90.2.3	ホスピスにおける看護婦の役割	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「病院紹介」 症例発表・質疑応答	118
第6回 90.3.24	残される者へのグリーフケア	河野 友信 死の臨床研究会幹事 都立駒込病院内科心身医療科医長	募集演題発表 4例	82
第7回 90.6.23	がんを病む心・仕える心 －がん患者の心理をめぐって－	牛島 定信 福岡大学精神医学教室教授	発表 患者・家族・看護婦の 立場より	158
第8回 90.9.8	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について 癌性疼痛とその対策	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 檀 健次郎 福大医学部麻酔科教授	VTR「栄光病院ホスピス案内」 (医師部会)	27
第9回 90.11.10	危機的状況にある 患者・家族の理解と援助	小島 操子 聖路加看護大学教授	発表 VTR「だからみんなで」	123
第10回 91.2.23	患者の家族としてホスピスに何を望むか	患者家族 4名	VTR「いのち輝いて」	64
第11回 91.6.29	安らかな人生最後の日々のために ホスピスにおける精神的援助	ホスピス医・看護婦・患者家族・牧師よりの 発表	VTR「いのちの旅人」	120
第12回 91.10.19	チーム・アプローチと看護 看護の心 期待される看護婦像	海尾 弘 栄光病院看護士長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	124
第13回 91.12.14	ホスピスのめざすところ ・ホスピスに期待するところ	患者家族・MSW・チャプレン・ホスピス医	事例検討 VTR	107
第14回 92.3.7	がん告知の理論と実際 －どのように告知するか－ がん告知と精神的援助 －どのように援助するか－	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師	募集演題 2例 事例検討	95
第15回 92.5.9	相即の医療 －死の彼方よりの医療－	藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「われらの困難は天にあり」	93
第16回 92.7.25	痛みの看護	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「がん病棟24時間」 事例検討	112
第17回 92.10.16	人間の幸福をめざす医療	柏木 哲夫 淀川サト教病院副院長 小島 操子 聖路加看護大学教授 佐藤 智 ライオンシステム代表幹事	(第16回死の臨床研究会 記念講演会)	多数
第18回 92.11.14	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について モルヒネによる疼痛コントロールの実際 －非経口的使用法を中心に－	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	28
第19回 93.3.27	不二の人生に関わって －精神的援助のあり方を考える－	森山 健也 栄光病院協力牧師	事例検討 VTR「主よあなたがともに」	157
第20回 93.7.24	ホスピスケアの理論と実際	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 海尾 弘 栄光病院看護士長	症例検討 VTR「主よあなたがともに」	203
第21回 93.9.18	医療現場における思いやり・ 優しさとは何か ホスピスのめざすところ ホスピスにおける宗教的援助の役割 ホスピスにおける看護婦の役割	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「ホスピス・ナースの一日」 事例検討	420
第22回 93.11.5	がん疼痛の鎮痛薬による 効果的治療法のABC	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長		386
第23回 94.3.26	QOL向上をめざす全人格的ケアを ホスピスケアの内容と課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川サト教病院名誉ホスピス長	VTR「主よあなたがともに」	439
第24回 94.5.21	一般病棟でどのようにして ホスピスケアを実現できるか	栄光病院スタッフ	事例検討・意見交換 患者家族の発表	226
第25回 94.7.23	訪問看護婦から見た在宅ホスピス 在宅ホスピスを可能にする 要因を考える 行政側から見た終末期医療	高沢 洋子 淀川サト教病院 訪問看護ステーション 林 治子 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 田中 慶司 福岡県保健環境部長		434

第26回 94. 10. 28	インフォrmコンセプトとがん告知 がん告知、その理論と実際 がん告知、その精神的援助 がん告知、看護婦の役割 終口もは剤使用の理論と実際	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長 武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	事例発表	354
第27回 95. 2. 25	QOL向上をめざす全人格的ケアを -コミュニケーションをどのように- 全人的ホスピスケアの実践	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島美知子 ホスピタリズム中島医院院長		154
第28回 95. 5. 31	取材を顧みて ホスピスに生きて20年	迎 恵子 テレビ西日本報道部 チーフマネージャー・ディレクター 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「ありがとう幸せの日々を」 (TNCテレビ西日本制作)	317
第29回 95. 9. 8	ホスピスにおけるプライマリ・ナースの 症例発表-プライマリ・ナースの関わり-	大内 裕子 淀川キリスト教病院 ホスピス病棟婦長代理		189
第30回 95. 10. 30	モルヒネを使いこなそう -モルヒネ使用の理論と実際-	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	(医師部会)	193
第31回 96. 1. 26	ホスピス・ケアの実践 -全人的理解・全人的ケア-	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	症例発表	184
第32回 96. 5. 18	死を生きる -ホスピスケアに従事して-	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 河野 博臣 河野胃腸科外科医院院長	栄光病院開院10周年記念	399
第33回 96. 8. 3	癌末期患者の症状コントロール 癌告知はいかに	恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長		382
第34回 96. 10. 25	安楽死をどう考えるか 基調講演 シンポジウム	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 浜口 至 北九州がんを語る会 代表 阿蘇品スミ子 久留米大学医学部 看護学科助教授 森山 健也 栄光病院協力牧師 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士		325
第35回 97. 2. 1	在宅ホスピス-看取りを通して- 在宅医療におけるネットワーク活用について 在宅での看取り-訪問看護の実践から-	海尾 弘 栄光病院在宅看護士長 青戸 雄司 栄光病院内科部長 紅林 みつ子 訪問看護婦		256
第36回 97. 4. 19	死を受容し、安らかな死を迎えたある 癌末期患者への援助を通じて学んだこと ターミナルケアにおけるコミュニケーション	山田 由香里 福岡亀山栄光病院 緩和ケア病棟看護婦 青木 福代 トータル・カンセリング・スクールセミナー講師	VTR 供覧 「魂が癒されるその時まで」 福岡亀山栄光病院制作	235
第37回 97. 9. 13	ホスピス講習会 基調講演1 基調講演2 基調講演3 患者家族の体験談 特別講演・かけがえのない母を看取って	第一部 死にゆく人への心のケア 藤江 良郎 栄光病院理事長 森山 健也 栄光病院協力牧師 第二部 家族の悩み・家族への援助 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 池田 典子 患者家族 熊谷真実・松田美由紀 女優	症例発表 VTR 供覧 「幸福な死を迎えたい」 福岡亀山栄光病院制作	477
第38回 98. 1. 31	市民がホスピスに望むこと 一般病院におけるターミナルケア	波多江伸子 死生学者・作家 高宮 有介 昭和大学病院医師		151
第39回 98. 5. 23	栄光病院ホスピスを語る	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR 供覧 「いのちの質を求めて」 福岡亀山栄光病院制作	139
第40回 98. 9. 12	人生に有終の美を	日野原重明 聖路加国際病院・理事長		377
第41回 99. 3. 13	家族への援助-家族に聞く- 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 協力牧師 広瀬 典子 総婦長 青戸 雄司 内科部長 後藤 隆子 緩和ケア病棟婦長 平井 美幸 医療ソーシャルワーカー 松山やよい 患者家族 佐伯 洋文 患者家族		99
第42回 99. 5. 22	ターミナルケアにおけるがん告知について 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 朔 元則 九州医療センター外科部長 中村 浩子 患者家族 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士 森山 健也 香椎バプテスト教会牧師		132
第43回 99. 11. 13	ターミナルケアにおけるセデーション 基調講演 発表 発表	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 吉田 晋 栄光病院緩和ケア病棟医師 堺 千代 栄光病院緩和ケア病棟婦長		132
第44回 00. 02. 26	在宅で看取る 特別講演「在宅でこそ その人らしく」 症例発表「死を生き抜くということ」 特別講演「これからの高齢者医療・ 福祉と介護保険」	佐藤 智 ライフケアシステム代表幹事 崎田 雅子 ケア訪問看護ステーション訪問看護婦 荒瀬 泰子 福岡市保健福祉局高齢者部長		163

第45回 00.05.13	ターミナルケアにおける看護婦の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待する看護婦像」 発表「オーストラリア・ホスピス事情」 症例発表「拒否的な患者への 看護介入について」 特別講演「ターミナルケアにおける 家族への援助ーその危機介入ー」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 深田 美幸 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 小島 操子 大阪府立看護大学学長		302
第46回 00.09.01	ターミナルケアにおける医師の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待される医師像」 特別講演「がん疼痛治療における オピオイドと鎮痛補助薬の使い方」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長		106
第47回 01.03.10	スピリチュアルケア 基調講演「スピリチュアルケア」 シンポジウム「スピリチュアルケアの実際」	窪寺 俊之 関西学院大学神学部教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 清田 直人 栄光病院チャプレン 日野 晴廣 患者家族		229
第48回 01.6.16	家族への援助 基調講演「悔いの多い遺族・悔いの少ない遺族」 ～その援助の理論と実際～ 「最愛の夫をホスピスで看取って」 シンポジウム「家族への援助」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 高島 望子 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 堺 千代 緩和ケア病棟主任看護婦 清田 直人 栄光病院チャプレン 池田 典子 患者家族 高島 望子 患者家族		138
第49回 01.10.27	チームケアにおける看護婦の役割 一般病棟、緩和ケア病棟でターミナル期の 患者をケアするナースの持つニーズ ～その共通点と相違点～ オーストラリアにおける緩和ケア ～日本への提言～	Susan Lee 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 Susan Lee 栄光病院ホスピス長		午前の部 39 午後の部 156
第50回 02.03.02	福岡ホスピス・フォーラム ～死を見つめ、いのちを支えるホスピスケア 講演「死を見つめ、いのちを支えて」 ～ホスピス医として20年～ 講演「ホスピスで母を看取って」 独唱 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 挨拶 ピアノとヴァイオリンによる演奏 特別講演「ホスピスにおける霊的癒しと医学」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 松田美由紀 女優・患者家族 本田路津子 ゴスペルシンガー 長村 文夫 財団事務局長 良永季美枝 ヴァイオリニスト 松村えりか ピアニスト・患者家族 日野原重明 聖路加国際病院理事長		1950
第51回 02.06.08	ターミナルケア講習会 講演「癒し癒されること」 講演「ターミナルケアにおけるコミュニケーション」 事例検討「キーパーソン不在による 母親としての痛みを支えて」 分科会 a. 症状コントロール b. コミュニケーション c. スピリチュアルケア d. スタッフのケア	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 宮原 純子 緩和ケア病棟看護婦		午前の部 145 午後の部 93
第52回 03.01.18	いのちを看るホスピスケア 講演「死を見つめ いのちを支えて」 講演「海外看護留学」 ～オーストラリアの緩和ケアにふれて学んだこと～ 特別講演「いのちを看るホスピスケア」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 柏木哲夫 大阪大学大学院人間科学研究科教授		359
第53回 03.09.13	グリーフケア 講演「家族の悲しみ 医療者の悲しみ」 ～グリーフケアを通して学んだこと～ 講演「お父さん 大好きです」 特別講演「喪失と悲嘆：その理解」	下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 的場章子 患者家族 リンダ・エスピー女史 グリーフケアカウンセラー (通訳:下稲葉かおり)		301
第54回 04.01.17	緩和ケア・コンサルトナースの役割 事例発表「積極的な除痛を拒み 「痛みをとらないで」と訴えた 患者の関わりを振り返って」 特別講演「緩和ケア・コンサルトナースの役割」	田村和恵 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 レイリオン・リーズ女史 (通訳:下稲葉かおり)		113
第55回 04.06.19	実りある家族援助のために 講演「癒し癒されてーホスピスの現場からー」 特別講演「実りある家族援助のために」 ～カウンセリング的アプローチによる 援助を通して～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 田中信生 米沢興譲教会牧師 トータルカンゼンスクール主宰		292

第56回 05.03.05	今、死に対峙する人と共に 記念講演「死に対峙する絶望を支えられるか ーホスピス医として20余年ー 発表「死の臨床における宗教的援助の役割」 記念講演「医療の本質とは」 ー癒し癒され、癒されつつ癒すー	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤江 良郎 栄光病院理事長	日本死の臨床研究会 九州支部第16回研究 集会と共催	252
NP0法人 設立記念 フォーラム 05.06.18	記念式典 記念リサイタル 講演「ホスピスのめざすもの～癒しのホスピス」 記念講演「ホスピスケアを支えるいのち」	千住真理子 ヴァイオリニスト 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木哲夫 金城学院大学学長 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長		372
第57回 06.03.04	栄光病院ホスピスを語る 【第一部】 ホスピス医として ホスピスにおけるMSWの役割 ホスピスにおけるリハビリテーションの役割 患者家族として 1 ホスピスの心ーホスピス長としてー 病棟案内 (VTR供覧) 【第二部】 家族看護に必要とされる予期的悲嘆への援助 ホスピスにおけるチャプレンの役割 ホスピスにおける栄養士の役割 患者家族として 2 栄光病院ホスピスを語るー理事長としてー	吉田 晋 栄光病院ホスピス医長 麻生 直子 栄光病院MSW 林 邦男 栄光病院理学療法士 原田 公栄 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 「幸福な死を迎えたい」 石津 暁子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤川富佐子 栄光病院栄養士 徳永 悦子 患者家族 藤江 良郎 栄光病院理事長		218
第58回 06.09.30	世界ホスピスデー 福岡ホスピスフォーラム 福岡県における終末期医療に対する取り組み ー在宅ホスピスケアの普及に向けてー ホスピスの歴史、現状、将来展望 ホスピスにおけるスピリチュアルケア	岡本 浩二 福岡県保健福祉部 理事兼医監 柏木 哲夫 金城学院大学学長 沼野 尚美 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長 六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー		122
第59回 07.03.10	こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 心のホスピス・コミュニケーションの心 栄光病院ホスピスを語る～コミュニケーション こころの聲に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 「『もう死にたい』と訴えた患者と その家族との関わりを振り返って」 こころの聲に寄り添って～チャプレンの立場から～	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 吉田 晋 栄光病院ホスピス長代理 赤司 宏子 栄光病院ボランティア 中島 祐子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン		129
第60回 07.10.20	福岡ホスピスフォーラム (世界ホスピスデー2007) ホスピス その傾向と対策 ー栄光病院ホスピスの現場からー やすらぎコンサート “生き方”としてのホスピス	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 Shana 原麻由子 (オカリナ) / 原健太郎 (ギター) 柳田 邦男 ノンフィクション作家・評論家		413
第61回 08.03.08	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 終末期における意思決定の際の 医療者と患者のコミュニケーション スタッフのケア	Susan Lee 明治大学看護学科シニアレクチャー 下稲葉かおり 明治大学看護学科レクチャー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	159
第62回 08.10.25	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) グリーフケア～今、一番伝えたいこと～ 生と死 いのちに寄り添うこと 星の会との出会いを通して ～ともに感じるひとときを～ グリーフケアを考える ～ちいちゃんの歩みをとおして～ 悲しむ人と共に	武田康男 北九州市立総合療育センター歯科部長 金城亜紀 九州大学病院口腔外科歯科医師 須堯晴美 星の会 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	247
第63回 09.03.14	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「チームアプローチ」 ホスピスは やはりチームケア 症状マネジメントの考え方の基本 どのように患者さんに説明するか どのように家族を援助するか どのように心の不安に向き合うか	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 下稲葉順一 栄光病院ホスピス医長 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		101
第64回 09.10.24	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「かけがえのない今を生きる」 ～がん終末期患者を支えるとは～ 「緩和ケア認定看護師への道」 ～よりよい看護をはぐくむために～ 「死について考える」 ～オーストラリア・心のケア教育プログラムに参加して～	山岡憲夫 やまおか在宅クリニック院長 梅野理加 栄光病院ホスピス病棟看護師主任 部屋和子 栄光病院ホスピス病棟看護師主任		217
第65回 10.03.13	全人的ケア ワンポイントレクチャー 「ホスピスの奥の奥に迫る」 症状コントロール 「ホスピスにおける注射鎮静剤の使い方」 コミュニケーション 「『山紫水明』 心をときはなつ」 家族への援助 「家族の悲嘆を支えるケアについて考える」 スピリチュアルケア 「『スピリチュアリティ』に迫る」	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 工藤涼子 栄光病院ホスピス看護顧問 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		120

第66回 10. 09. 25	(栄光ホスピス実践セミナー2010②合同開催) ホスピスにおけるスピリチュアルケア 「魂の叫びを聴く～ホスピスケアの心～」 シンポジウム: 「温かいもてなし」ホスピスの心で ～栄光ホスピスにおけるスピリチュアルケアの実践～	窪寺 俊之 下稲葉順一 江崎 美子 篠崎智恵子 清田直人	聖学院大学大学院教授 栄光病院ホスピス医長 栄光病院看護師 栄光病院音楽療法士 栄光病院チャプレン・グループカウンセラー		284
第67回 11. 09. 17	(栄光ホスピス実践セミナー2011②合同開催) 子どもの命のそばで 「子どもの命のそばで」 「小児ホスピス 私達にできる事・できた事 ～小児科のない当院での関わりを通して～」 「子どもをなくすということ」 「親・きょうだいをなくした子どもたちに寄り添う ～サポートグループの立場から～」	細谷 亮太 下稲葉順一 吉原良子 大井 妙子	聖路加国際病院 副院長・小児総合医療センター長 栄光病院ホスピス医長 NPO法人SIDS家族の会 副理事長・九州地区代表リーダー たんぼぼの会		157
第68回 12. 10. 27	(栄光ホスピス実践セミナー2012②合同開催) 認知症を抱え、生きるということ 「認知症を抱え、生きるということ」 シンポジウム 「あるがままを見つめて ～認知症を抱えて、生きる人とともに～」	大谷るみ子 中尾美也子 永富ひとみ 亀割 圭子	グループホームふあみりえ ホーム長 栄光病院ホスピス医師 栄光病院ホスピス棟看護師 いやしの家施設長		141
第69回 13. 11. 23	(栄光ホスピス実践セミナー2013②合同開催) 「人をお世話するという生き方」 「こころの通うホスピスケア ～患者さんが教えてくれたこと～」	池永 昌之 下稲葉かおり	淀川キリスト教病院ホスピス・ 子どもホスピス病院副院長 モナシュ大学看護助産師学科 レクチャー・博士		165
第70回 14. 9. 13	メインテーマ「出会いたいのに ありがとう」 「置かれたところで咲く」 「死を想え ～ホスピス患者さんは私の人生の大先輩～」	渡辺 和子 下稲葉康之	ノートルダム清心学園理事長 栄光病院理事長・名誉ホスピス長		335
第71回 15. 2. 7	メインテーマ「チームアプローチのちから 2」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		58
第72回 15. 10. 24	メインテーマ「聴くことのちから」 「聴くことのちから」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	久保 千春 福永 頼子 村勢加寿代 清田 直人 林 邦男 徳永 悦子	九州大学 総長 栄光病院ホスピス医 栄光病院ホスピス棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院理学療法士 栄光ひまわり会（ご遺族の会）		143
第73回 16. 2. 27	メインテーマ「チームアプローチのちから 3」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		62
第74回 16. 9. 3	メインテーマ「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 シンポジウム 「癒し癒されて」 ～患者さん・利用者が教えてくれたこと～	小澤 竹俊 中尾美也子 小宮 真美 田ノ上 剛 藤田 望美	めぐみ在宅クリニック 院長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長 栄光病院ホスピス棟看護師 栄光会介護事業本部 課長 特別養護老人ホームこころ生活相談員		142
第75回 17. 2. 25	メインテーマ「ホスピスってなあに？」 ～いのちに寄り添うホスピスケア～ 1) 栄光病院ホスピスのご紹介 2) ホスピス病棟での生活とは？ 3) 入院費はどれ位かかる・・・？ 4) 実は ホスピスでもリハビリします！ 5) 在宅でホスピス緩和ケアを受けるには？	下稲葉順一 杉山小百合 増田こずえ 林 邦男 中尾美也子	栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス棟看護師 栄光病院医事課課長 栄光病院リハビリテーション課課長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長		104
第76回 17. 11. 25	メインテーマ「今、ホスピス緩和ケアに想うこと」 特別講演「ホスピス緩和ケアのこころを深める 講演「ホスピス わが人生道場」 講演「聴く心」 講演「ホスピス緩和ケア」 ～ありがたい『いのち』と共に～	柏木哲夫 下稲葉康之 下稲葉かおり 下稲葉順一	淀川キリスト教病院 理事長・名誉ホスピス長 栄光病院会長・名誉ホスピス長 モナシュ大学看護助産師学科講師・博士 栄光病院ホスピス長		318
第77回 18. 2. 24	メインテーマ「ホスピスの心で看取る」 講演「ホスピスの心で看取る」 ～ホスピスマインドに満ちた老健施設を目指して～ 発表「暮らしの継続とは～看取りの不安から見えてきたこと 発表「在宅ターミナルケア」 ～本人の思いに寄りそう看護ケア～	中尾美也子 安河内貴代 関 恵美子	介護老人保健施設五島福寿園 医師 特養こころエトリ・介護福祉士 栄光会栄光訪問看護ステーション管理者		120

第78回 18.11.17	メインテーマ「悲しみとともに生きること」 講演「いのちと歩む」 ～かたること・みつめること・あゆむこと～ 発表「子どもたちを亡くしてから30年のあゆみ」 講演「being with: 悲しみとともに」	武田 康男 新生児口腔ケア研究会代表 田村 千早 下稲葉かおり 明治大学看護助産師学科講師・博士		126
第79回 19.3.2	メインテーマ「ホスピスケアの目指すもの」 ～病院と在宅の連携の先に～ 講演「病院と在宅の連携について」 ～納得した看取りが出来るように～ 発表「在宅に向けての支援」 ～安心して在宅で過ごすために～ 発表「家で最期まで過ごしたい」 ～一人で過ごすためにはどのようなサポートが必要だろう～	中堀 亮一 わかばクリニック 院長 矢羽田有希子 栄光病院患者サポートセンター MSW 西尾 雅代 在宅医療センター栄光／ ホスピス地域連携室 看護師		86
第80回 20.1.18	メインテーマ「栄光ホスピスのこころ」 基調講演「栄光ホスピスのこころ」 ～関わる全ての方の幸せの 小さなきかけになる働きを目指して～ 講演①「栄光ホスピスの伝承」 講演②「ホスピスナースとして大切にしている事」 講演③「老健で『いのちの質』を考える」	下稲葉順一 栄光病院 ホスピス長 福德 雅章 函館おしま病院 理事長・院長 堺 千代 大分ゆふみ病院 看護師長 中尾美也子 介護老人保健施設五島福寿園 医師		161

※2020年度、2021年度はコロナ禍により栄光ホスピスセミナーは実施せず

■ 院外からの研修

令和3(2021)年度

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
1	7/7(水)	14:30-16:20	ホスピス研修【オンライン】	福岡高校	34名
2	9/1(水) - 9/14(火)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
3	9/15(水) - 9/30(木)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
4	10/1(金) - 10/15(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
5	10/14(木)	13:30-16:00	ホスピス研修【オンライン】	唐津看護専門学校	33名
6	10/18(月) - 10/29(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
7	10/21(木)	13:30-16:00	ホスピス研修【オンライン】	佐世保市医師会看護専門学校	22名
8	11/1(月) - 11/15(月)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
9	11/16(火) - 11/30(火)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名

社会医療法人・社会福祉法人 栄光会 年報
第 22 号

2022 年 6 月 28 日発行

発行者 社会医療法人・社会福祉法人 栄光会

編 集 社会医療法人 栄光会 本部事務局

総務・システム支援課

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15

電話 092-935-0147

FAX 092-936-3370

URL <https://www.eikoh.or.jp/>

E-mail eikoh@eikoh.or.jp

理念
～癒し癒される～

私たちは“『こころ』も『からだ』もともに癒され
しあわせに生きる医療・看護・介護”を
目指しています



栄光会グループ

<https://www.eikoh.or.jp/>